

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全に お使いいただくために	
運転する前に	26
安全なドライブのために	28
シートベルト	30
SRS エアバッグ	35
ポップアップフード	43
排気ガスに対する注意	46
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	47
チャイルドシート	48
1-3. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの 特徴	68
ハイブリッドシステムの 注意	72
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	78

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	80
計器類	86
マルチインフォメーション ディスプレイ	90
エネルギーモニター／ 燃費画面／ ESPO 画面	104

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	110
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア	114
トランク	123
スマートエントリー& スタートシステム	131
3-3. シートの調整	
フロントシート	138
リヤシート	146
パワーイージーアクセス システム／ マイコンプリセット ドライビングポジション システム／ メモリーコール機能	152
リヤシートポジション メモリー	157
ヘッドレスト	159
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	161
インナーミラー	163
ドアミラー	165
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	168

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	174
荷物を積むときの注意	184

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	185
EV ドライブモード	191
トランスミッション	194
方向指示レバー	200
電動パーキングブレーキ	201
ブレーキホールド	207

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	210
AHS（アダプティブ ハイビームシステム）	214
フォグランプスイッチ	219
ワイパー & ウォッシャー	221
ヘッドランプクリーナー	227

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	228
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	232
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	237
LDA（レーンディパーチャー アラート [ステアリング 制御機能付き]）	247
レーダークルーズ コントロール （全車速追従機能付き）	256
BSM（ブラインド スポットモニター）	269
PKSA（パーキング サポートアラート）	276
クリアランスソナー	278
RCTA（リヤクロス トラフィックアラート）	288
ドライブモードセレクト	295
電子制御 エアサスペンション	297
運転を補助する装置	299

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	307
寒冷時の運転	309

5 室内装備・機能

5-1. リヤマルチ オペレーションパネル	
リヤマルチ オペレーションパネル	314
5-2. エアコンの使い方	
フロントオートエアコン	319
リヤオートエアコン	330
ステアリングヒーター／ シートヒーター／ シートベンチレーター	334
5-3. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	338
・インテリアランプ	339
・パーソナルランプ	340
・読書灯	340
5-4. 収納装備	
収納装備一覧	342
・グローブボックス	343
・コインホルダー	343
・コンソールボックス	344
・ドアポケット (フロント席)	345
・カップホルダー	346
・小物入れ	347
トランク内装備	349

5-5. その他の室内装備の 使い方

その他の室内装備	353
・サンバイザー	353
・バニティミラー	353
・アクセサリソケット	354
・アクセサリ コンセント	355
・充電用 USB 端子	356
・時計	358
・シートバックポケット (運転席側のみ)	358
・リヤアームレスト	358
・ライティングテーブル	359
・マガジンラック	359
・リヤドアカーテン	360
・電動リヤカーテン	361
・コートフック	364
・靴べら差し	364

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	366
内装の手入れ	371

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	381
ガレージジャッキ	384
エンジンルームカバー	385
ウォッシュ液の補充	387
タイヤについて	388
タイヤ空気圧について	398
エアコンフィルターの 交換	400
電子キーの電池交換	403
ヒューズの点検・交換	406
電球 (バルブ) の交換	410

7 万 one の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....	412
非常点滅灯 (ハザードランプ)	413
発炎筒	414
車両を緊急停止するには	416
水没・冠水したときは	417

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	418
警告灯がついたときは	425
警告メッセージが 表示されたときは	432
パンクしたときは (タイヤパンク応急 修理キット装着車)	437
パンクしたときは (スペアタイヤ装着車)	452
ハイブリッドシステムが 始動できないときは.....	462
電子キーが正常に働かない ときは.....	464
補機バッテリーが あがったときは	468
オーバーヒートした ときは.....	474
スタックしたときは	480

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	484
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	488
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	498
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	500
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	503
アルファベット順さくいん	505
五十音順さくいん	507

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・ナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・バックガイドモニター
- ・ETCシステム／ETC2.0システム
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

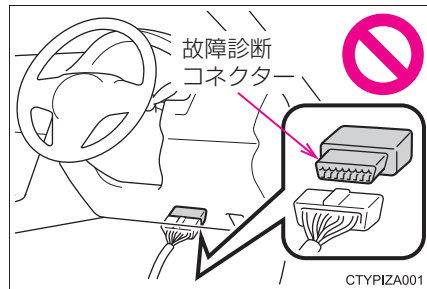
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついてます。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・ トヨタが訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



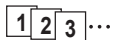
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

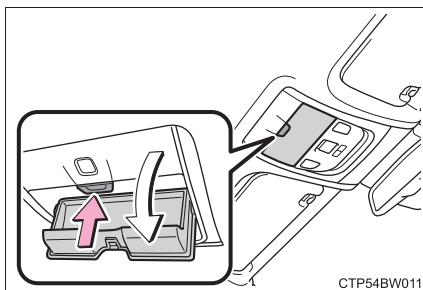
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

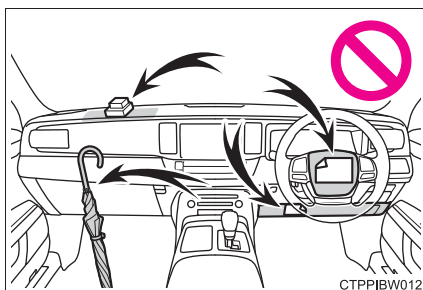
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



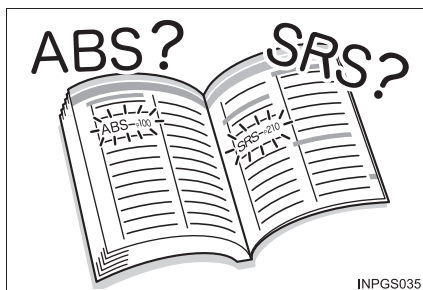
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

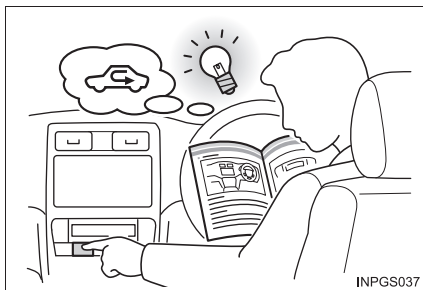
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん 507
- ・ アルファベット順
さくいん 505



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 12



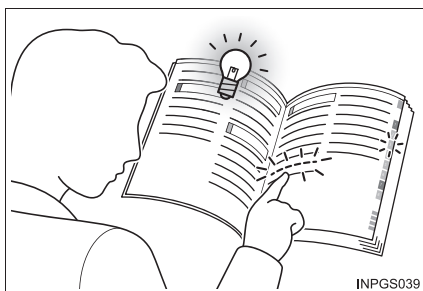
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん) 500
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん) 503



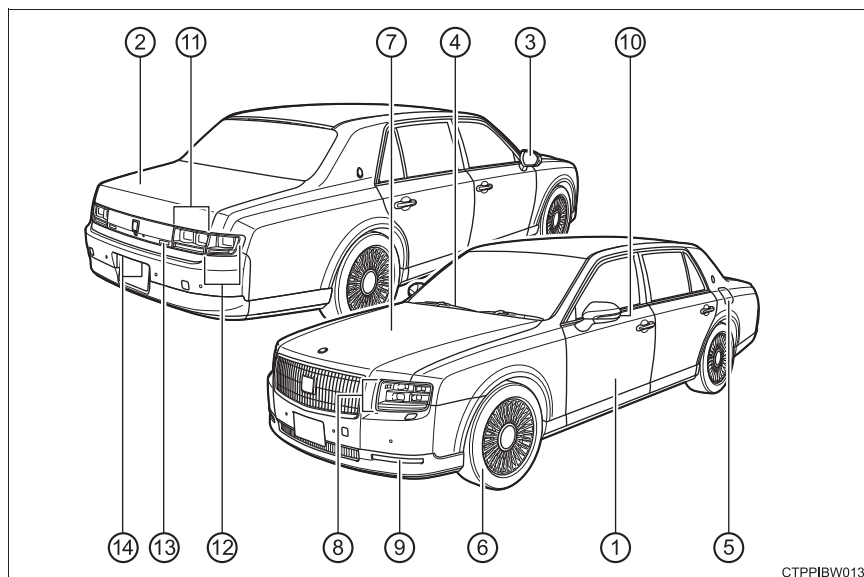
■ タイトルから探す

- ・ 目次 2



イラスト目次

■ 外観



CTPPIBW013

- ① **ドア**P. 114
 施錠／解錠P. 114, 116
 ドアガラスの開閉P. 168
 メカニカルキーでの施錠／解錠P. 464
- ② **トランク**P. 123
 車内から開けるP. 123
 車外から開けるP. 123
 メカニカルキーで開けるP. 465
- ③ **ドアミラー**P. 165
 鏡面の角度調整P. 165
 ミラーの格納P. 165
 調整位置の登録P. 152
 曇りを取る (ミラーヒーター)P. 324

- ④ **ワイパー**.....P. 221
 - 冬季の注意P. 309
 - 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★P. 325
 - 洗車時の注意P. 368
- ⑤ **給油口**.....P. 228
 - 給油方法P. 230
 - 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 484
- ⑥ **タイヤ**.....P. 388
 - サイズ・空気圧.....P. 487
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 309
 - 点検・ローテーション・空気圧警報システム.....P. 388
 - パンク時の対処.....P. 437, 452
- ⑦ **ボンネット**.....P. 381
 - 開け方.....P. 381
 - エンジンルームカバー.....P. 385
 - エンジンオイル.....P. 484
 - オーバーヒート時の対処.....P. 474

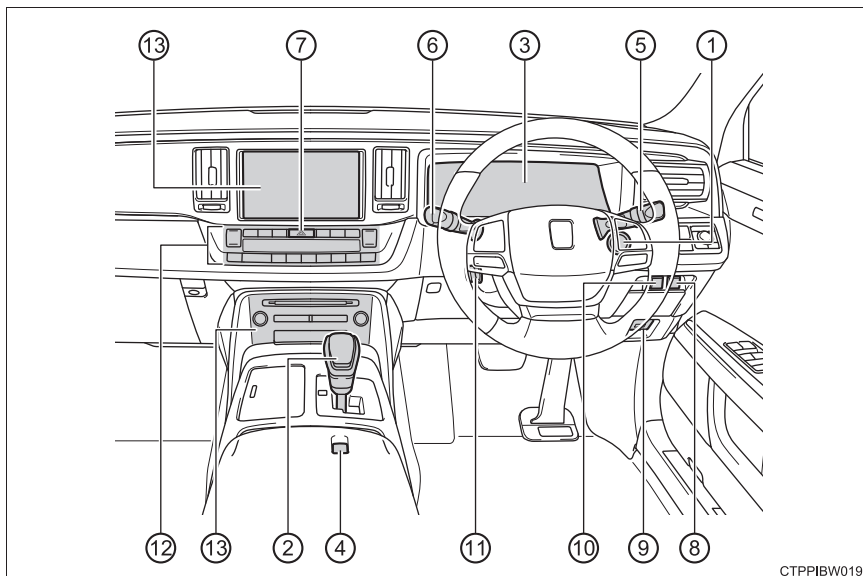
走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 410）

- ⑧ **ヘッドランプ・方向指示灯・LED デイライト・コーナリングランプ・車幅灯**.....P. 200, 210
- ⑨ **フロントフォグランプ**.....P. 219
- ⑩ **方向指示灯**.....P. 200
- ⑪ **尾灯・制動灯・リヤフォグランプ★**.....P. 210, 219
- ⑫ **尾灯・制動灯・方向指示灯**.....P. 200, 210
- ⑬ **後退灯**
 - シフトポジションを R にするP. 194
- ⑭ **番号灯**.....P. 210

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



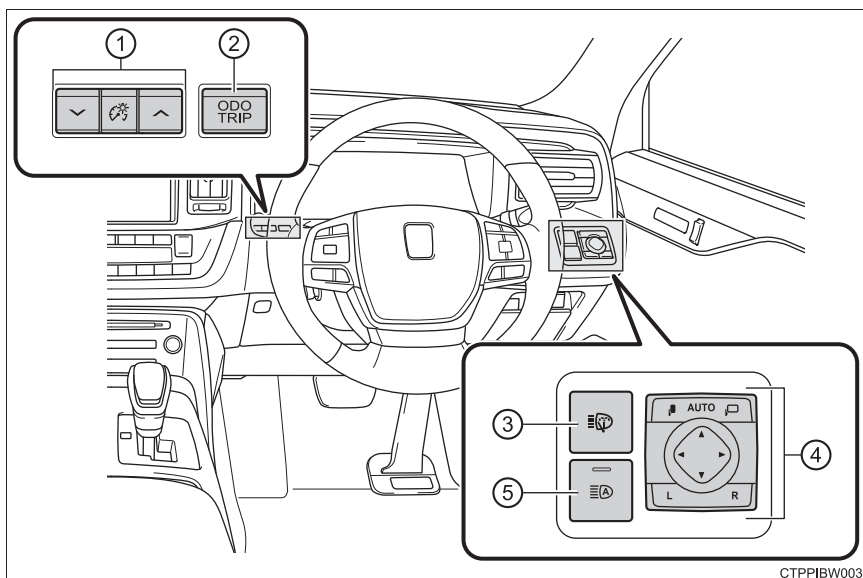
CTPPIBW019

- | | | |
|---|---------------------------------|---------------|
| ① | パワースイッチ | P. 185 |
| | ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ..... | P. 185 |
| | ハイブリッドシステムの緊急停止..... | P. 416 |
| | ハイブリッドシステムが始動できないときの対処..... | P. 462 |
| ② | シフトレバー | P. 194 |
| | シフトポジションの切りかえ..... | P. 194 |
| | けん引時の注意..... | P. 418 |
| | シフトレバーが動かないときの対処..... | P. 198 |
| ③ | メーター | P. 86 |
| | 見方・明るさの調整..... | P. 87 |
| | 警告灯／表示灯..... | P. 80 |
| | 警告灯点灯時の対処..... | P. 425 |
| | マルチインフォメーションディスプレイ | P. 90 |
| | 表示内容..... | P. 90 |
| | エネルギーモニター..... | P. 104 |
| | 警告メッセージ表示時の対処..... | P. 432 |

- ④ パーキングブレーキスイッチ.....P. 201
 - かける・解除する.....P. 201
 - 冬季の注意.....P. 310
 - 警告ブザー・警告メッセージ.....P. 205, 432
- ⑤ 方向指示レバー.....P. 200
 - ランプスイッチ.....P. 210
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト.....P. 210
 - フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★.....P. 219
- ⑥ ワイパー&ウォッシャースイッチ.....P. 221
 - 使い方.....P. 221
 - ウォッシャー液の補充.....P. 387
- ⑦ 非常点滅灯スイッチ.....P. 413
- ⑧ トランクオープナースイッチ.....P. 123
- ⑨ ボンネット解除レバー.....P. 381
- ⑩ 給油扉オープナースイッチ.....P. 230
- ⑪ ハンドル位置調整スイッチ.....P. 161
- ⑫ オートエアコン.....P. 319, 330
 - 操作方法.....P. 319, 330
 - リヤウィンドウの曇り取り
(リヤウィンドウデフォグガー).....P. 324
 - フロントワイパーデアイサー★.....P. 325
- ⑬ オーディオ※
 - 音楽を聴く※
 - 電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

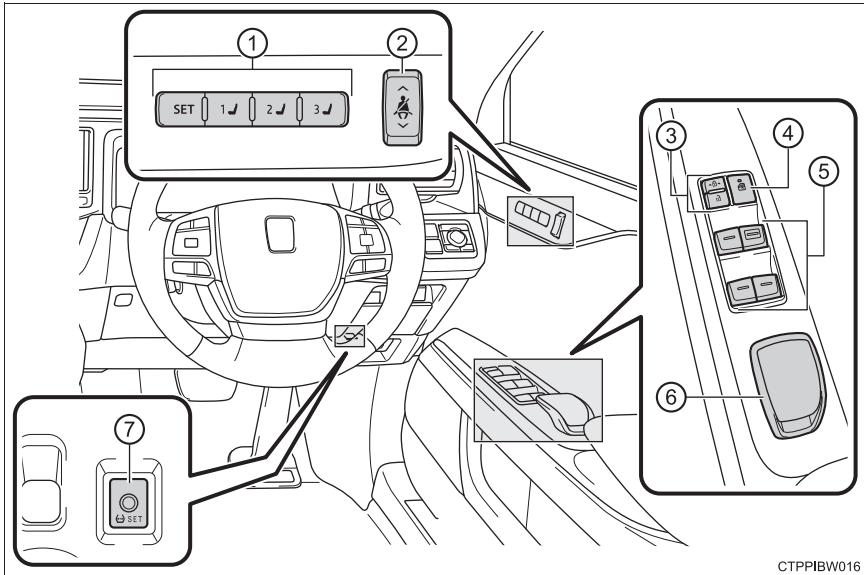
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類



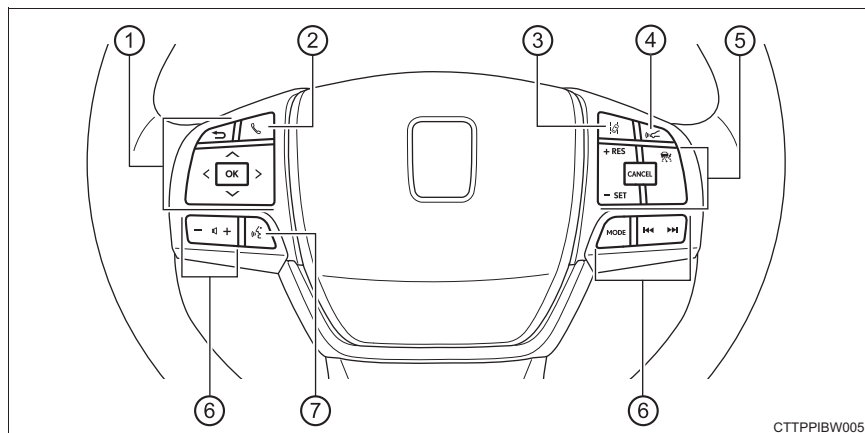
CTPPIBW003

- ① インストルメントパネル照度調整スイッチ.....P. 87
- ② ODO/TRIP スイッチP. 91
- ③ ヘッドランプクリーナースイッチP. 227
- ④ ドアミラースイッチP. 165
- ⑤ アダプティブハイビームシステムスイッチ.....P. 214



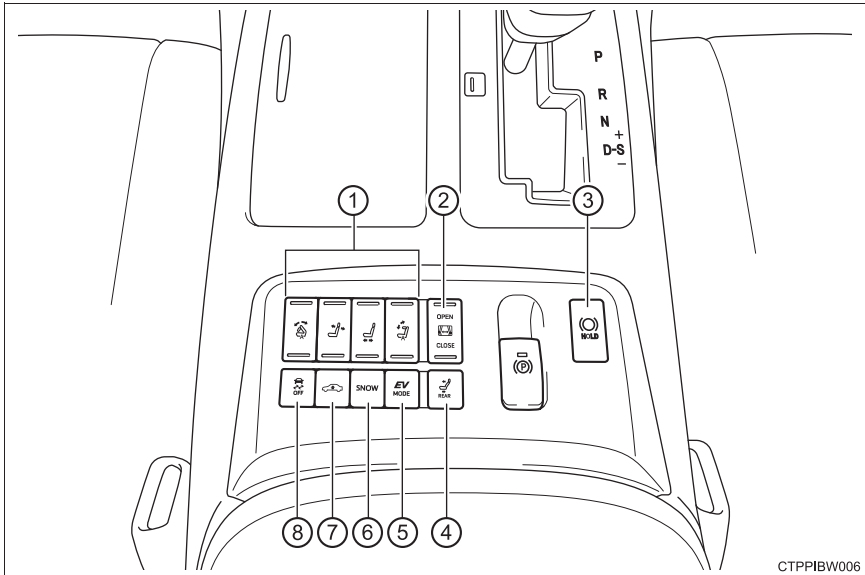
CTPPIBW016

- ① マイコンプリセットドライビングポジションシステム
スイッチP. 152
- ② シートベルト高さ調整スイッチP. 31
- ③ ドアロックスイッチP. 116
- ④ ウィンドウロックスイッチP. 169
- ⑤ パワーウィンドウスイッチP. 168
- ⑥ ドアハンドルP. 117
- ⑦ タイヤ空気圧警報リセットスイッチP. 390



CTTPIBW005

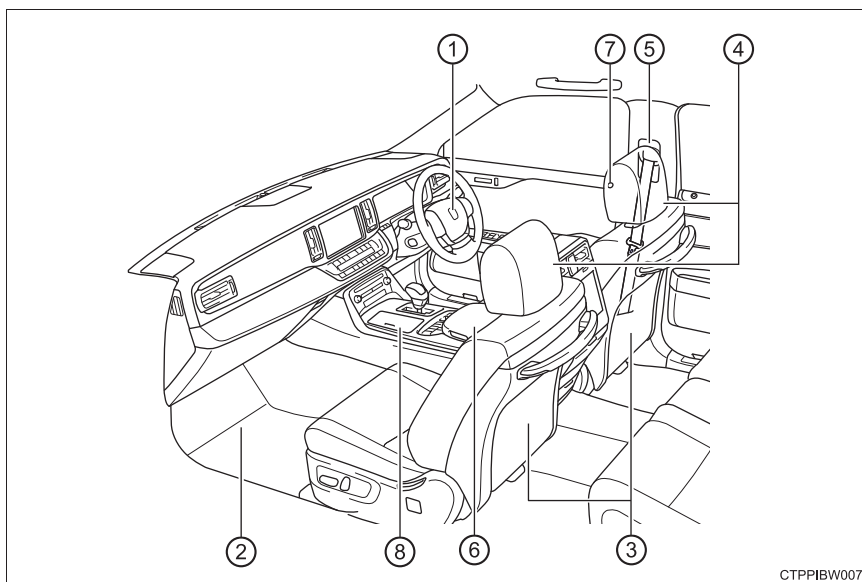
- ① メーター操作スイッチ.....P. 91
- ② 電話スイッチ ※
- ③ LDA (レーンディパーチャーアラート
[ステアリング制御機能付き]) スイッチP. 247
- ④ 車間距離切りかえスイッチP. 262
- ⑤ クルーズコントロールスイッチP. 256
- ⑥ オーディオスイッチ ※
- ⑦ トルクスイッチ ※



- ① 助手席パワーシートスイッチ.....P. 139
- ② 電動リヤカーテンスイッチ★P. 361
- ③ ブレーキホールドスイッチP. 207
- ④ リヤシート／アウトマン位置もどしスイッチ.....P. 149
- ⑤ EV ドライブモードスイッチP. 191
- ⑥ スノーモードスイッチ.....P. 195
- ⑦ 車高選択スイッチP. 297
- ⑧ VSC OFF スイッチP. 301

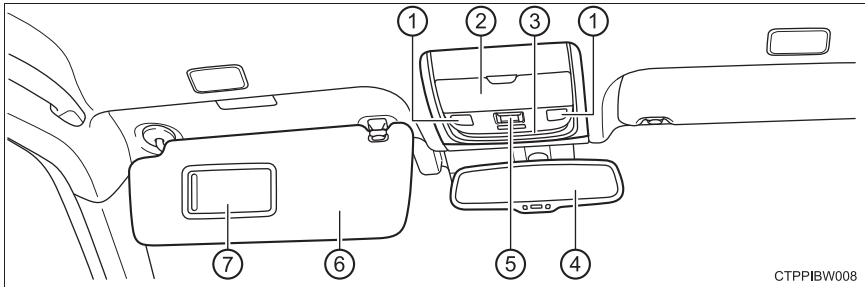
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
 ※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■フロント席



CTPPIBW007

- | | | |
|---|-----------|-------------|
| ① | SRSエアバッグ |P. 35 |
| ② | フロアマット |P. 26 |
| ③ | フロントシート |P. 138 |
| ④ | ヘッドレスト |P. 159 |
| ⑤ | シートベルト |P. 30 |
| ⑥ | コンソールボックス |P. 344 |
| ⑦ | ドアロックボタン |P. 116 |
| ⑧ | カップホルダー |P. 346 |



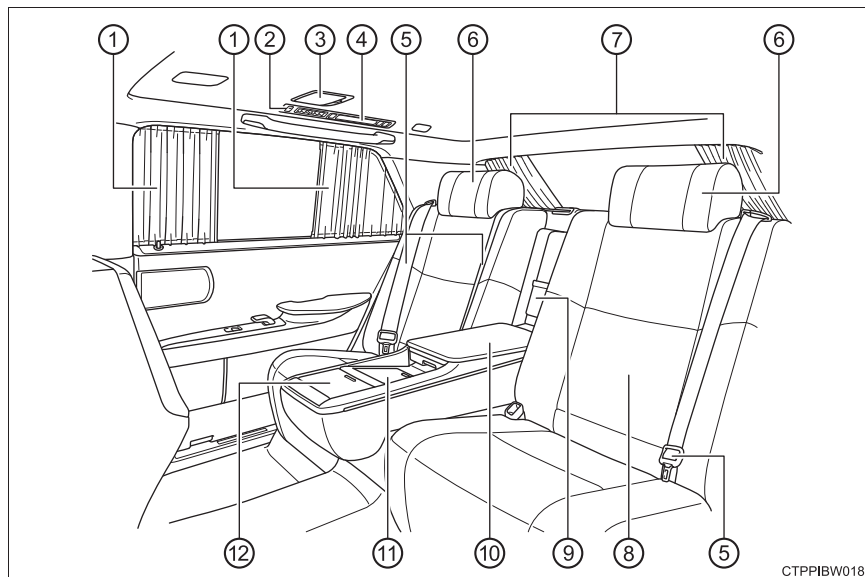
- ① パーソナルランプP. 340
- ② 小物入れP. 347
- ③ インテリアランプP. 339
- ④ インナーミラーP. 163
- ⑤ ヘルプネットスイッチパネル ※¹
- ⑥ サンバイザー ※²P. 353
- ⑦ バニティミラーP. 353

※¹ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※² : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P. 51)

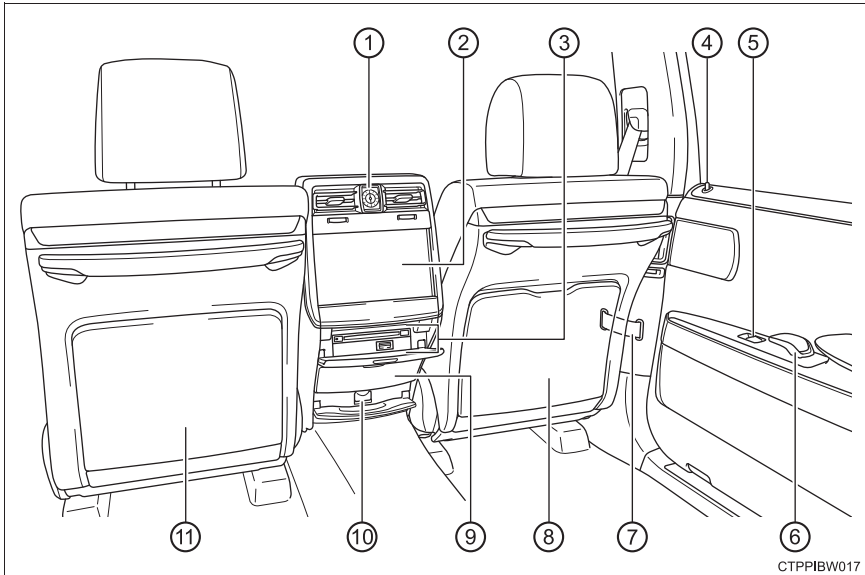


■ リヤ席



CTPPIBW018

- | | | |
|---|-----------------|--------|
| ① | リヤドアカーテン★ | P. 360 |
| ② | コートフック | P. 364 |
| ③ | バニティミラー | P. 353 |
| ④ | インテリアランプ | P. 339 |
| | 読書灯 | P. 340 |
| ⑤ | シートベルト | P. 30 |
| ⑥ | ヘッドレスト | P. 159 |
| ⑦ | 電動リヤカーテン★ | P. 361 |
| ⑧ | リヤシート | P. 146 |
| ⑨ | マガジンラック | P. 359 |
| ⑩ | アームレスト | P. 358 |
| | ライティングテーブル | P. 359 |
| | 小物入れ | P. 347 |
| | 充電用 USB 端子 | P. 356 |
| | HDMI 端子※ | |
| | ヘッドフォンジャック※ | |
| ⑪ | リヤマルチオペレーションパネル | P. 314 |
| ⑫ | カップホルダー | P. 346 |



CTFPBW017

① 時計P. 358
② 後席ディスプレイ*	
③ 後席ブルーレイディスク™ (BD)/DVD プレーヤー*	
④ ドアロックボタンP. 116
⑤ パワーウインドウスイッチP. 168
⑥ ドアハンドルP. 117
⑦ 靴べら差しP. 364
⑧ シートバックポケットP. 358
⑨ 小物入れP. 347
⑩ アクセサリーコンセントP. 355
⑪ オットマンP. 143

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
 ※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全に
 お使いいただくために
 - 運転する前に.....26
 - 安全なドライブのために28
 - シートベルト.....30
 - SRS エアバッグ.....35
 - ポップアップフード.....43
 - 排気ガスに対する注意46
- 1-2. お子さまの安全
 - お子さまを乗せるときは47
 - チャイルドシート.....48
- 1-3. ハイブリッドシステム
 - ハイブリッドシステムの
 特徴68
 - ハイブリッドシステムの
 注意72
- 1-4. 盗難防止装置
 - イモビライザーシステム78

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

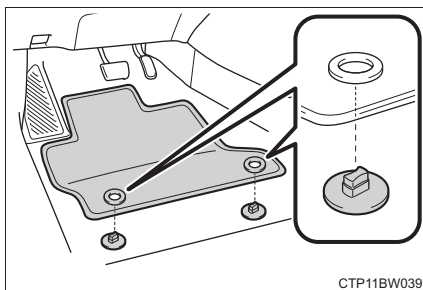
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

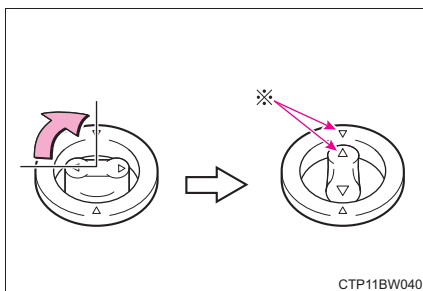
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

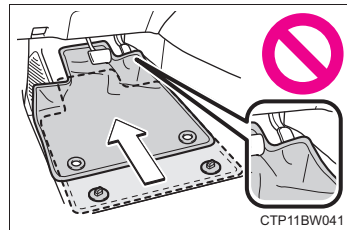
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

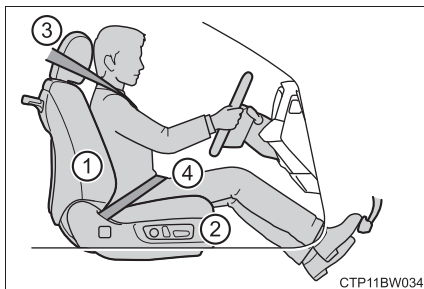


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する (→ P. 138)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする (→ P. 138)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→ P. 160)
- ④ シートベルトを正しく着用する (→ P. 30)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→ P. 30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 48)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 163, 165)

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

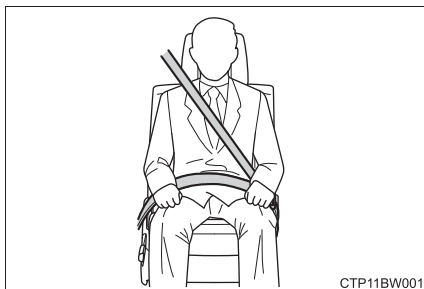
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

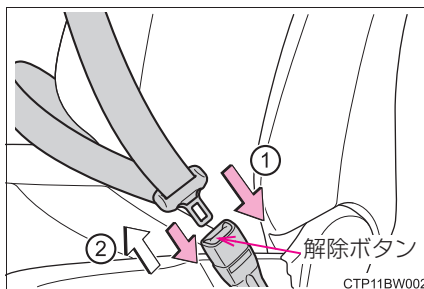
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



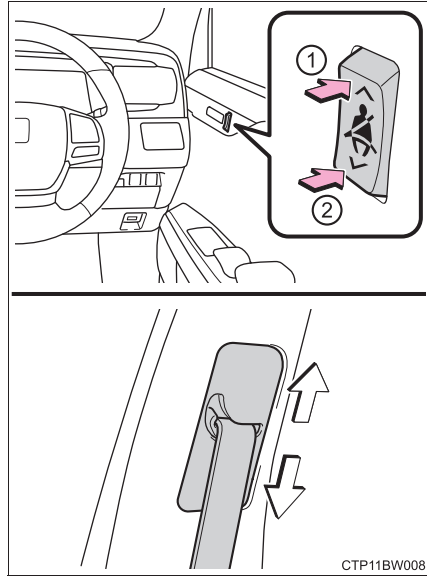
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（フロント席）

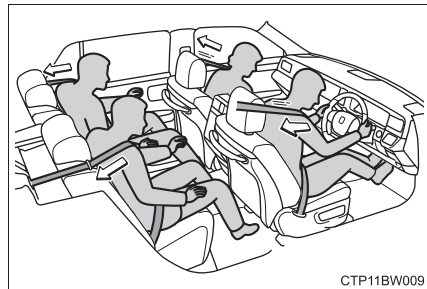
- ① アジャスターを上げる
- ② アジャスターを下げる



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



 知識**■ シートベルトロックの解除方法**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

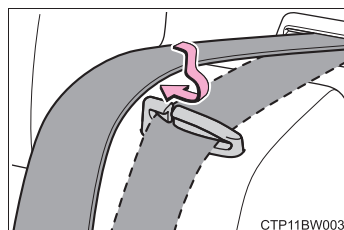
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 48)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 30)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ リヤ席シートベルトについて

シートベルトがガイドからはずれた場合には、ガイドに通してから使用してください。



警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

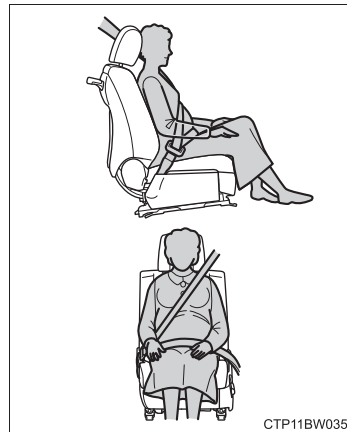
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイドに通っていることを確認する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

→ P. 63

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

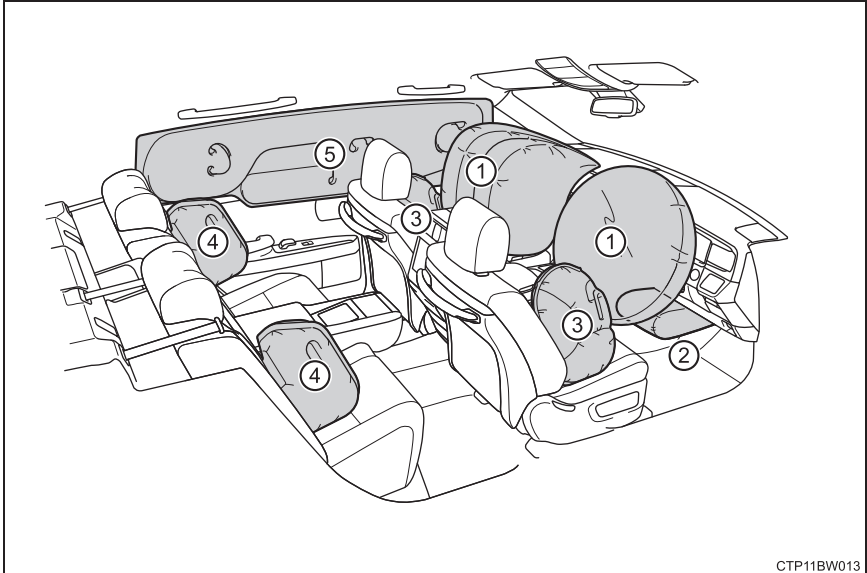
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS リヤサイドエアバッグ
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

警告

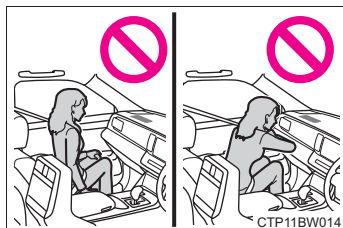
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

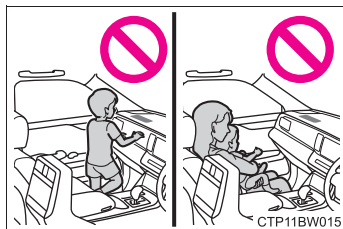
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 48)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

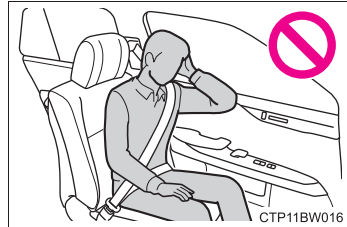


- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

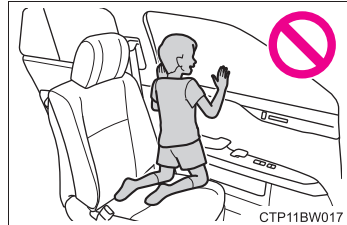



警告
■ SRS エアバッグについて

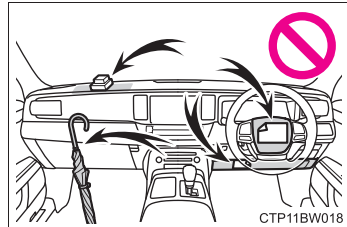
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



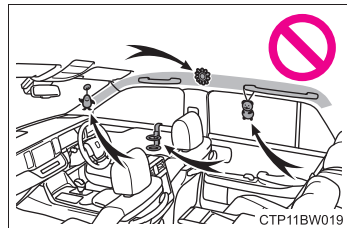
- 助手席やリヤ席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 444)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 413）
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

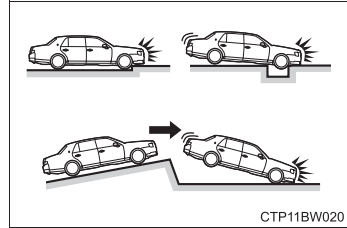
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

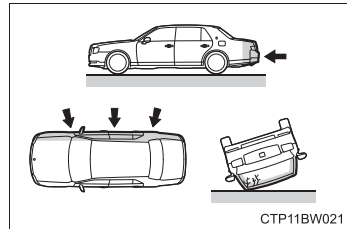
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

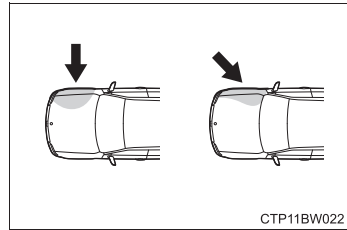
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

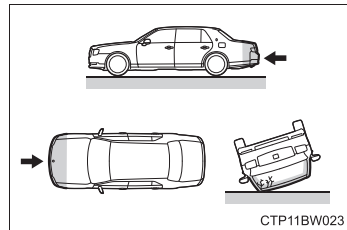
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



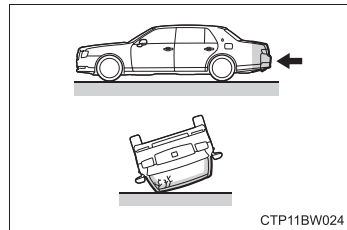
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

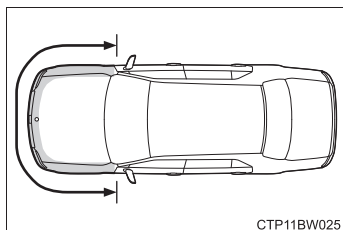
- 後方からの衝突
- 横転



■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

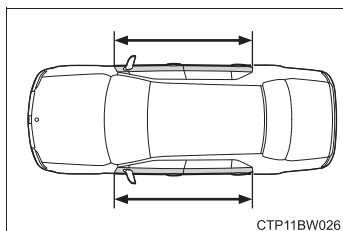
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



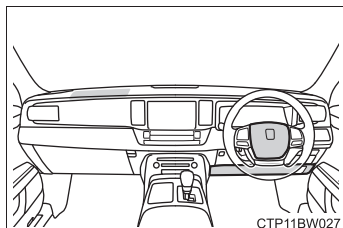
CTP11BW025

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



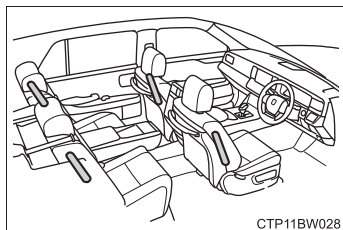
CTP11BW026

- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



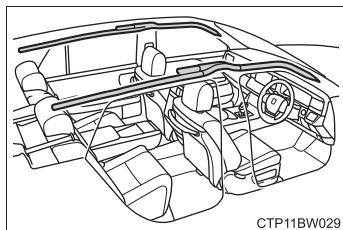
CTP11BW027

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



CTP11BW028

- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リアピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



CTP11BW029

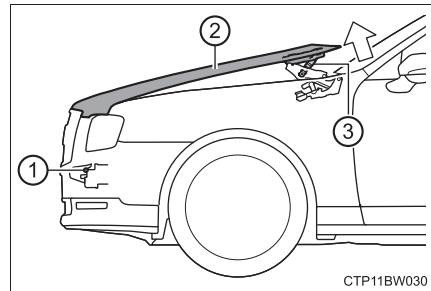
ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットの後方を持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏にあるセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットが持ち上がります。

システムの構成部品

- ① センサー
- ② ボンネット
- ③ リフター



 知識**■ポップアップフードについて**

- 廃車するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲(約 25 ~ 55km/h)での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき。(衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります)
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
 - ・ 縁石に衝突したとき
 - ・ 深い溝や穴に落ち込んだとき
 - ・ ジャンプして地面にぶつけたとき
 - ・ 駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■ポップアップフードが作動しにくいとき

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。
また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。
- 車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません

- 横たわっている歩行者に衝突したとき
- 作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき
- 横方向や後部から衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき(事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります。)

 警告

■ポップアップフードが作動したとき

- ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。
- ポップアップフードが作動したあとは、トヨタ販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。
- ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

 注意

■ポップアップフードについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。
- 4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧（→P. 487）で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かかぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにもものを取り付けしないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランクを閉じてください。

トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 48)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 118)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 169)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 48 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 48
チャイルドシートを使用するときは	P. 50
シート位置別チャイルドシートの適合性について	P. 53
チャイルドシートの取り付け方法	P. 61
・ シートベルトで固定する	P. 62
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	P. 64
・ トップテザーアンカレッジを使用する	P. 66

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 53)

 **警告****■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。(→ P. 53) 本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

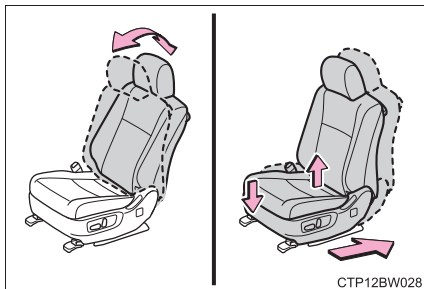
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれとチャイルドシート
の間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整する
- クッション前端をいちばん下に下げる



- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- シートベルトの高さをいちばん下に下げる (→ P. 31)
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

■ リヤシートにチャイルドシートを取り付けるとき

リヤシートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれをいちばんうしろに倒す
- ヘッドレストをいちばん低くし、いちばんうしろにする
- ランバーサポートをいちばんうしろに下げる



- 助手席の背もたれにあるオットマンを格納する

ドア連動シートリターン機能を OFF にしてください。(→ P. 315)

リヤシート/オットマン位置もどしスイッチを押さないでください。(→ P. 149)

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告**■チャイルドシートを使用するとき**

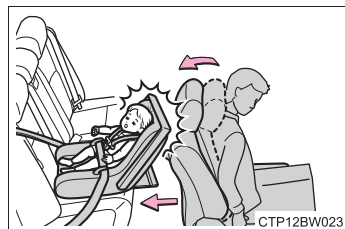
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 55）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 59）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44^{※1} または、UN (ECE) R129^{※1} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

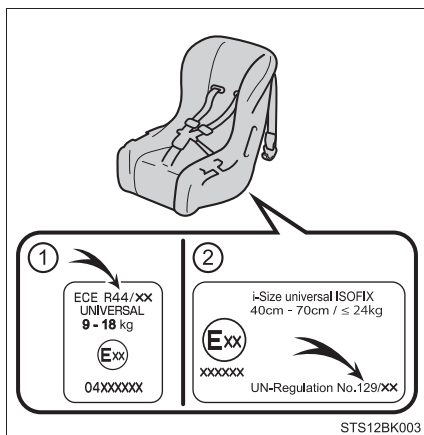
法規番号の表示例

① UN (ECE) R44 認可マーク^{※2}

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN (ECE) R129 認可マーク^{※2}

対象となるお子さまの身長^{※2}の範囲および使用可能な体重が記載されています。



^{※1} UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

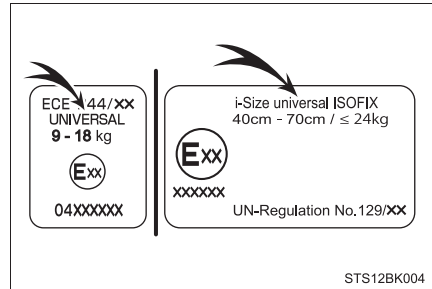
^{※2} 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

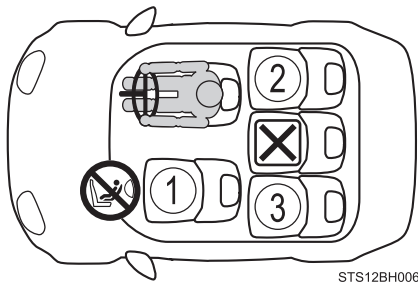
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。





また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



※1,2,3 ①	※4 UF
※1,2,5 ②	U L  
※1,2,5 ③	U L  



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 59）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。

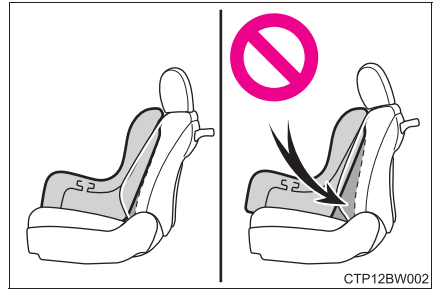


チャイルドシートの取り付けに適していません。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

- ※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- ※2 前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間ですき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



- ※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。
- ※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。
- ※5 ヘッドレストをいちばん低くし、いちばんうしろにしてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2）	×	R1、R2、 R2X	R1、R2、 R2X
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X、F2、 F3	F2X、F2、 F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2、B3	B2、B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

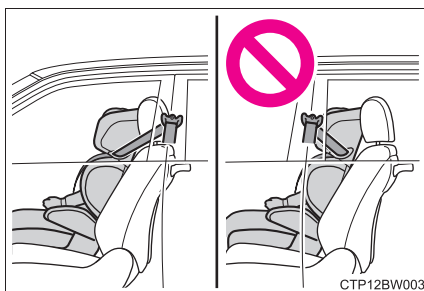
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	うしろ向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm (体重：15～36kg)	前向きのみ	×	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。




CTP12BW003

- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する	 <p style="text-align: right;">CTP12BW019</p>	P. 62
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 <p style="text-align: right;">CTP12BW020</p>	P. 64
テザーベルトを固定する	 <p style="text-align: right;">CTP12BW006</p>	P. 66

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

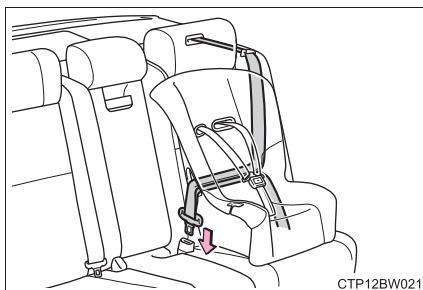
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 54, 55）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 50）
- 2 リヤシートを正しく調整する（→ P. 50）

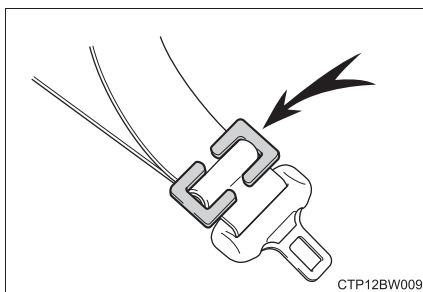
- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 63）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がる場合があります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。



警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

● シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

● チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

● チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

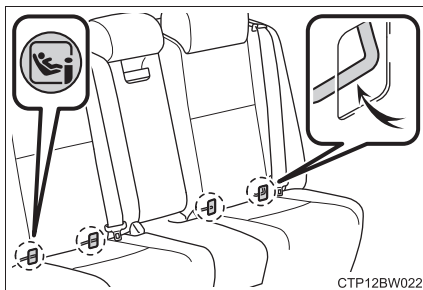
● ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

● 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)

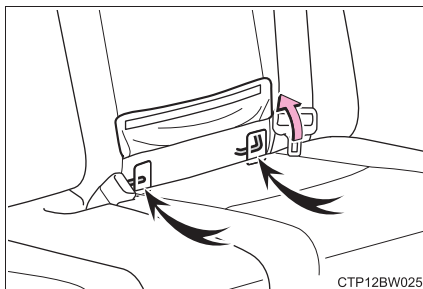


■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にある)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 54, 55)

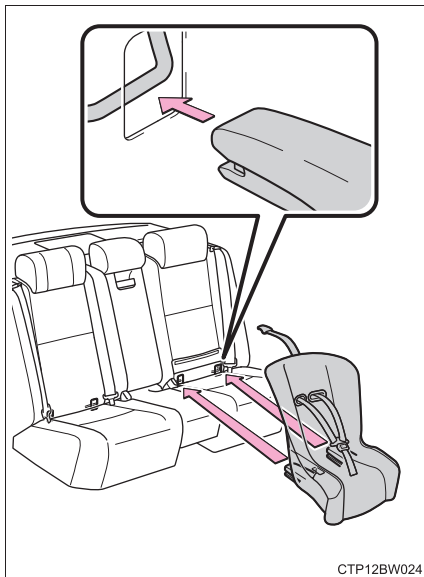
- 1 リヤシートを正しく調整する (→ P. 50)
- 2 カバーをめくり、ISOFIX ロアアンカレッジの位置を確認する



3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 63）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

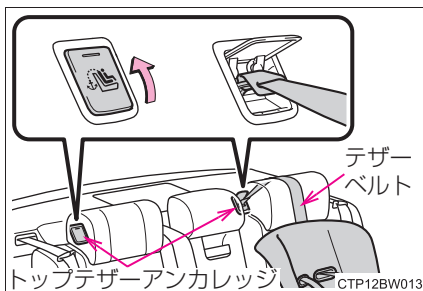
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



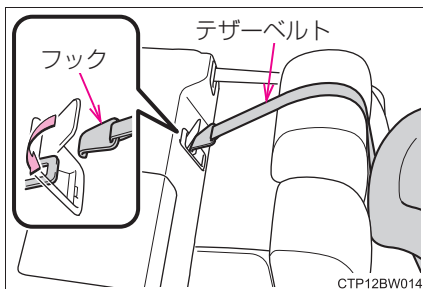
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 リヤシートを正しく調整する (→ P. 50)

2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 63)



 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

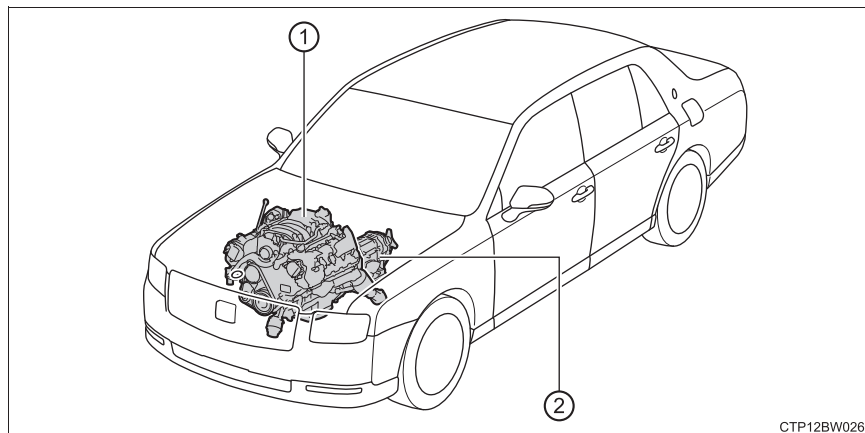
- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けしないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

 **注意****■トップテザーアンカレッジについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



CTP12BW026

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ガソリンエンジン
- ② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止[※]します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止[※]し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

[※] 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→P. 70)

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約25km/hをこえると消音します。

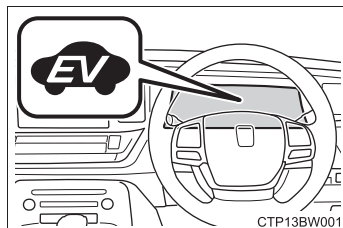
 知識**■ 回生ブレーキについて**

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離れたとき
- シフトレバーが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

**■ ガソリンエンジンの自動停止について**

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。*

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

* 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 470

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。

自動停止しない状態が2～3日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- トランクを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- 駆動用電池冷却用吸入口（→P. 73）から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなる場合があります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

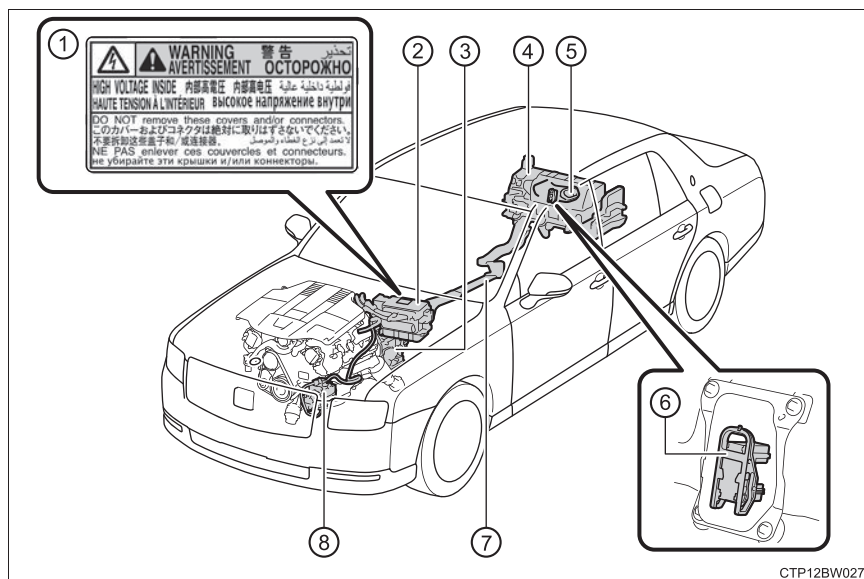
また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなる場合があります。

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

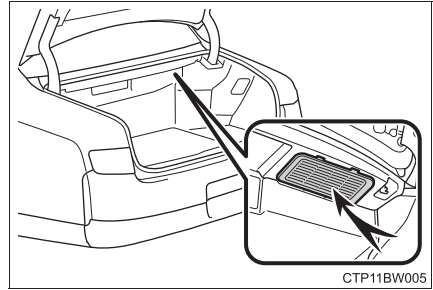


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① ラベル | ⑤ DC/DC コンバーター |
| ② パワーコントロールユニット | ⑥ サービスプラグ |
| ③ 電気モーター | ⑦ 高電圧ケーブル（オレンジ色） |
| ④ 駆動用電池 | ⑧ エアコンコンプレッサー |

駆動用電池冷却用吸入口

トランク内部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。



緊急停止システム

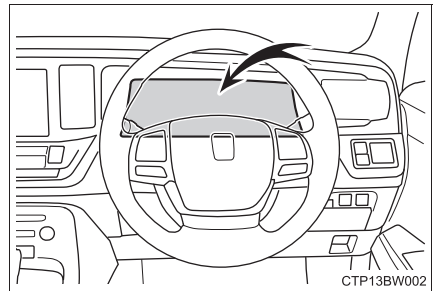
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。(→P. 432)



 知識**■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断られたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→ P. 427)が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量の目安は車両水平状態で約13L以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください)

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部(遠距離通信)において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

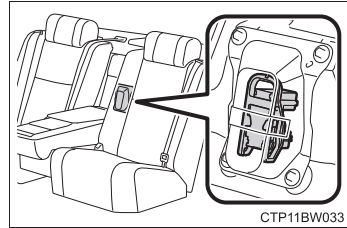
■ 適合宣言

この車両は、ECE100(バッテリー電気車両安全)に基づいた水素排出量に適合しています。

警告**■高電圧・高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグがリヤシート奥に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



CTP11BW033

 **警告****■事故が発生したとき**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 後輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 418）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

 **警告****■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

- 吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。
- 吸入口に水や異物を入れしないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

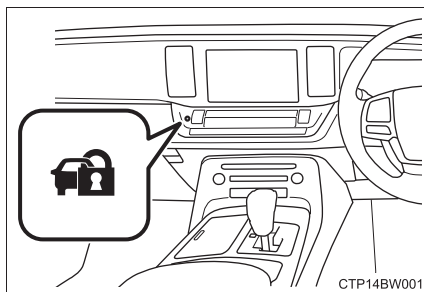
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリモードまたはONモードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

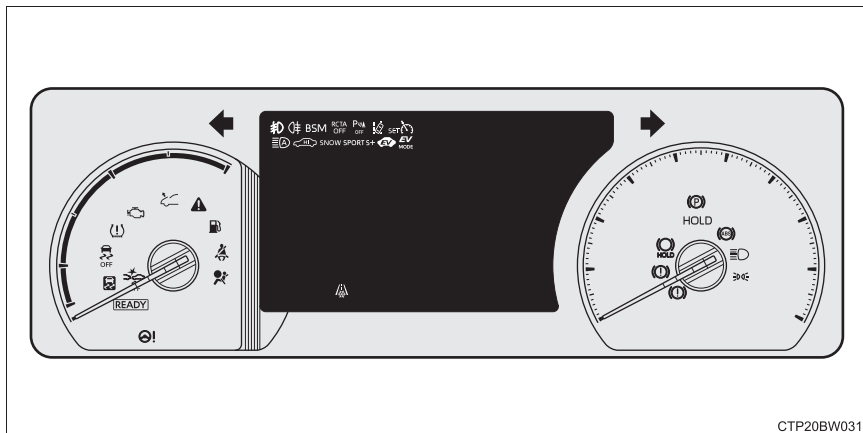
2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	80
計器類.....	86
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	90
エネルギーモニター／ 燃費画面／ESPO画面.....	104

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。




次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



CTP20BW031

警告灯一覧

万一のシステム異常などを警告します。

※1  (赤色)	ブレーキ警告灯 (→ P. 425)	※1  (赤色)	ABS & ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 426)
※1  (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 (→ P. 425)	※2 	ブレーキオーバライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 (→ P. 426)
※2 	高水温警告灯 (→ P. 425)	※1  (赤色)	パワーステアリング警告灯 (→ P. 427)
※2 	充電警告灯 (→ P. 425)	※1  (黄色)	パワーステアリング警告灯 (→ P. 427)
※2 	油圧警告灯 (→ P. 425)		燃料残量警告灯 (→ P. 427)
※1 	エンジン警告灯 (→ P. 426)		運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (→ P. 427)
※1 	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 (→ P. 426)	※1 	タイヤ空気圧警告灯 (→ P. 427)
※1 	ポップアップフード警告灯 (→ P. 426)	 (橙色)	LDA 表示灯 (→ P. 427)



クリアランスソナーOFF表示灯 (→ P. 427)



パーキングブレーキ表示灯 (→ P. 428)



RCTA OFF 表示灯 (→ P. 428)



ブレーキホールド作動表示灯 (→ P. 428)



PCS 警告灯 (→ P. 428)



マスターウォーニング (→ P. 429)



スリップ表示灯 (→ P. 428)

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 200)



クルーズコントロールセ
ット表示灯 (→ P. 256)



尾灯表示灯 (→ P. 210)



LDA 表示灯 (→ P. 251)



ハイビーム表示灯
(→ P. 211)



LDA 表示灯 (→ P. 251)



AHS 表示灯 (→ P. 214)



LDA 表示灯 (→ P. 251)



フロントフォグランプ表示
灯 (→ P. 219)



BSMドアミラーインジケー
ター (→ P. 269)



リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 219)



BSM 表示灯 (→ P. 269)



PCS 警告灯
(→ P. 237)



クリアランスソナー OFF 表
示灯 (→ P. 279)



クルーズコントロール表示
灯 (→ P. 256)



RCTA OFF 表示灯
(→ P. 289)












レーダークルーズコント
ロール表示灯 (→ P. 256)



スリップ表示灯
(→ P. 301)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1, 2 	VSC OFF 表示灯 (→ P. 302)		EV インジケーター (→ P. 70)
	エアサスペンション HIGH モード表示灯 (→ P. 297)	※5 	低温表示灯 (→ P. 86)
※4 	スマートエントリー & ス タートシステム表示灯 (→ P. 185)	※6 	セキュリティ表示灯 (→ P. 78)
	READY インジケーター (→ P. 185)		スノーモード表示灯 (→ P. 195)
	EV ドライブモード表示灯 (→ P. 191)		エコドライブモード表示灯 (→ P. 295)
	パーキングブレーキ表示灯 (→ P. 201)		スポーツ S モード表示灯 (→ P. 295)
※2 	ブレーキホールドスタンバ イ表示灯 (→ P. 207)		スポーツ S+ モード表示灯 (→ P. 295)
※2 	ブレーキホールド作動表示 灯 (→ P. 207)		

※1 システムが OFF のときに点灯します。

※2 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 ドアミラーに表示されます。

※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

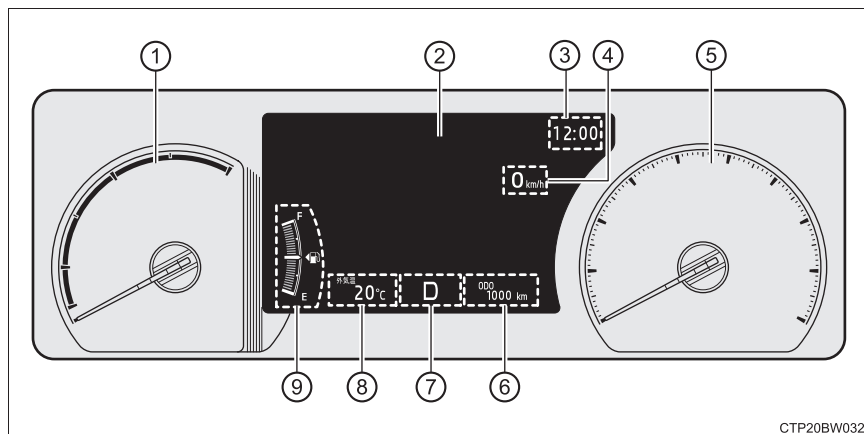
※5 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※6 センターパネルに表示されます。


 **警告****■安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS やSRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチをONモードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



CTP20BW032

- ① ハイブリッドシステムインジケーター
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。(→ P. 88)
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 90)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 432)
- ③ 時計
- ④ デジタルスピードメーター
マルチインフォメーションディスプレイで表示されている内容によっては表示しないことがあります。
また、表示・非表示を  から変更することができます。(→ P. 95)
- ⑤ アナログスピードメーター
- ⑥ オドメーター/トリップメーター (→ P. 101)
- ⑦ シフトポジション表示 (→ P. 194)
- ⑧ 外気温
外気温度を -40°C ~ 50°C の間に表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

⑨ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

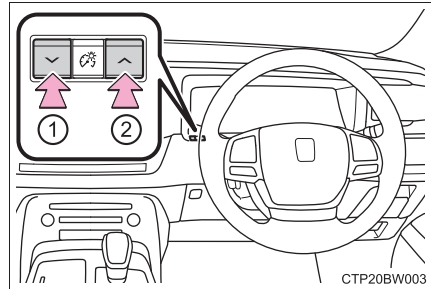
- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

- ① 暗くする
- ② 明るくする



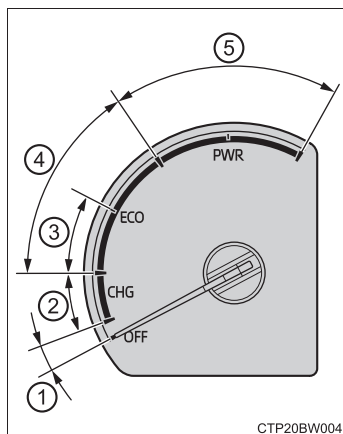
知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステムインジケータについて

- ① READY OFF エリア
READY インジケータが点灯していないことを示します。
- ② チャージエリア
回生機能により、エネルギーを回収している状態を示します。
- ③ ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。
- ④ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。
- ⑤ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転（環境に配慮した走行）の範囲を超えている状態を示します。



- インジケータの針をエコエリアに保つことで、エコ運転（環境に配慮した走行）が可能です。
- チャージエリアは、回生[※]状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。
- ※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケータの作動が停止します。

- READY インジケータが点灯していないとき
- シフトポジションが D または S 以外のとき

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

燃料タンク内の燃料の動きがおさまるまで、しばらくお待ちください。

2 ODO/TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター（ODO）に切りかえる

3 パワースイッチを OFF にする

4 ODO/TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする

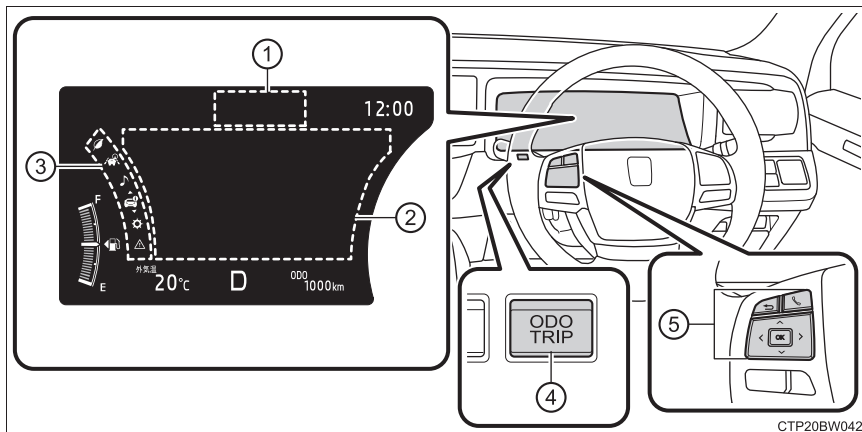
5 そのまま約 5 秒間 ODO/TRIP スイッチを押し続け、オドメーター（ODO）が点滅を開始したら手をはなす

オドメーター（ODO）が約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。



① 運転支援システム作動状況表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→ P. 256)
- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) (→ P. 247)

② コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

- ・ 各メニューの表示内容 (→ P. 92)
- ・ 提案サービス機能 (→ P. 101)
- ・ 警告メッセージ (→ P. 432)

③ メニューアイコン (→ P. 92)

④ ODO/TRIP スイッチ (→ P. 91)

⑤ メーター操作スイッチ (→ P. 91)

操作方法

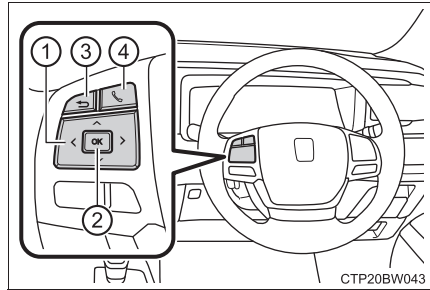
◆ コンテンツ表示エリアの操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① < / > : コンテンツの切りかえ、ページ送り ※
 ▲ / ▼ : メニューの切りかえ、ページ送り ※、カーソル移動
- ② 短押し : 決定
 長押し : リセット / 次の画面を表示
- ③ 前の画面にもどる
 短押しと長押しで戻ることができる階層がわかります。
- ④ 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※ 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、操作方向を示すマークが表示されます。



◆ オドメーター／トリップメーターの操作方法

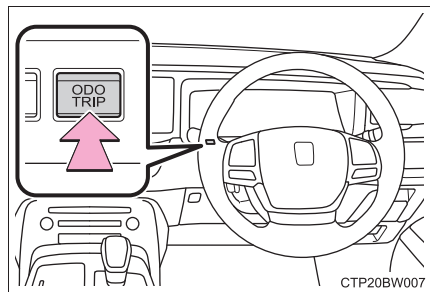
ODO/TRIP スイッチを使って次のように操作します。

短押し : 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。

長押し : リセット

トリップメーターを表示中にスイッチを長押しすると、走行距離を 0 にもどします。



メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。



エコドライブインフォメーション (→ P. 93)

燃費に関するさまざまな情報を表示します。



運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→ P. 256)
- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) (→ P. 247)

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- ・ 目的地案内
- ・ コンパス (ヘッドアップ表示)



オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。



車両情報

次の情報やシステムの作動状況を表示します。

- ・ エネルギーモニター (→ P. 104)
- ・ タイヤ空気圧 (→ P. 389)
- ・ 安全システム作動状態
プリクラッシュセーフティ・ブラインドスポットモニター・クリアランスセンサー・RCTA (リヤクロストラフィックアラート) の作動状態を表示します。



設定 (→ P. 95)

さまざまな機能の設定やメーターの表示設定などを変更することができます。



警告メッセージ (→ P. 432)

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。

エコドライブインフォメーション ()

■ 燃費

① 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。


② 平均燃費 (始動後)

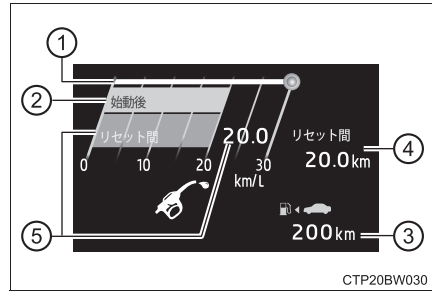
ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。※1

③ 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。※2、3


④ ガジェット ※4

 からガジェット表示と燃費表示種類を選択すると、次の項目を表示することができます。(→ P. 95)



項目		表示内容
ガジェット表示	燃費表示種類	
平均車速	始動後	ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
	リセット間	リセット後の平均車速を表示 ※5
走行距離	始動後	ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
	リセット間	リセット後の走行距離を表示 ※5
走行時間	始動後	ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示
	リセット間	リセット後の経過時間を表示 ※5

⑤ 平均燃費

表示する平均燃費の種類は  メニューの燃費表示種類選択画面から変更することができます。(→ P. 95)

表示できる平均燃費の種類は次のとおりです。

● リセット間

リセット後の平均燃費を表示します。 ※1、5

● 給油後

給油後の平均燃費を表示します。 ※1、2

※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。(→ P. 89)

※3 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※4 初期設定は非表示です。

※5 表示中に  を長押しするとリセットされます。

■ 車速表示／航続可能距離

● 車速表示

● 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。






この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。(→ P. 89)

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

設定 ()


◆ 設定変更のしかた

ハンドルのメーター操作スイッチを操作して、次のように設定を変更します。


- 1  または  スイッチを押して  を選択して、設定画面を表示させる
- 2 スイッチを操作して、変更する項目にカーソルを合わせる
- 3  スイッチを短押しまたは長押しする
 スイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。
画面に表示されている内容に従って操作してください。


◆ 設定変更できる項目






■ ドライブモードセレクト (→ P. 295)

 スイッチを押すと次の項目が変更できます。


項目	説明
ドライブモードセレクト	次のいずれかからドライブモードを選択することができます。 ・スポーツ S モード/スポーツ S+ モード ・ノーマルモード ・エコドライブモード

■  LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) (→ P. 247)


 スイッチを長押しすると次の項目が変更できます。




項目	設定内容	説明
操舵支援	ON	ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
警報感度	 (高)	警報の感度を変更することができます。
	 (普通)	
ふらつき検知	ON	ふらつき警報機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
ふらつき検知感度	 (高)	ふらつき警報機能の感度を変更することができます。
	 (普通)	
	 (低)	

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 237）


 スイッチを押すごとにプリクラッシュセーフティの作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PCS	ON	プリクラッシュセーフティの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	


 スイッチを長押しすると次の項目が変更できます。





項目	設定内容	説明
警報感度	 (遠い)	警報タイミングを変更することができます。
	 (中間)	
	 (近い)	

■ BSM (ブラインドスポットモニター) (→ P. 269)

 スイッチを押すごとにブラインドスポットモニターの作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
BSM	ON	BSM (ブラインドスポットモニター) 機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

 スイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
ドアミラーインジケータの明るさ	明るい	ドアミラーインジケータの明るさを変更することができます。
	暗い	
感度	 (早い)	接近車両を知らせるタイミングを変更することができます。
	 (普通)	
	 (遅い)	
	 (死角領域の車両のみ検知)	


■ **PKSA** (パーキングサポートアラート) (→ P. 276)




スイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
(クリアランスソナー)	ON	クリアランスソナーの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	ON	RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
(パーキングサポートアラートブザーの音量)	(レベル 1)	パーキングサポートアラートのブザー音量を変更することができます。
	(レベル 2)	
	(レベル 3)	

■ 表示設定

 スイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
言語		表示される言語を変更することができます。
 (EV インジケータ)	ON	EV インジケータの作動・非作動を変更することができます。 (→ P. 70)
	OFF	
デジタル車速表示	ON	デジタル車速表示の表示・非表示を変更することができます。
	OFF	
ガジェット表示選択	OFF	表示なし
	平均車速	ガジェット表示を選択することができます。
	走行距離	
	走行時間	
燃費表示種類選択	始動後 ^{※1}	平均燃費とガジェットに表示する燃費種類を選択することができます。
	リセット間	
	給油後 ^{※2}	
MID(マルチインフォメーションディスプレイ) 消灯		マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。 マルチインフォメーションディスプレイを再度表示させるには ▲ / ▼ / ◀ / ▶ のいずれかのスイッチを押してください。
割込表示	交差点案内	割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。
	電話着信	
	照度調整	
表示設定初期化		メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

※ 1 この項目を選択するとガジェット表示のみ変更されます。

※ 2 この項目を選択するとガジェット表示が非表示になります。

オドメーター／トリップメーター

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A / トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に ODO/TRIP スイッチを長押しします。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

カスタマイズ機能により、提案サービス機能の作動・非作動を変更することができます。(→ P. 488)

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にした後ランプスイッチが「AUTO」の状態
でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプ
の消灯を提案するメッセージを表示します。

このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでの間に運転席の
ドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案 (ワイパー連動)

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワ
イパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示しま
す。

このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉
まります。

ウインドロックスイッチを ON にしているときは、提案メッセージが表示さ
れません。

 知識**■ 設定画面の操作について**

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■ タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチをONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで2、3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで2、3分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 95, 488)

 **警告****■ 運転中の使用について**

- マルチインフォメーションディスプレイを操作するときは、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ディスプレイの操作を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ ディスプレイの操作を行うとき**

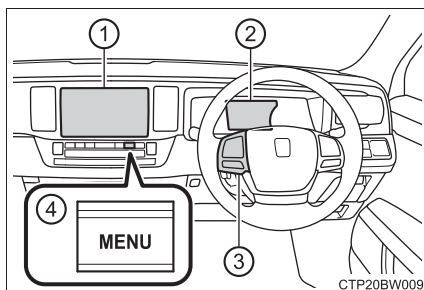
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面／ESPO画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。

システムの構成部品

- ① ナビゲーション画面
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
- ③ メーター操作スイッチ
- ④ “MENU” スイッチ




エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ ナビゲーション画面に表示するには

- 1  を押し、「情報」を選択して、情報画面を表示させる
- 2 「エコ情報」を選択する
エネルギーモニター画面以外が表示されたときは、「エネルギー」を選択します。



▶ マルチインフォメーションディスプレイに表示するには
メーター操作スイッチでエネルギーモニターを表示させる(→ P. 92)

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

緑：電気エネルギーを回収・充電しているとき

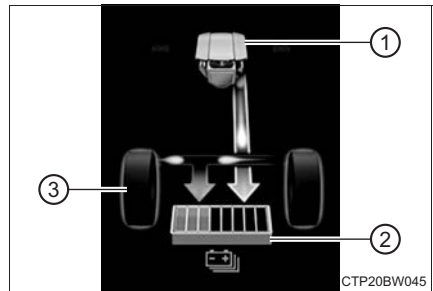
黄：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

- ① エンジン
- ② 駆動用電池
- ③ リヤタイヤ

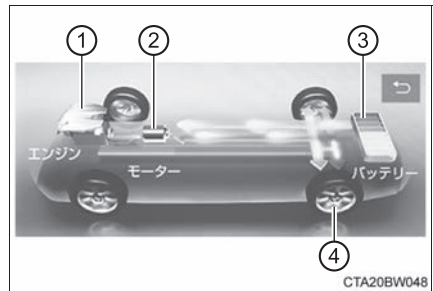
図は説明のために矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。



▶ ナビゲーション画面

- ① エンジン
- ② モーター
- ③ 駆動用電池
- ④ リヤタイヤ

図は説明のために矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

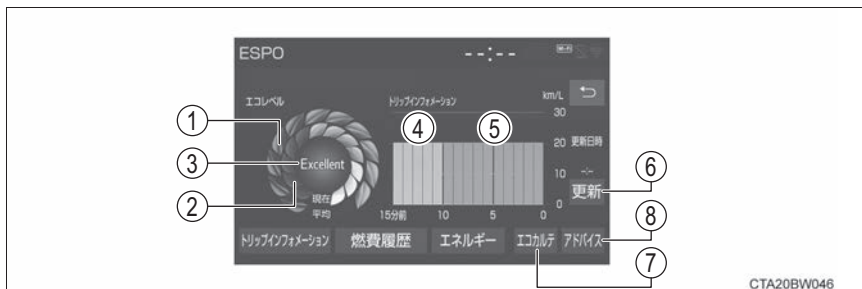


ESPO 画面の見方

1  を押し、「情報」を選択して、情報画面を表示させる

2 「エコ情報」を選択する

ESPO 画面以外が表示されたときは、「ESPO」を選択します。



① エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

② エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

③ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

④ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑤ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 更新スイッチ

走行情報などがトヨタスマートセンターへ送信されます。

⑦ エコカルテスイッチ

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO2排出量・平均燃費が表示されます。

⑧ アドバイススイッチ

- ・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
- ・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

燃費画面の見方

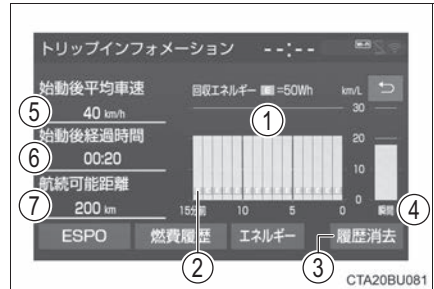
1 [MENU] を押し、「情報」を選択して、情報画面を表示させる

2 「エコ情報」を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択します。

- ① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
- ② 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量
E マーク1つが 50Wh です。
- ③ 履歴消去
- ④ 瞬間燃費
- ⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速
- ⑥ ハイブリッドシステム始動後経過時間
- ⑦ 航続可能距離（→ P. 108）



平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

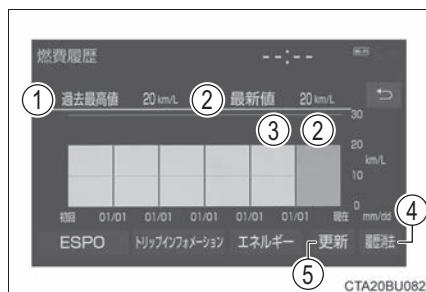
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。

- ① 過去最高値表示
- ② 最新値表示
- ③ 過去平均燃費表示
- ④ 履歴消去
- ⑤ 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 知識

■ 過去の平均燃費を更新するには

燃費履歴画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約5L以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

各部の操作**3**

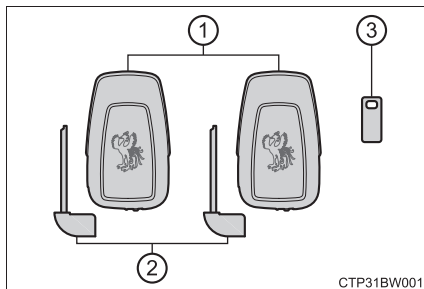
3-1. キー	
キー	110
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア	114
トランク	123
スマートエントリー& スタートシステム	131
3-3. シートの調整	
フロントシート	138
リヤシート	146
パワーイージーアクセス システム/ マイコンプリセット ドライビングポジション システム/ メモリーコール機能	152
リヤシートポジション メモリー	157
ヘッドレスト	159
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	161
インナーミラー	163
ドアミラー	165
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	168

キー

キーについて

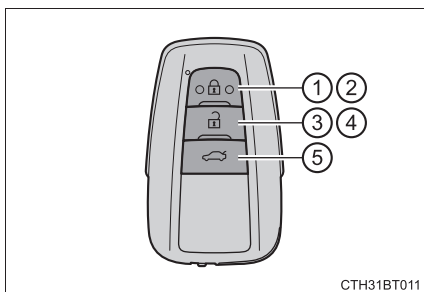
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 131)
 - ・ワイヤレス機能の作動 (→ P. 110)
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する (→ P. 114)
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② ドアガラスを閉める ※
- ③ 全ドアを解錠する (→ P. 114)
- ④ ドアガラスを開く ※
- ⑤ トランクを開ける (→ P. 123)
※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。(→ P. 488)

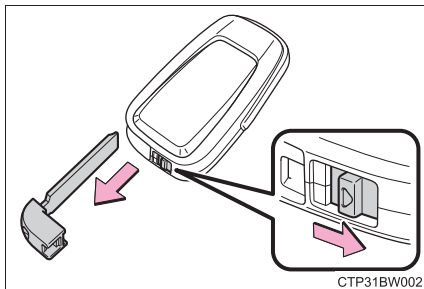


メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 464)



知識

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。(→P. 125, 343) メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。(→ P. 133)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→ P. 403

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■ キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

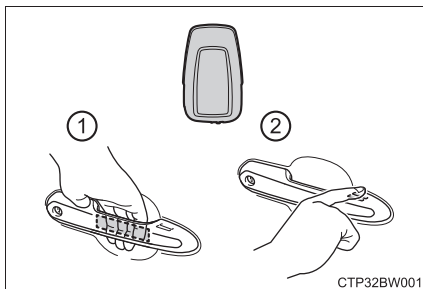
- ① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



CTP32BW001

◆ ワイヤレスリモコン

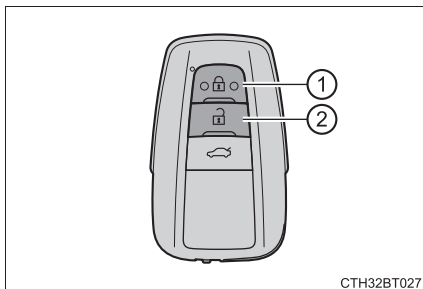
- ① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。*

- ② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。*



CTH32BT027

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。(→ P. 488)

 知識

■ 作動の合図

ドア：

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

トランク：

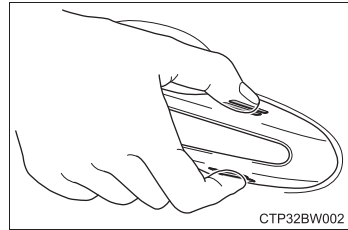
ブザーで知らせます。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。
手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 464)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 403)

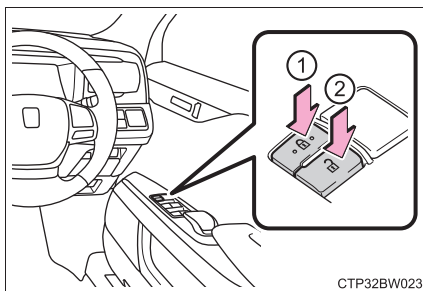
■ 補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを、施錠・解錠することはできません。

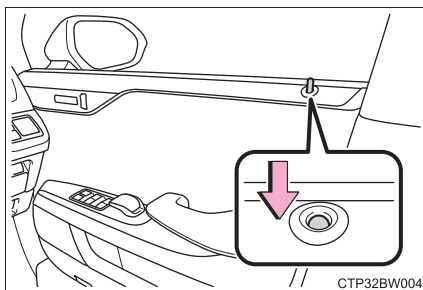
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください(→ P. 464)

車内からの施錠／解錠**◆ ドアロックスイッチ（施錠／解錠）**

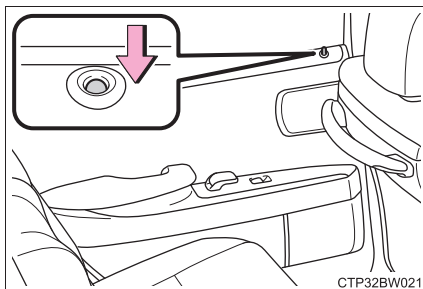
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

**◆ ドアロックボタン（施錠）****▶ フロント席**

ロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する

**▶ リヤ席**

ロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する

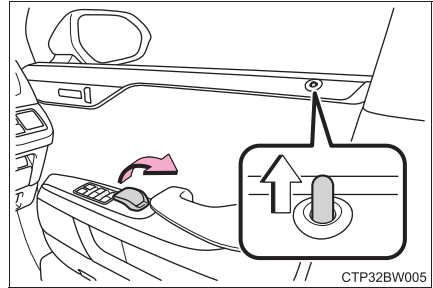


◆ ドアハンドル（解錠）

▶ 運転席ドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

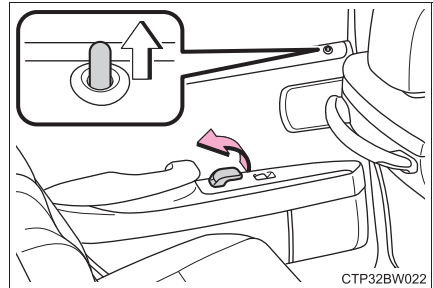
ドアが解錠されると、ロックボタンが上がります。



▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ロックボタンが上がります。



キーを使わずに外側からドアを施錠するときは

▶ フロント席ドア

- 1 ロックボタンを押し下げる
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ リヤ席ドア

- 1 ロックボタンを押し下げる
- 2 ドアを閉める

車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。




設定一覧については、P. 488 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。



 知識

■ 解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに、 と同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと、5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 464)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合はドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めるときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く)
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■ 半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア・トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスタウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 134

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 488)

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

警告

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるように、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

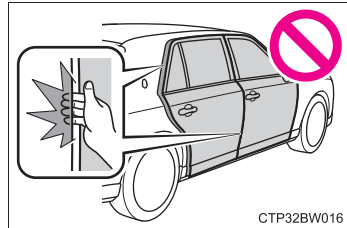
■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ イージークローザーについて

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだがに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

チャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、車内のドアハンドルを引いてもイージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。



注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

トランク

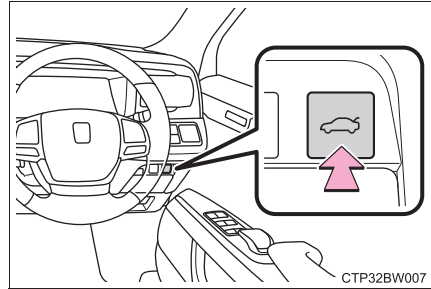
トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

トランククローザーで閉めることもできます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す

自動で全開します。



車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー&スタートシステム

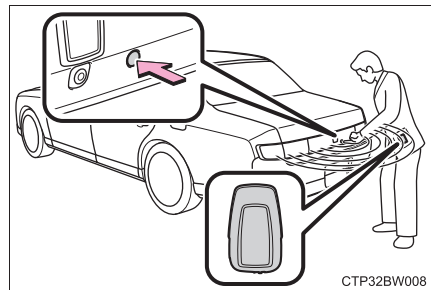
電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

自動で全開します。

トランクが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

- ・ スマートエントリー&スタートシステム
- ・ ワイヤレス機能
- ・ ドアロックスイッチ
- ・ メカニカルキー
- ・ オートドアアンロック機能

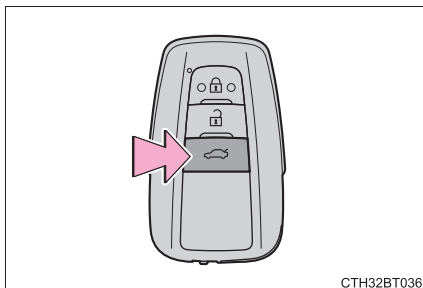


◆ ワイヤレスリモコン

ブザーが鳴るまでスイッチを押し続ける

自動で全開します。

トランクが開く途中でスイッチを押すと、作動が停止します。

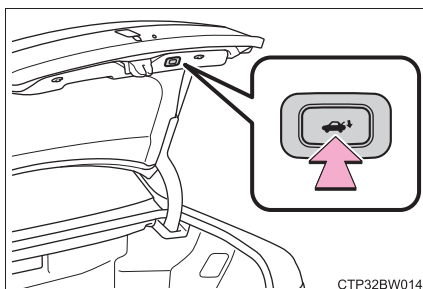


トランククローザースイッチを使用して閉じる

スイッチを押す

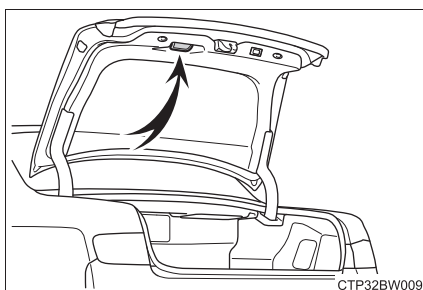
ブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクが再び開きます。



トランクグリップを使用して閉じる

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



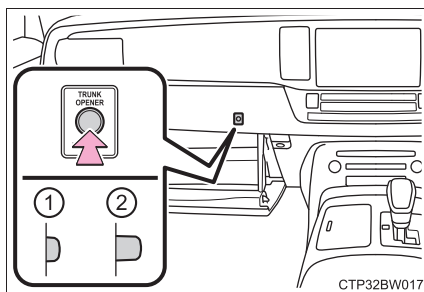
荷物の盗難防止などのために

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

- ① ON
- ② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。



CTP32BW017

知識

■ トランクリッドランプ／トランクランプ

- トランクを開けたとき、トランクリッドランプ／トランクランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、トランクリッドランプ／トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

- パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いて、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■ 過負荷防止機構

トランクリッドの上に無理な力がかかっているとパワートランクリッドは作動しません。

■ 落下防止機構

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ 挟み込み防止機構

トランクリッドが自動で閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止し開きます。

■ 半ドア走行時警告ブザー

→ P. 121

■ メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。(→ P. 465)

トランクをメカニカルキーで開けたときは、パワートランクリッドとイージークローザーは作動しません。作動させるには、手動でトランクを全閉にしてから操作してください。

■ スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→ P. 465)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 403)

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 488)

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

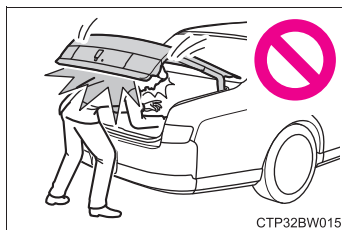
警告**■ トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。

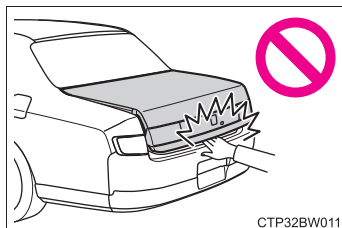
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

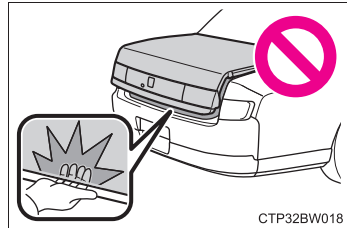


- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

⚠ 警告

■ イージークローザーについて

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ ハイブリッドシステム停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

 **警告****■ 挟み込み防止機能**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 **注意****■ イージークローザーの故障を防ぐために**

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

■ パワートランクリッドの故障を防ぐために

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが載っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

スマートエントリー&スタートシステム

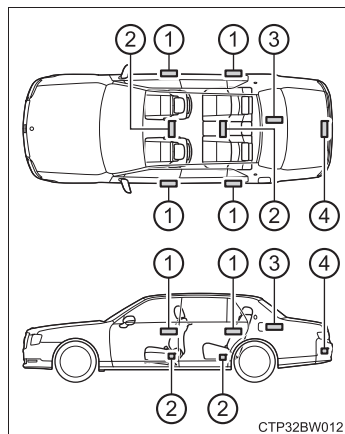
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→ P. 114)
- トランクを開ける (→ P. 123)
- ハイブリッドシステムを始動する (→ P. 185)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ
- ③ トランク内アンテナ
- ④ トランク外アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

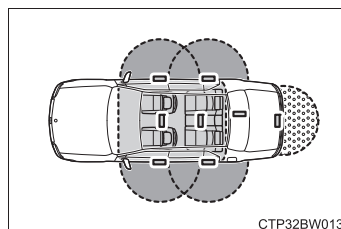
● : ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

● : トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

● : ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 432）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉めた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉めてください。
車内から“ポーン”、“ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリモードにした（パワースイッチがアクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。



■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

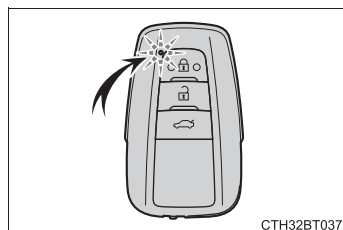
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



CTH32BT037

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 464)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CDやDVDなどのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の電子キー、電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき
- コインパーキングに駐車しているとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ・ ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時に電子キーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができません。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。*
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ 電子キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
 - ・ 電子キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 133）

- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引ってください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

※ トヨタ販売店ででの設定変更が可能です。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から約 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 488)
- 長時間使用しない電子キーの電池消費を抑えることができます。(→ P. 133)

■ システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)
- トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所(スペアタイヤ★付近、トランク内側の端)、状況(金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周辺の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→ P. 125)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 464
- ハイブリッドシステムの始動：→ P. 466

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 488)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは

- ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→ P. 114, 124, 464)
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 466
- ハイブリッドシステムの停止：→ P. 186

警告

■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

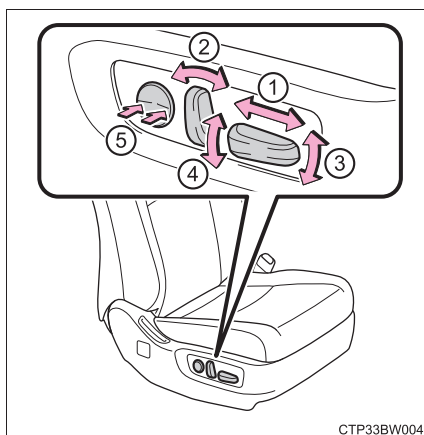
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 131）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認ください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション前端の上下調整
- ④ シート全体の上下調整
- ⑤ 腰部調整(ランバーサポート)(運転席のみ)

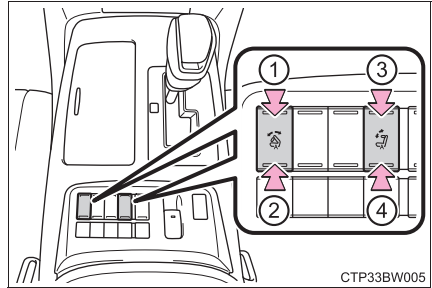


CTP33BW004

運転席からの助手席操作について

■ オート作動での操作

- ① 背もたれとヘッドレストを前倒し、シートを前方に動かす
- ② 背もたれとヘッドレストを起こし、シートを中立位置に戻す
リヤ席が中立位置でないときは、リヤ席が中立位置まで作動したあと、助手席が中立位置にもどります。
- ③ ヘッドレストを前倒しにする
- ④ ヘッドレストを中立位置に戻す

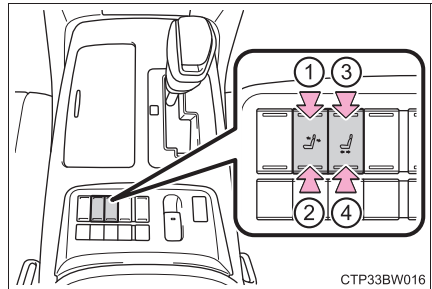


作動条件を満たさないときは、ボタンを押しても作動しません。

■ マニュアル作動での操作

- ① 背もたれを前に傾ける
- ② 背もたれをうしろに傾ける
- ③ シートを前方に移動する
- ④ シートを後方に移動する

操作スイッチを押しているあいだ、助手席シートを調整することができます。



リヤ席からの助手席操作について

■ オートでの作動

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)
- 2 「助手席」をタッチする
- 3 操作スイッチをタッチする

作動条件を満たしていないときは、操作スイッチがグレー表示になります。

途中で停止するときは、「停止」をタッチします。

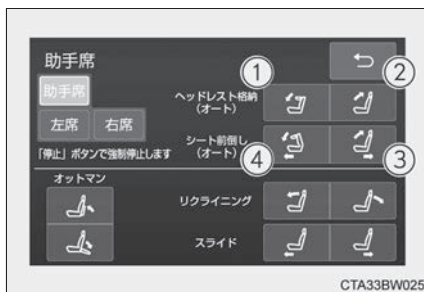
- 1 ヘッドレストを前倒しにする

- 2 ヘッドレスト中立位置に戻す

- 3 背もたれとヘッドレストを起こし、シートを後方に動かす

リヤ席が中立位置でないときは、リヤ席が中立位置まで作動したあと、助手席が中立位置にもどります。

- 4 背もたれとヘッドレストを前倒しにし、シートを前方に動かす



■ マニュアル作動での操作

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)
- 2 「助手席」をタッチする
- 3 操作スイッチをタッチする

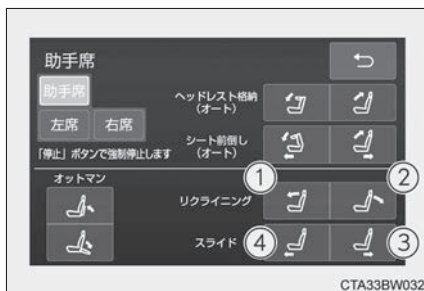
操作スイッチをタッチしているあいだ、助手席シートを調整することができます。

- 1 背もたれを前に傾ける

- 2 背もたれをうしろに傾ける

- 3 シートを後方に移動する

- 4 シートを前方に移動する



 知識**■ シートの調整について**

- 天井との干渉を回避するため、シートの作動を制限することや、調整している部位以外が作動することがあります。
- 助手席とリヤ席の距離が近いと、作動が制限されることがあります。

■ 助手席を前倒しにしたとき

助手席のヘッドレストを前倒しにすることで、リヤ席からの車両前方視界をより広くすることができます。

■ 助手席シートの可倒式ヘッドレストについて

助手席のヘッドレストを前倒しにしたとき、助手席側のドアを開けて、助手席シート調整スイッチで助手席位置を後方に調整、またはリクライニングを後方に倒すと、スイッチを離れたあと、ヘッドレストが中立位置にまでもどります。

■ 助手席シートの操作について

次のときは、シート操作スイッチを操作しても、ヘッドレストを前倒しまたは中立位置にできません。

- パワースイッチがアクセサリまたは OFF のとき
- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知しているとき*
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているとき

* 一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、パワースイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

 **警告****■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。
足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■ 助手席を前倒しにしたとき

運転席からドアミラーが見えにくい場合は、助手席の位置を調整してください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 可倒式ヘッドレストについて

ヘッドレストを前倒しにしたまま、助手席に人を乗せないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを引き起こして正しい位置に調整してください。

 **注意****■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について**

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

オットマンを展開／格納するには

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)

- 2 「左席」または「助手席」をタッチする

▶ 「左席」をタッチしたとき

- 3 ①をタッチし、操作スイッチ
②、③で調整する

操作スイッチをタッチしているあいだ、オットマンを調整することができます。

完全に格納されると、ブザーが鳴ります。

- ② 格納する

- ③ 展開する

▶ 「助手席」をタッチしたとき

- 3 操作スイッチをタッチして調整する

操作スイッチをタッチしているあいだ、オットマンを調整することができます。

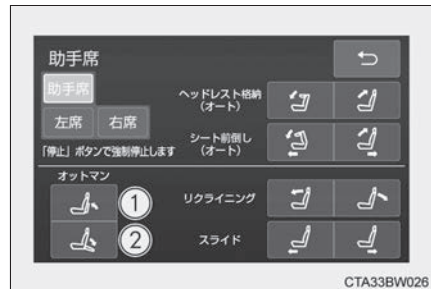
完全に格納されると、ブザーが鳴ります。

- ① 格納する

- ② 展開する



CTA33BW027

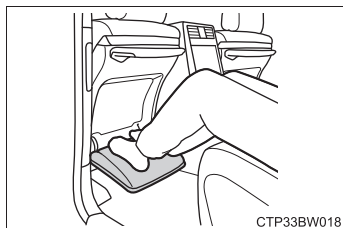


CTA33BW026

 知識

■ オットマンについて

- 助手席の背もたれを前に傾けた状態で展開すると、オットマンとして使用できません。
- 助手席の背もたれをうしろに傾けた状態で展開すると、フットレストとして使用できます。
- フロント席からもオットマンを格納することができます。(→ P. 149)



■ オットマンが展開できないときは

オットマンを使用できる十分なスペースが確保されていません。次の手順でスペースを確保してください。

- 1 オットマンを完全に格納する
- 2 助手席と左側リヤ席を操作して、スペースを確保する

オットマンが完全に格納されていないと、リヤ席の調整が制限される場合があります。

 警告

■ オットマンの使用について

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- オットマン部分に座らない
- 車を乗り降りする際はオットマンを格納する
- 展開するときにフロアとオットマンの間に手や足を入れない
- 格納するときにシートとオットマンの間に手や足を入れない
- オットマンを使用中に助手席の調整をしない

 **注意****■ オットマンの故障を防ぐために**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、部品が故障または破損するおそれがあります。

- 足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげない
- オットマンに無理な力をかけない
- オットマン部分に重たいものを載せない
- オットマン部分にものを載せたまま格納しない

リヤシート

調整するには

■ オート作動での操作

シートをあらかじめ登録された位置にすることができます。

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)
- 2 「左席」または「右席」をタッチする
- 3 操作スイッチをタッチする

途中で停止するときは、「停止」をタッチします。

- ① 中立位置にする
- ② 背もたれが少し倒れる位置にする*

助手席を前方に移動します。

- ③ 背もたれが大きく倒れる位置にする*

助手席を前方に移動し、背もたれとヘッドレストを前倒しにします。

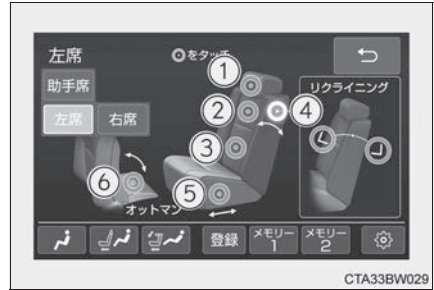
- ④ 登録した位置を呼び出す (→ P. 157)

* 「左席」をタッチしたときのみ表示されます。



■ マニュアル作動での操作

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)
- 2 「左席」または「右席」をタッチする
- 3 調整したい部位をタッチする
 - ① ヘッドレストの調整 (→ P. 159)
 - ② 肩部調整 (ショルダーサポート)
 - ③ 腰部調整 (ランバーサポート)
 - ④ リクライニング調整
 - ⑤ シートクッションの前後調整
 - ⑥ オットマン (フットレスト) 調整 * (→ P. 143)
* 「左席」をタッチしたときのみ表示されます。
- 4 表示された操作スイッチをタッチして調整する
操作スイッチをタッチしているあいだ、シートを調整することができます。



 知識

■ シートの調整について

フロントシートとの距離が近いとき、およびオットマンを展開しているときは、リヤシートの作動が制限されることがあります。

■ オートでの作動条件（左側リヤ席）

次のときは、・を選択できません。

- パワースイッチがアクセサリモードまたは OFF のとき
- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、パワースイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているとき

■ 助手席を前倒しにしたとき

→ P. 141

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 488）

 警告

■ シートを調整するとき

シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

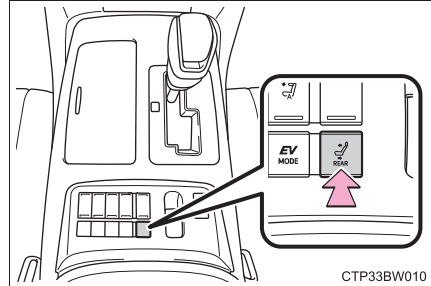
背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

フロント席からリヤ席に戻すには

スイッチを押す

スイッチを押しているあいだ、リヤシートを中立位置に戻すことができます。

オットマンが展開しているときは、リヤシートが中立位置に戻ったあともスイッチを押しつづけると、オットマンを格納することができます。



⚠ 警告

■ フロント席からリヤ席に戻すとき

シートの動いている部分で指や手を挟み、けがををするおそれがあるため、操作前に「声かけ」をしてください。

リヤシートリフレッシュシステム

左側リヤ席には、エアーの作動による押圧機能を備えたリフレッシュシステムが装備されています。リフレッシュシステム操作画面でコースや作動の強さなどをお好みにより調整することができます。

リフレッシュシステム操作画面を表示するには、リヤマルチオペレーションパネルのHOME画面で「リフレッシュ」をタッチします。

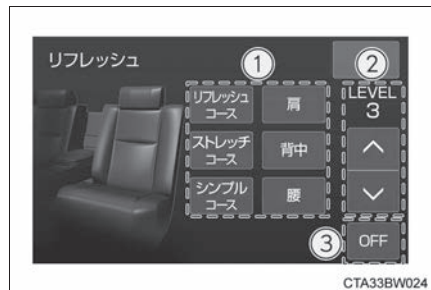
① コースの選択

コースをタッチすると作動が開始します。

② 作動の強さ

5段階で調整することができます。

③ 作動の停止



シートに乗員がいないときは、リフレッシュシステムを使用しないでください。

 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ リヤシートリフレッシュシステムの作動について

次のとき、リヤシートリフレッシュシステムが停止します。

- 作動開始から約 15 分経過したとき
- 左側のリヤ席ドアを開けたとき
- リヤシート／オットマン位置もどしスイッチを押したとき

 警告

■ リヤシートリフレッシュシステムのご使用について


- 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。
- お子さまは使用しないでください。
- 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

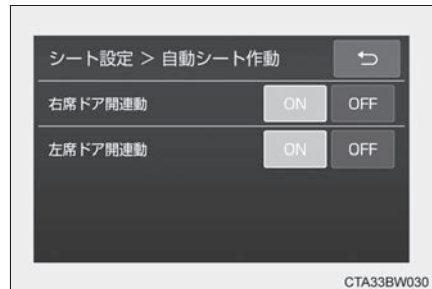
ドア連動シートリターン機能

リヤ席ドアを開けると自動的にリヤ席が中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

■ 設定変更のしかた

リヤマルチオペレーションパネルを使って設定を変更することができます。

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)
- 2 「左席」または「右席」をタッチする
- 3  をタッチする
- 4 ボタンをタッチして設定を変更する



パワーイージーアクセスシステム／マイコンプリセットドライビングポジションシステム／メモリーコール機能

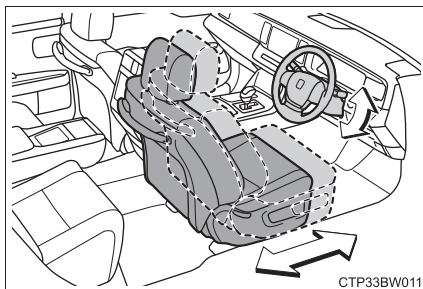
自動で運転席・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

パワーイージーアクセスシステム（運転席のみ）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ パワースイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- ・ パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにする
- ・ シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

- 降車時に、シートの位置が最後方にあるときやリヤ席に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。
- パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、作動が停止しマニュアル調整になります。（腰部調整を除く）
- 降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 488）

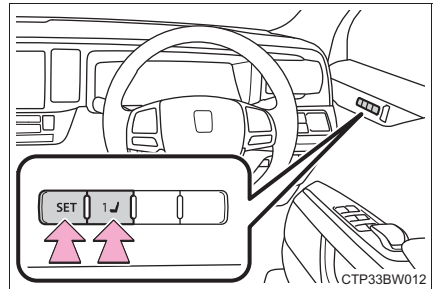
マイコンプリセットドライビングポジションシステム

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3パターンまで登録できます。

■ 登録方法

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ~ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

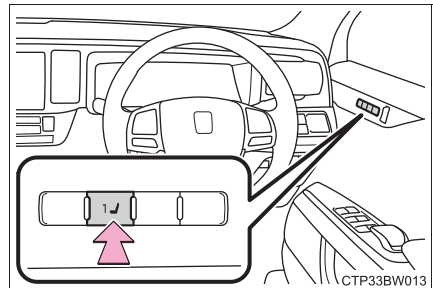
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のボタンで手順4の操作を行うと、助手席シート位置が登録できます。

■ 呼び出し方法

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 1 ~ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



 知識**■ ドライビングポジションシステムを正しくお使いいただくために**

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
 - 1 ~ 3 のボタンを押す
 - シート調整スイッチ * のいずれかを操作する (シートのみ作動停止)
- * 腰部調整を除く
- ハンドル位置調整スイッチを操作する (ハンドルのみ作動停止)

■ ポジション呼び出し作動について

リヤ席乗員のスペースが保たれていない場合、シートの作動が停止し、登録したポジションまで作動しないことがあります。

■ 助手席のポジションの呼び出し作動について

次のときは、助手席の登録したポジションを呼び出すことができません。

- オットマンが展開しているとき
- 背もたれとヘッドレストが前倒しになっているとき

■ 登録できるシート位置 (→ P. 138)

腰部調整以外の位置が登録できます。

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は、パワースイッチを押すと調整されます。

■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

メモリーコール機能（運転席のみ）

お好みのドライビングポジションに電子キーを登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

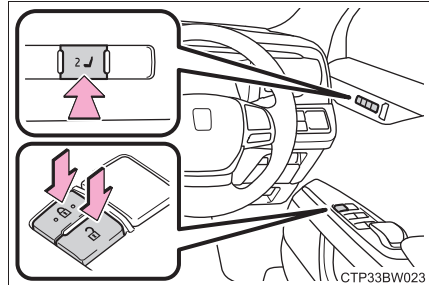
■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ1～3のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 登録させたいドライビングポジション（1～3）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

□ 知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては、呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 488)

▲ 警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

■ パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

リヤシートポジションメモリー

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

登録方法

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)
- 3 「左席」または「右席」をタッチする
- 4 リヤ席を好みの位置に調節し、「登録」をタッチする
- 5 「メモリー 1」または「メモリー 2」をタッチする
すでに登録されている場合は、上書きされます。

呼び出し方法

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする (→ P. 314)
- 3 「左席」または「右席」をタッチする
- 4 「メモリー 1」または「メモリー 2」をタッチする
作動条件を満たしていないときは、操作スイッチがグレー表示になります。
途中で停止するときは、「停止」をタッチします。
作動中にシートを調整すると、オート作動が停止しマニュアル作動になります。

 知識■ **ポジション呼び出し作動について**

リヤ席乗員のスペースが保たれていない場合、シートの作動が停止し、登録したポジションまで作動しないことがあります。

■ **ポジションメモリーを正しくお使いいただくために**

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作すると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

 **警告**■ **シート調整時の警告**

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

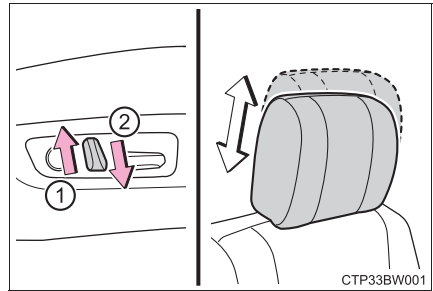
ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

リヤ中央席に装備されているヘッドレストはシート一体式のため、調整できません。

上下調整するには（フロント席）

- ① 上げる
- ② 下げる



上下前後調整するには（リヤ席）

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする（→ P. 314）
- 2 「左席」または「右席」をタッチする
- 3 ①をタッチし、操作スイッチ
②～⑤で調整する
 - ② 上げる
 - ③ 後方に移動
 - ④ 下げる
 - ⑤ 前方に移動



操作スイッチをタッチしているあいだ、ヘッドレストが作動します。

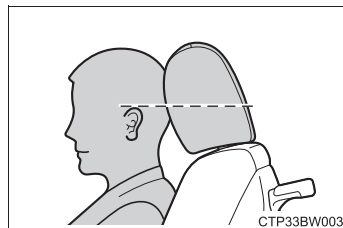
 知識

■ フロント席について

フロント席のヘッドレストが天井に近い場合は、ヘッドレストの上方への作動が制限されます。

■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



■ ヘッドレストの取りはずしについて（リヤ中央席を除く）

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはトヨタ販売店にご相談ください。

 警告

■ ヘッドレストについて（リヤ中央席を除く）

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

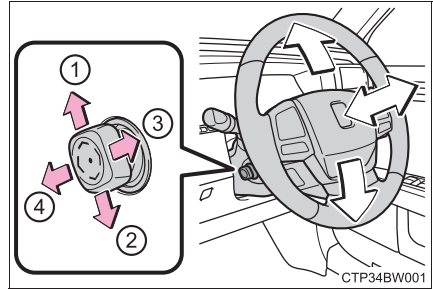
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

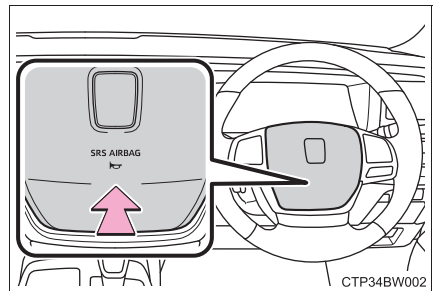
スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

- ① 上方へ
- ② 下方へ
- ③ 手前へ
- ④ 前方へ



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。



 知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリモード、または ON モードのとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 152)

■ パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→ P. 152)

 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

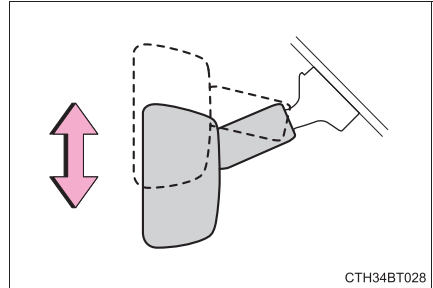
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



自動防眩機能を使うには

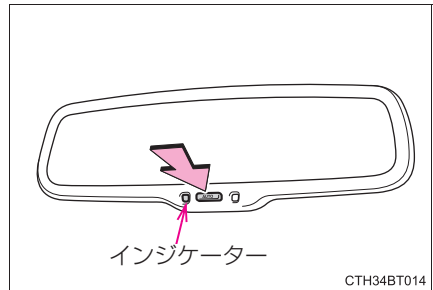
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON/OFF

ON のときはインジケータが点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

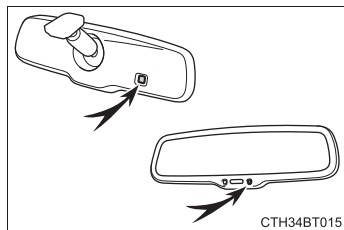
ボタンを押すと OFF になりインジケータが消灯します。



 知識

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

 警告

■ 走行中の警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

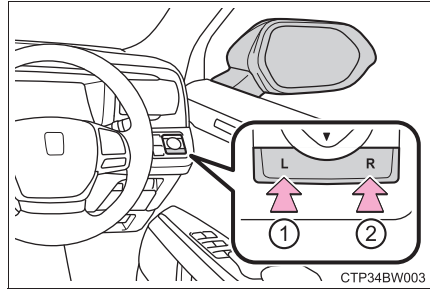
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

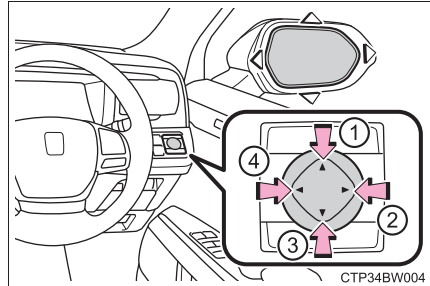
1 調整するミラーを選ぶ

- ① 左
- ② 右



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

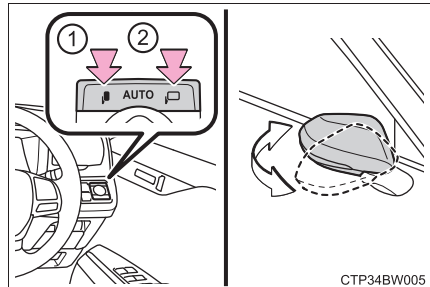
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーの格納・復帰のしかた

- ① ミラーを格納する
- ② ミラーを元の位置にもどす

スイッチを中立の位置 (AUTO) にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外するとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースwitchがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 324）

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動調整されます。（→ P. 152）

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 488）

 **警告****■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ドアミラーを格納したまま走行しない

走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

開閉のしかた

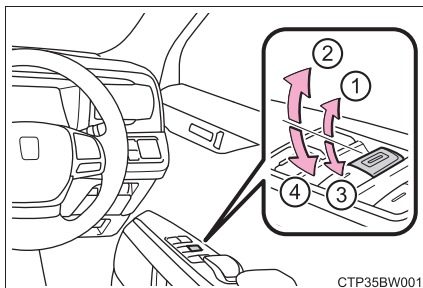
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶ 運転席

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

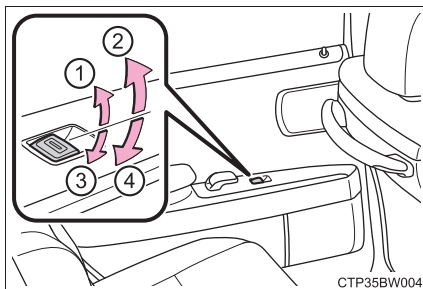
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



▶ 運転席以外

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

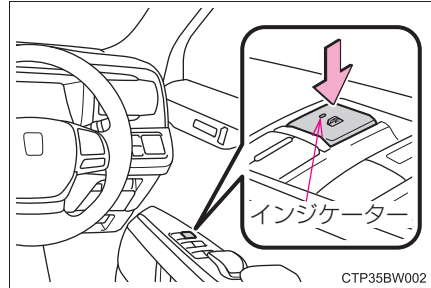
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すとインジケータが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアの間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチをONモードの状態です、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約4秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① パワースイッチをONモードにする
- ② パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- ③ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約6秒以上引き続ける
- ④ パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約1秒以上押し続ける
- ⑤ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約4秒以上押し続ける
- ⑥ 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→P. 464）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→P. 114）

＊ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。（→P. 488）

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 488)

⚠ 警告

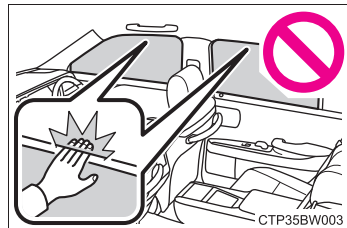
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 169)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **警告****■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まれないように注意してください。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって**
 運転にあたって 174
 荷物を積むときの注意 184
- 4-2. 運転のしかた**
 パワー（イグニッション）
 スイッチ 185
 EV ドライブモード 191
 トランスミッション 194
 方向指示レバー 200
 電動パーキングブレーキ 201
 ブレーキホールド 207
- 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方**
 ランプスイッチ 210
 AHS（アダプティブ
 ハイビームシステム） 214
 フォグランプスイッチ 219
 ワイパー & ウォッシャー 221
 ヘッドランプクリーナー 227
- 4-4. 給油のしかた**
 給油口の開け方 228
- 4-5. 運転支援装置について**
 Toyota Safety Sense 232
 PCS（プリクラッシュ
 セーフティ） 237
 LDA（レーン
 ディパーチャーアラート
 [ステアリング
 制御機能付き]） 247
 レーダークルーズ
 コントロール
 （全車速追従機能付き） 256
 BSM（ブラインド
 スポットモニター） 269
 PKSA（パーキング
 サポートアラート） 276
 クリアランスソナー 278
 RCTA（リヤクロス
 トラフィックアラート） 288
 ドライブモードセレクト 295
 電子制御
 エアサスペンション 297
 運転を補助する装置 299
- 4-6. 運転のアドバイス**
 ハイブリッド車運転の
 アドバイス 307
 寒冷時の運転 309

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 185

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→ P. 194)
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する (→ P. 201)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→ P. 194)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 201)、シフトレバーを P にする
(→ P. 194)
- 3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

[※] 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 300)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→ P. 307)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなりましたりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（RからD、DからR、NからR、PからD、PからR）とき（DはSポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRCの作動を停止（→ P. 302）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などをバンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ 環境に配慮した運転

→ P. 106

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 416を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 194)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキパッドの摩耗について

次のいずれかのときは、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

● ブレーキパッドの厚さを4輪とも目視で点検し、どれか1つでも使用限度をこえている場合（使用限度についてはP. 486を参照してください）

● マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

● 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落とすままにしておく、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 437, 452を参照してください。

 **注意****■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んだエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。
表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

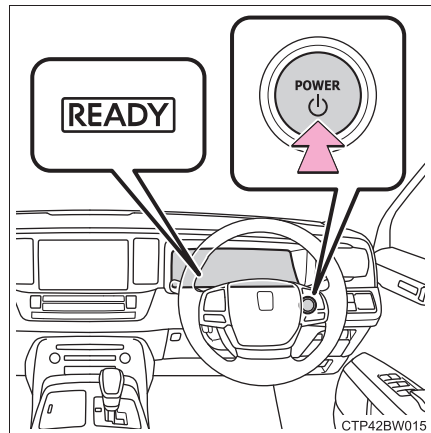
- 4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて (→ P. 201)、シフトレバーを P の位置にする (→ P. 194)
- ③ パワースイッチを短く確実に押す
- ④ ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」や「イグニッション ON」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF*

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリモード

オーディオなどの電装品が使用できません。

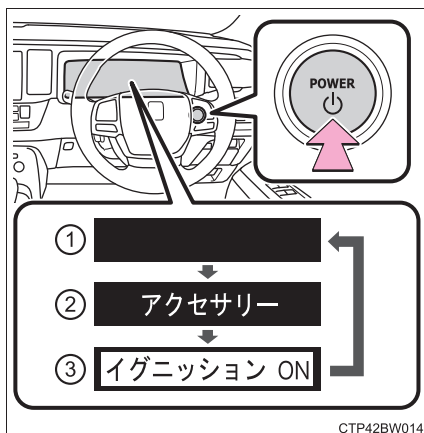
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリ」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

* シフトレバーが P 以外のときはアクセサリモードになり、OFF になりません。



シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを1回短く確実に押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリモードか1時間以上ONモード(ハイブリッドシステムが作動していない状態)にしたままにしておくと、パワースイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがり完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリモード、またはONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 71

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 112

■外気温が低いときは

- ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなる場合があります。READYインジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 134

■ご留意いただきたいこと

→ P. 135

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

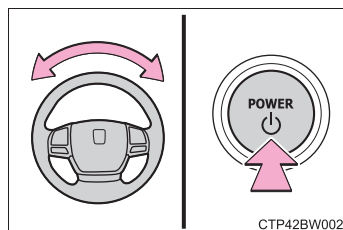
- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 78)
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 73

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 403

■パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。
 - パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。
- ### ■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 490

 **警告****■ ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→ P. 416)ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

 **注意****■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

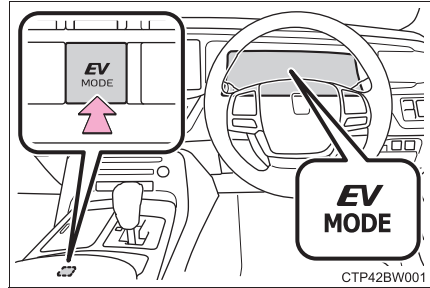
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの ON/OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

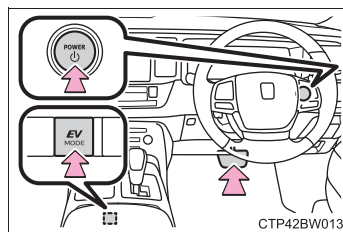
次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 104）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■EV ドライブモードでハイブリッドシステムを始動するには

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動すると、暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動します。次の方法でハイブリッドシステムを始動すると暖機運転を控え、騒音を抑える事ができます。

ブレーキペダルをしっかりと踏み、EV ドライブモードスイッチを押しながらパワースイッチを押す



■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除される時は、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 104）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードに現在切りかえできません” と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖気中／ハイブリッド充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏みすぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EVモードが解除されました”と表示されたときは

EVドライブモードが自動解除されています。EVドライブモードを使用できない理由（ハイブリッド充電不足／EV速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらくしてから使用してください。

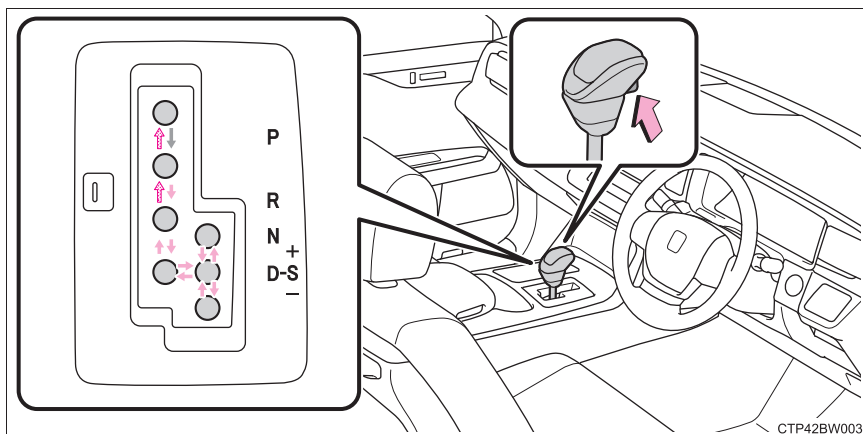
警告

■ 走行中の警告

EVドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



CTP42BW003

- ← パワースイッチが ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。[※]
- ← シフトレバーのボタンを押しながら操作します。
- ← シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

[※] シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

シフトレバーの使用目的

シフトレバー	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ^{※1}
S	S モード走行 ^{※2}

^{※1} 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

^{※2} S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

走行モードの選択

■ スポーツモード・エコドライブモード

→ P. 295

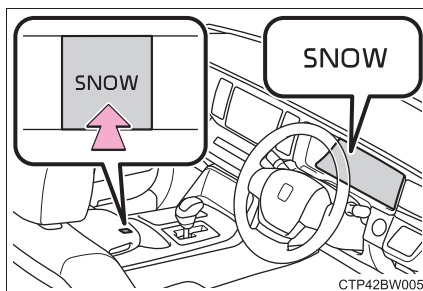
■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときを選択してください。

スイッチを押す

スノーモード表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



Sモードでのシフトレンジ選択

シフトレバーをSポジションにすると、Sモードに切りかわります。

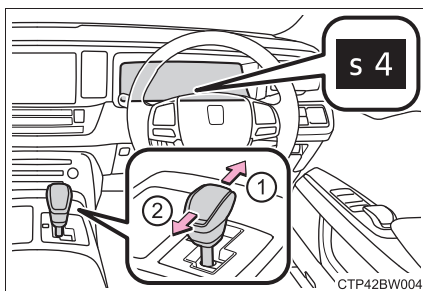
シフトレンジを選択することで、使用するシフトレンジの上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。また、通常走行にくらべエンジン回転数が高くなるようにトランスミッションを制御するため、加速応答性が向上します。

シフトレバーの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

- ① シフトレンジアップ
- ② シフトレンジダウン

S1からS8レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じてS4からS7に設定されます。



■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、8段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- 1から5のシフトレンジでの加速時は、車速に応じて、シフトレンジが自動的に切りかわります。

 知識

■ Sモードについて

- 6レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると8レンジに設定されます。
- シフトレバーを“-”側へ操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

■ レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- Sモードで走行中に7・6・5・4レンジにシフトダウンしたとき(→P. 247)
- Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき(→P. 295)

■ 急発進の抑制について(ドライブスタートコントロール)

→P. 175

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチがONモードでブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

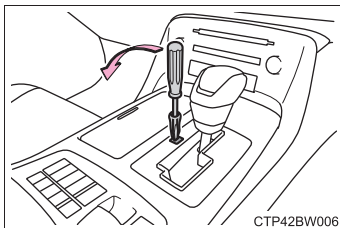
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パワースイッチを ON モードにし (→ P. 186)、パーキングブレーキがかかっていることを確認する (→ P. 201)
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

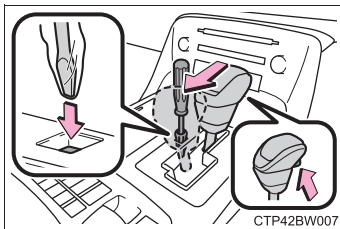
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



CTP42BW006

- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



CTP42BW007

 **警告****■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 駆動用電池の充電について**

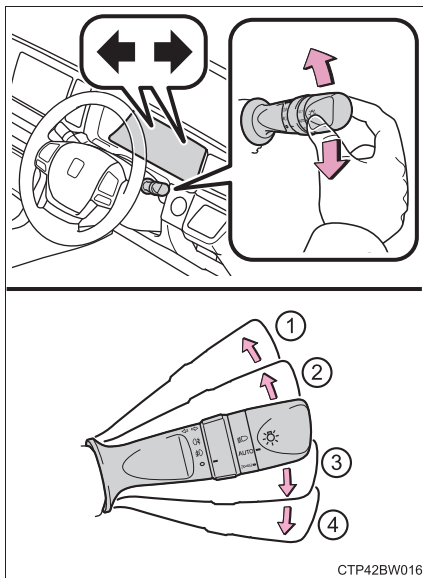
シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



CTP42BW016

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

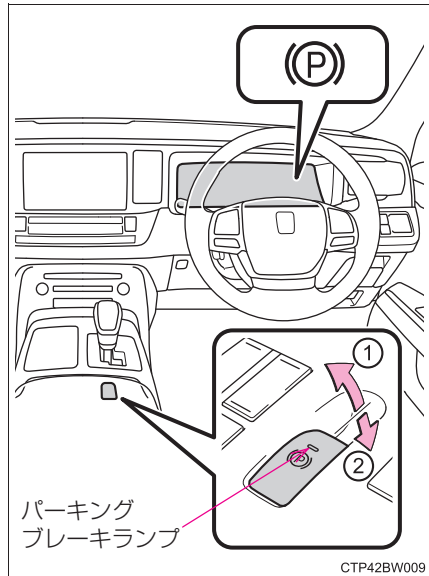
- ① スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

- ② スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ・ ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・ パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。



解除後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

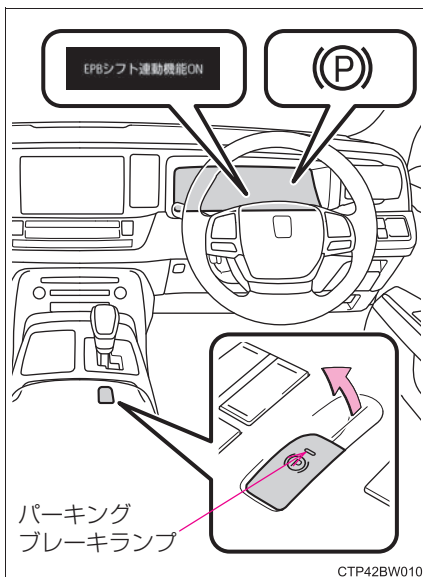
■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- ・ シフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。
- ・ シフトレバーを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

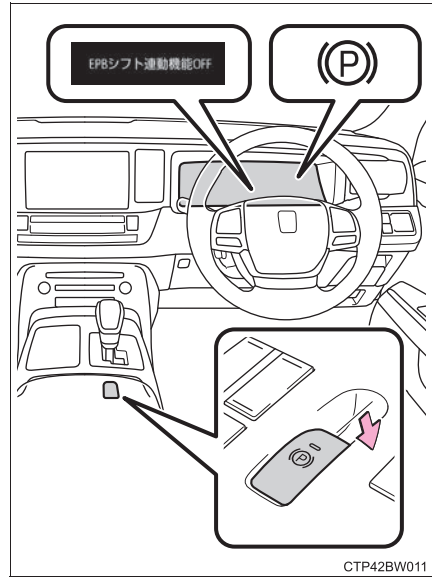
シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。



CTP42BW010

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける



 知識**■ パーキングブレーキの作動**

- パワースイッチがONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチがONモード以外では、オートモードによる作動(かける・解除する)はできません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーがD、SまたはRのとき

オートモード：シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
ONモード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ONモード以外：約15秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチをOFFにしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約15秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したときは

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→ P. 174

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 425

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 309

▲ 警告**■ 駐車するとき**

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

 **注意****■ 駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

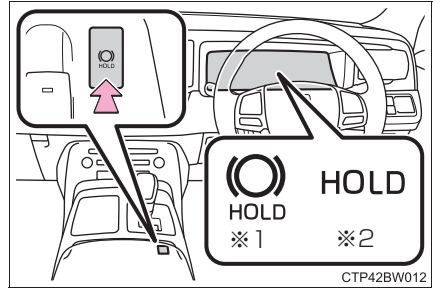
ブレーキホールド

シフトレバーがD・SまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。

- ※1 ブレーキホールドスタンバイ表示灯
- ※2 ブレーキホールド作動表示灯



知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
(→ P. 428)

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P. 428

 **警告****■ 急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

 **注意****■ 駐車するとき**

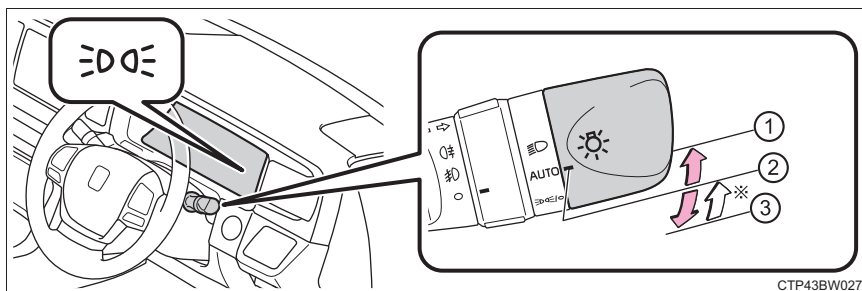
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。



点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。




CTP43BW027

* スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO * ¹	LED デイライト (→ P. 212) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  / O * ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 * ²



上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネル照明を意味します。

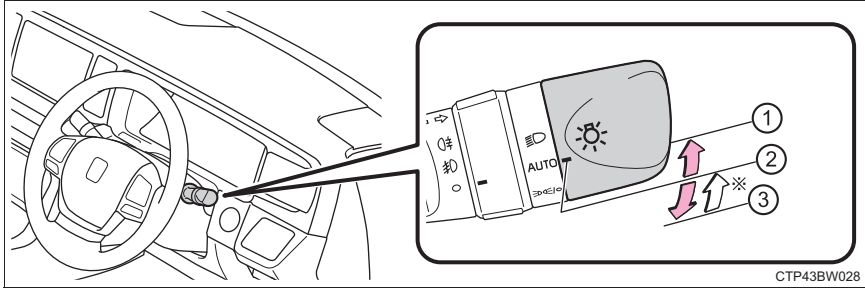
*¹ 操作するたびに、② **AUTO** による点灯状態と③  / O による点灯状態が切りかわります。

*² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② **AUTO** による点灯状態に切りかわります。


消灯のしかた


☀️ スイッチを③  の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に①  か③  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



CTP43BW028

※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ 	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→ P. 212) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

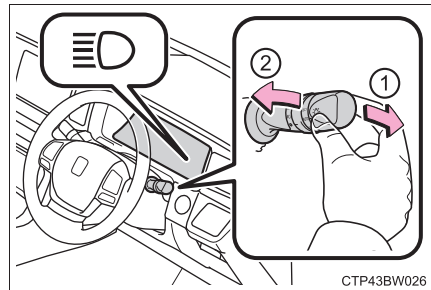
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



CTP43BW026

コーナリングランプ

- ヘッドランプ（ロービーム）点灯時にハンドルまたは方向指示レバーを操作すると、交差点での視認性確保のため、車両進行方向側のコーナリングランプが点灯します。

ただし、車速が約 35km/h より高い場合は、コーナリングランプは点灯しません。

- ヘッドランプ（ロービーム）点灯時にシフトレバーを R にすると、駐車時の視認性向上のため、両側のコーナリングランプが点灯します。

知識

■ LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）

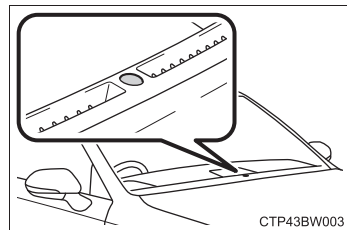
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。



■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると、節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ・ ランプスイッチを操作したとき
- ・ ドアを開閉したとき

■ コーナリングランプの制御について

コーナリングランプは、点灯したまま約 30 分経過すると、自動で消灯します。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 488)

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

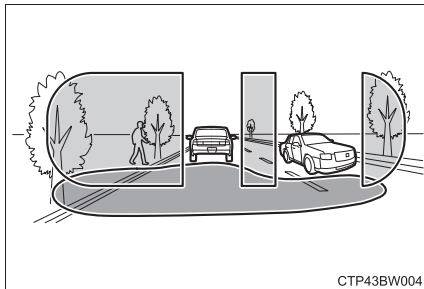
AHS (アダプティブハイビームシステム)

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。(遮光ハイビーム)

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



CTP43BW004

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。
- 低速で走行しているとき、両側のコーナリングランプで車両側方を照らします。

警告


■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

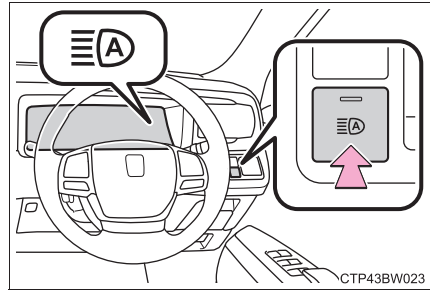
■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

アダプティブハイビームシステムの使い方

- 1 ランプスイッチを **AUTO** または  の位置にする
- 2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが動作すると、AHS 表示灯が点灯します。



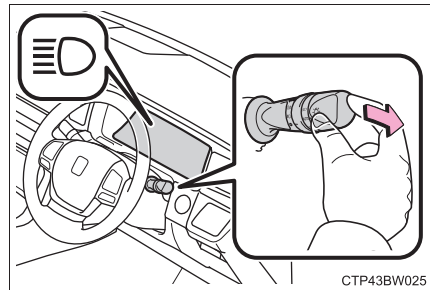
手動切りかえのしかた

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

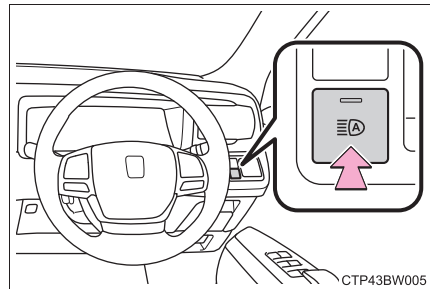


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

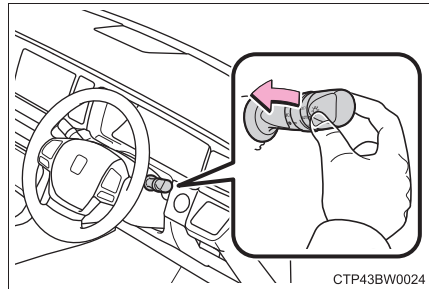
アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度アダプティブハイビームシステムスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



□ 知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

■ システムの作動条件

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

- ・ 車速が約 15km/h 以上 ※
- ・ 車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

● 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がいる

● 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

- ・ 車速が約 12km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両の台数が多い
- ・ 前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

● 車速が約 3 ~ 15km/h のとき、両側のコーナリングランプが点灯します。

■カメラセンサーの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ カメラセンサーが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ カスタマイズ機能

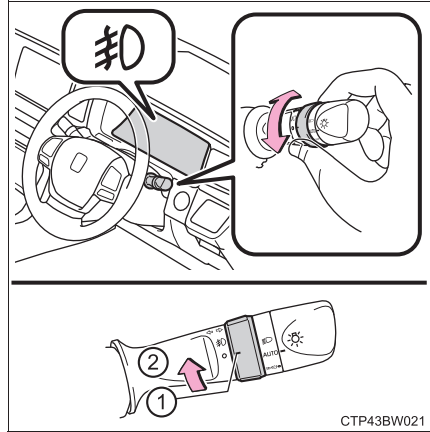
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 488)

フォグランブスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランブ装着車

- ① ○ 消灯する
- ② 卍 点灯する

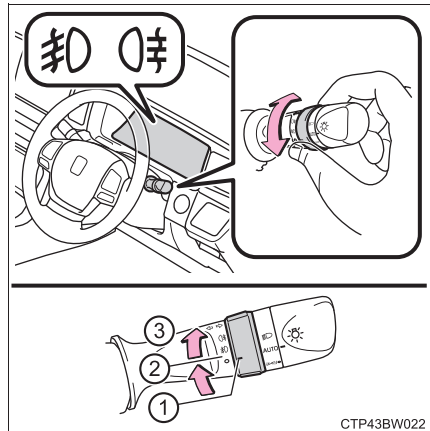


▶ フロント&リヤフォグランブ装着車

- ① ○ 消灯する
- ② 卍 フロントフォグランブを点灯する
- ③ 卍 フロント&リヤフォグランブを点灯する

手を離すと 卍 の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランブのみ消灯します。



 知識

■ 点灯条件

フロントフォグランプ：

尾灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ★：

ヘッドランプ、またはフロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できません。


■ リヤフォグランプ★について

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

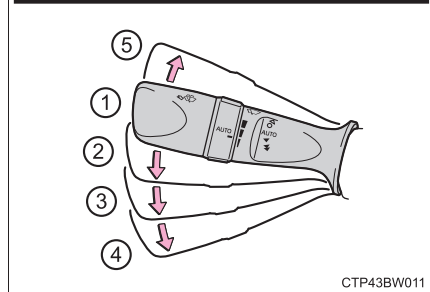
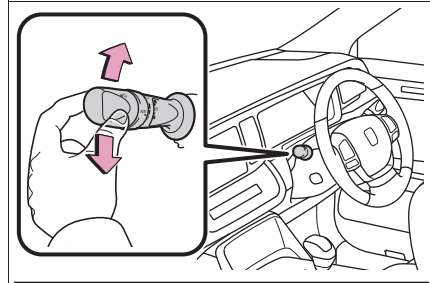
ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

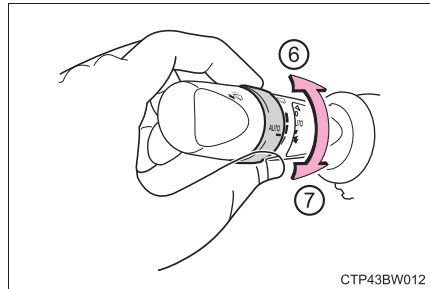
- ① ○ 停止
- ② **AUTO** AUTO モード
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動




CTP43BW011

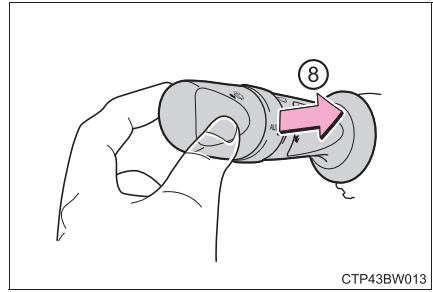
AUTO が選択されているときは、次のようにつまみをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

- ⑥ 雨滴センサーの感度調整 (高)
- ⑦ 雨滴センサーの感度調整 (低)



CTP43BW012

- ⑧  ウォッシャー液を出す
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。)



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

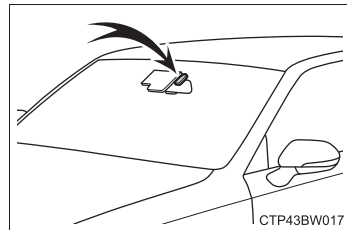
低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。

（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

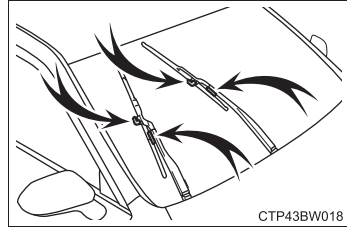
光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 85℃ 以上または -15℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。



■ ドア開連動ワイパー停止機能

AUTO 選択中、シフトレバーがPの状態ワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したときは

ハイブリッドシステムを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にパワースイッチをONモードにすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

⚠ 警告

■ AUTOモード時のワイパー作動について

AUTOモードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ フロントウィンドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

■ 雨滴感知センサー

フロントウィンドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、オート作動が正常に作動しないことがあります。

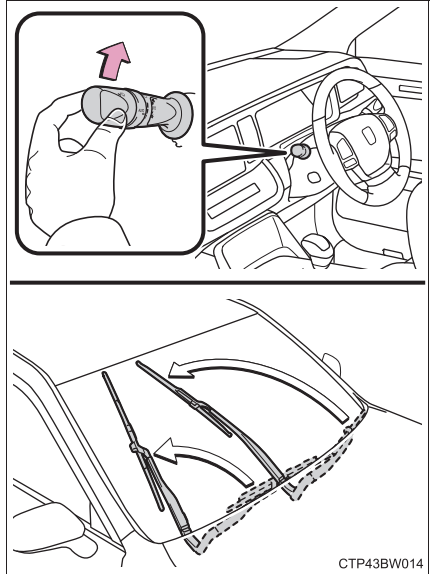
ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

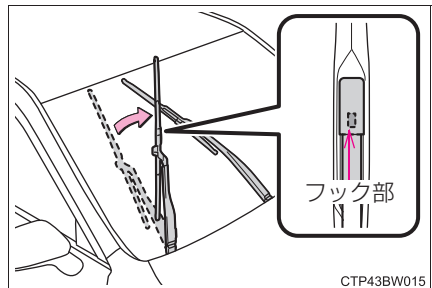
パワースイッチを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパースイッチを ▲ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



 知識■ **ワイパーを格納位置にもどすには**

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON モードにし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。

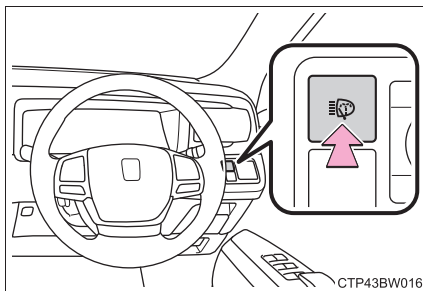
 **注意**■ **ワイパーを立てるときは**

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるとき、ワイパーを立てないでください。この位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗淨する



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

⚠ 注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

 **警告****■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

● キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

● 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

● 喫煙しないでください。

● 給油口にノズルを確実に挿入してください。

● 継ぎ足し給油をしないでください。

● 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

! 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

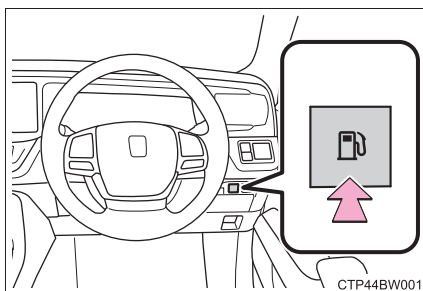
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

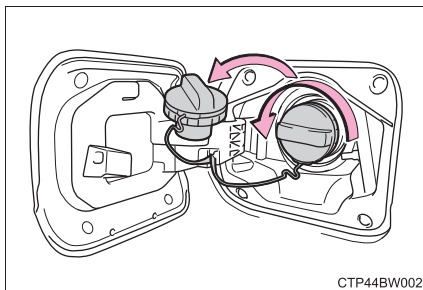
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

- 1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける



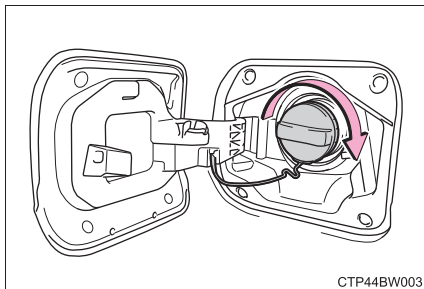
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

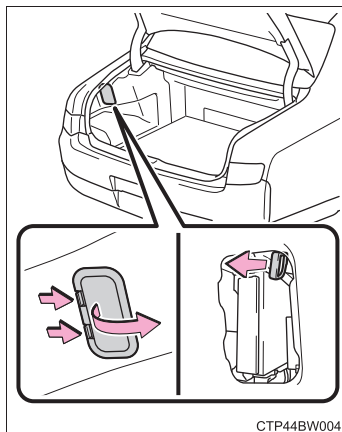


CTP44BW003

知識

■車内のスイッチで給油扉が開かないとき

トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。



CTP44BW004

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS (プリクラッシュセーフティ)

→ P. 237

◆ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])

→ P. 247

◆ AHS (アダプティブハイビームシステム)

→ P. 214

◆ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)

→ P. 256

 警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・ カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

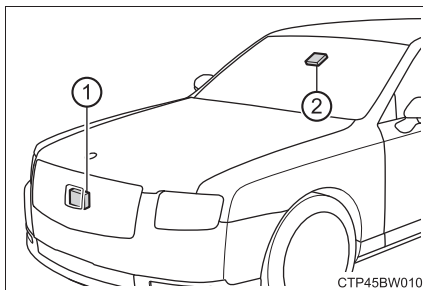
● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダーセンサー
- ② カメラセンサー



警告

■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

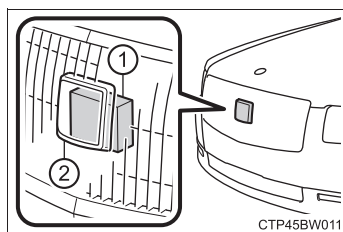
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

- ① レーダーセンサー
- ② フロントグリルエンブレム

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない
- レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

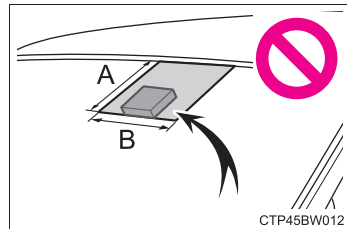
お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側のカメラセンサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端からカメラセンサー下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（カメラセンサー中心から左右約 10cm）



- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→ P. 324）
- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告**

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない
- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 **知識****■ レーダーセンサーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

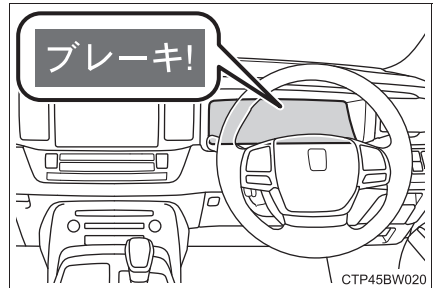
PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 240）

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

◆ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→ P. 300）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 242
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 244
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。


 **警告****■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

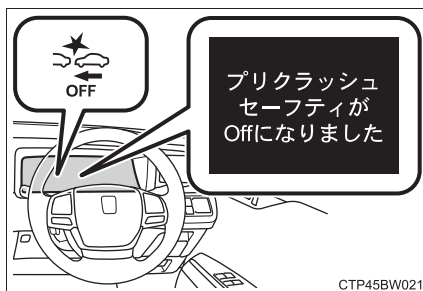
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 95) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。


パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



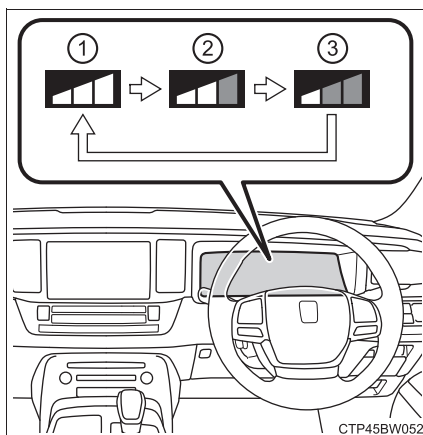
CTP45BW021

■ プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 95) から、プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更することができます。

パワースイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

- ① 遠い
「中間」より警報タイミングが早くなる
- ② 中間
初期設定
- ③ 近い
「中間」より警報タイミングが遅くなる



CTP45BW052

 知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

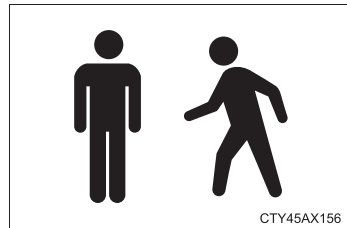
- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
 - ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上
- ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 245）



■ プリクラッシュブレーキの作動解除

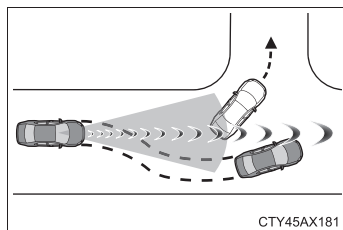
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

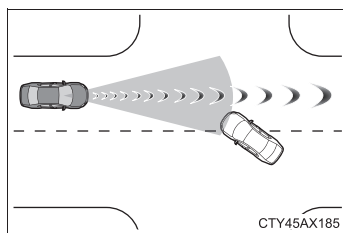
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

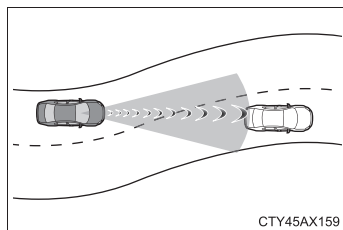
- ・ 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して先行車を追いこすとき
- ・ 車線変更している先行車を追い抜くとき
- ・ 右左折する先行車を追いこすとき



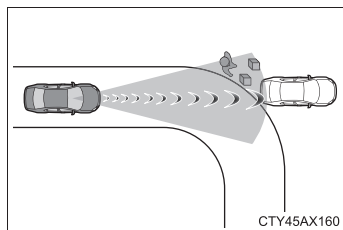
- ・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



- ・ 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

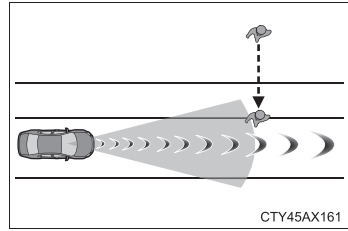


- ・ 前方車両に急接近したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

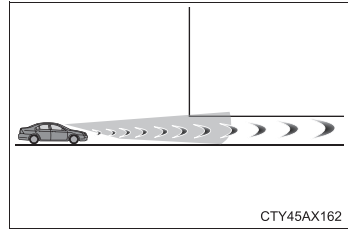


- ・ 道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・ 路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

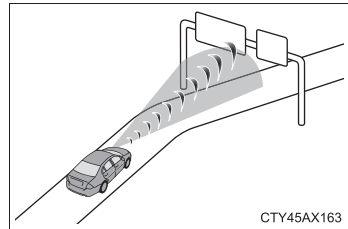
- ・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

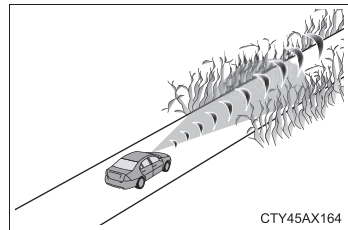


- ・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・洗車機を使用するとき

- ・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

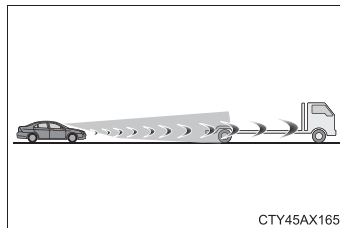


- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・路面または壁面に車両や歩行者との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

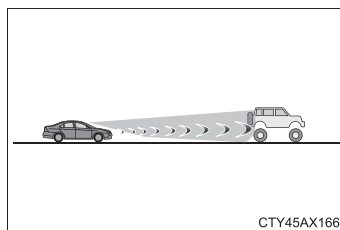
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

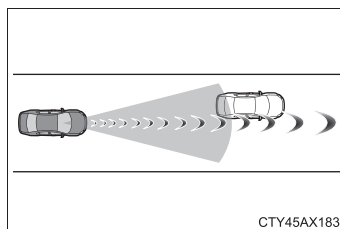
- ・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・前方車両がオートバイ・自転車のとき
- ・車両の側面または前面に近付いたとき
- ・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

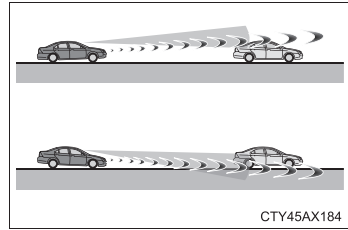


- ・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- ・前方車両と自車の中心がずれているとき



- ・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）

- ・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
- ・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・右左折中および右左折後の数秒間
- ・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・自車が横すべりしているとき
- ・車両姿勢が変化しているとき



- ・ホイールアライメントがずれているとき
 - ・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
 - ・ふらつき運転をしているとき
 - ・過度な高速走行をしているとき
 - ・坂道を走行しているとき
 - ・前方センサーの向きがずれているとき
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
 - ・合羽・ロングスカートなどを着用して、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
 - ・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
 - ・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
 - ・集団でいる歩行者
 - ・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
 - ・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
 - ・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
 - ・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
 - ・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
 - ・歩く速度が速い歩行者

- ・ 歩く速度を急激に変化させている歩行者
- ・ 物陰から飛び出してきた歩行者
- ・ 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■ PCS 警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
 - ・ 前方センサーの周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
 - ・ カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：
→ P. 324）
 - ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき
- 状況が改善されても PCS 警告灯が点滅または点灯、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ VSC を停止したとき

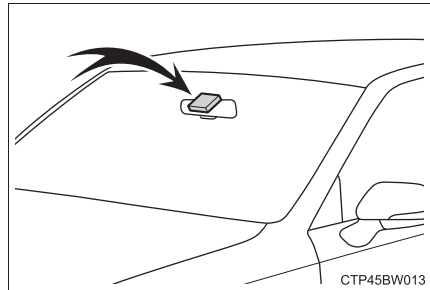
- VSC の作動を停止（→ P. 302）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA (レーンディパーチャーアラート※ [ステアリング制御機能付き])

機能概要

白(黄)線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDA は、フロントウィンドウガラス上部のカメラセンサーで、白(黄)線を認識します。

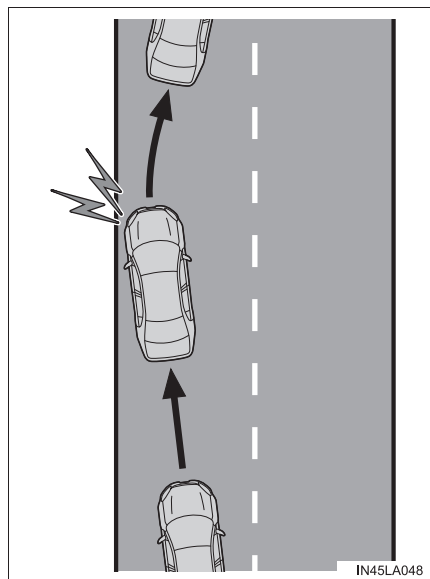


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白(黄)線内の中央付近にもどってください。

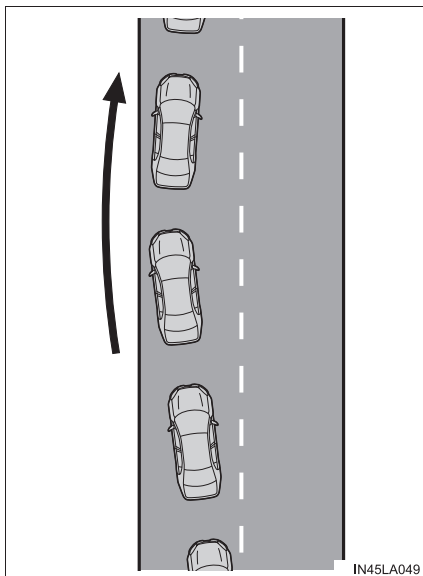


※：車線逸脱警報

◆ ステアリング制御機能

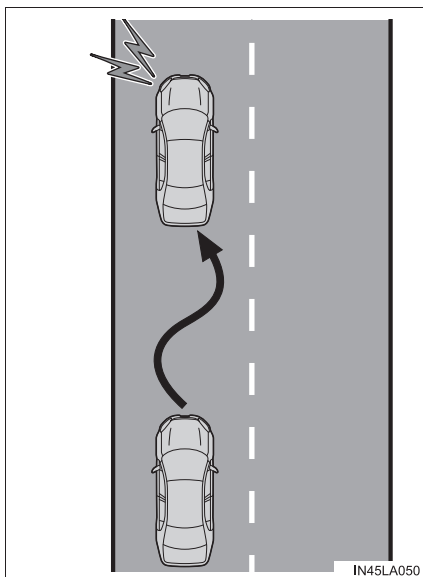
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



 **警告****■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき

警告**■LDA の故障、または誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

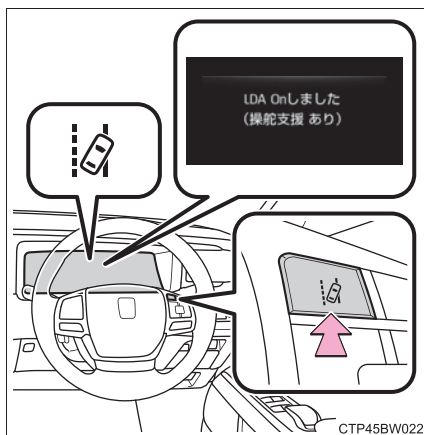
設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON/OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



CTP45BW022

マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

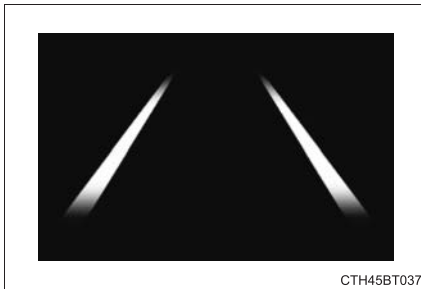
② ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

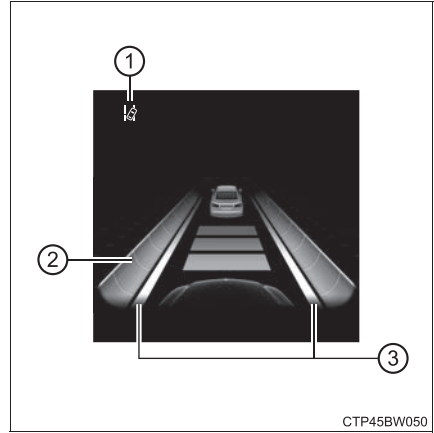
③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえ则表示されます。

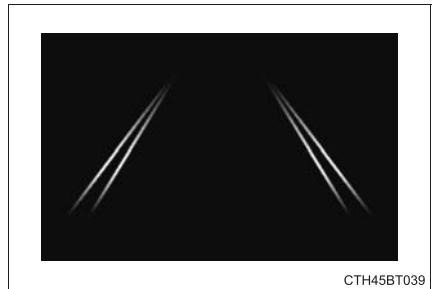
▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。



▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■各機能の作動条件


●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 255）


●ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  画面で「操舵支援」を「ON」に設定しているとき（→ P. 95）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を停止していないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→ P. 253）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  画面で「ふらつき検知」を「ON」に設定しているとき（→ P. 95）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 255）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 252）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→ P. 252）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかったり、ステアリング制御機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

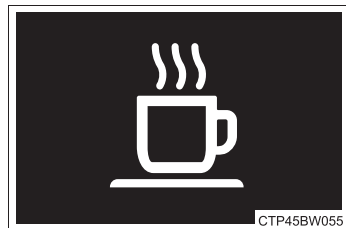
車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

ふらつき警報機能作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルが表示され注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鎮）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA 故障 販売店で点検 してください	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある → トヨタ販売店で点検を受けてください。
LDA 現在利用できません	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している → いったん LDA を OFF にして、警告メッセージの内容に対処したあと、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください。
LDA 約 50km/h 以下で使用できません	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません。 → 約 50km/h より速い速度で走行してください。
LDA 現在の車速では使用できません	車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません → 車速を落として走行してください。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 95)

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

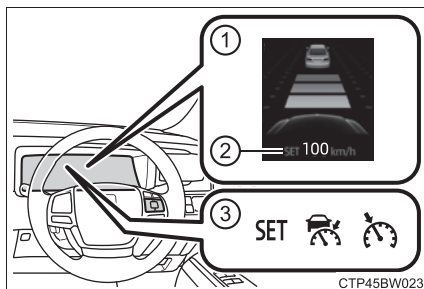
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 259）
- 定速制御モード（→ P. 265）

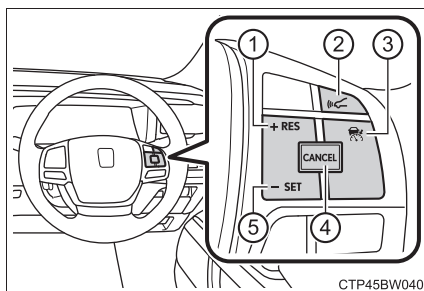
■ メーター表示

- ① マルチインフォメーションディスプレイ
- ② 設定速度
- ③ 表示灯



■ 操作スイッチ

- ① + RES スイッチ
- ② 車間距離切りかえスイッチ
- ③ クルーズコントロールメインスイッチ
- ④ キャンセルスイッチ
- ⑤ - SET スイッチ



 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→ P. 267
- ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→ P. 268
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムをOFFにしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

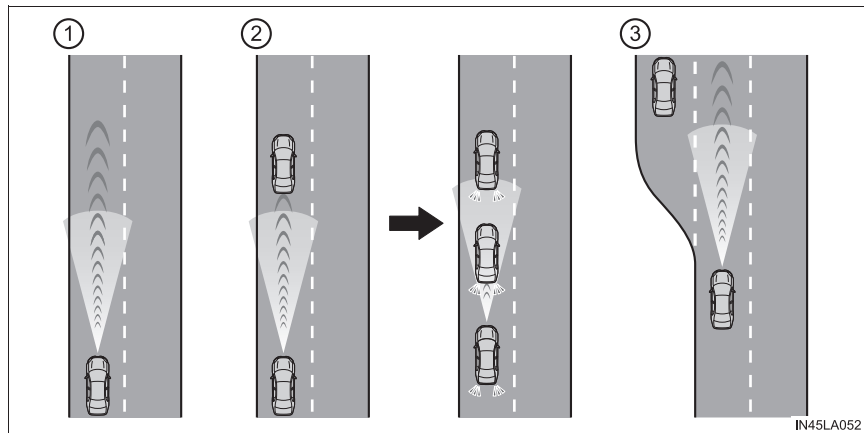
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



- ① 定速走行：
先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

- ② 減速走行ー追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、+RES スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります。

- ③ 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

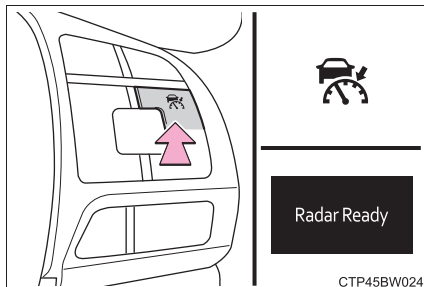
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 レーダークルーズコントロールメインスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFFにするには再度スイッチを押しません。

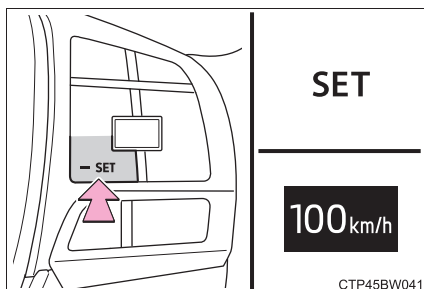
レーダークルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 265）



- 2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、-SETスイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



車速が約 50km/h 未満、かつ先行車がいる状態でスイッチを操作したときは、設定速度が約 50km/h にセットされます。

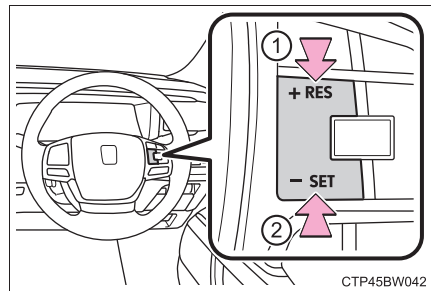
設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで+ RES スイッチまたは- SET スイッチを押します。

- ① 速度を上げる
(車間制御モードの制御停車中は除く)
- ② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード (→ P. 265) では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

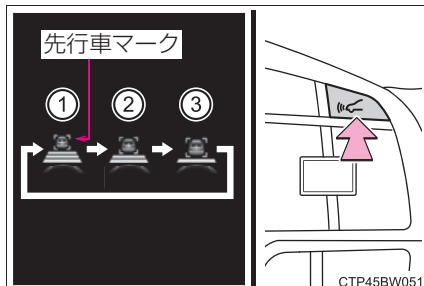
車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

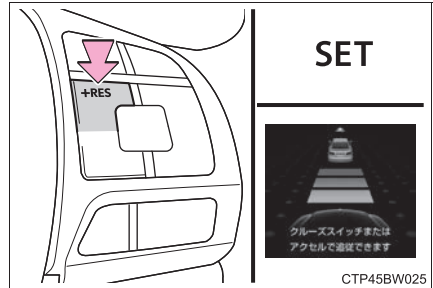
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

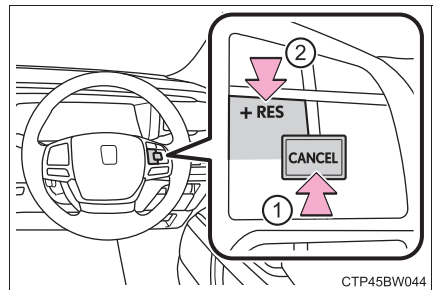
先行車の発進後、+ RES スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる

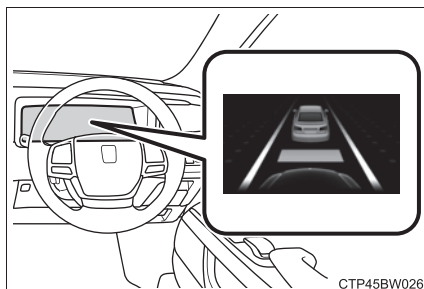
- ① 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）
- ② 制御を復帰させるには、+ RES スイッチを押す



ただし、車速が約 40km/h 以下で、かつ先行車を検知していないときは、復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

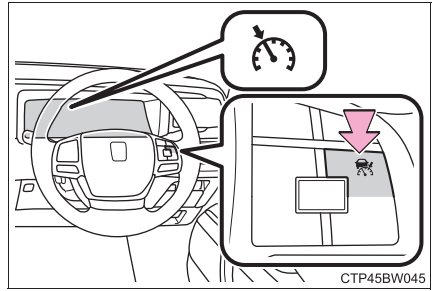
- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1** クルーズコントロールが OFF の状態で、レーダークルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

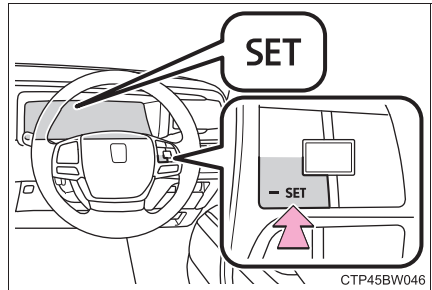


システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

- 2** 希望の車速(約 40km/h 以上)までアクセルペダル操作で加速／減速し、- SET スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

→ P. 261

制御を解除する・復帰させる

→ P. 263

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- 車速が約 50km/h 以上のとき設定できます。
(ただし、先行車を検知しているときは、約 50km/h 未満でも設定できます)

■ 速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に + RES スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 先行車がないときに車速が約 40km/h 以下になったとき
- 車速が約 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかったとき (マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズできません 先行車無し」が表示されます)
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- 走行モードをスノーモードにセットしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 40km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ブレーキシステムの作動音

車間制御モードで走行中に自動でブレーキがかかると、ブレーキシステムの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

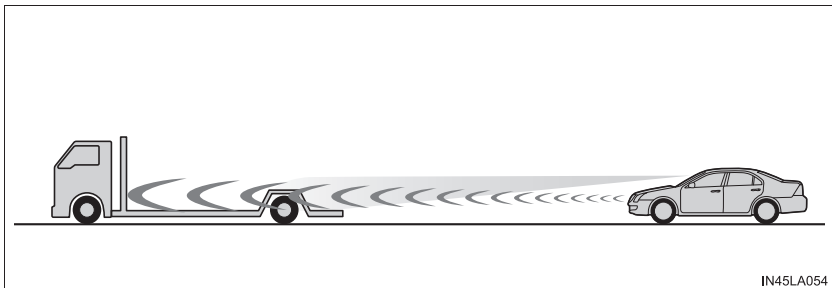
■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 264）も作動しないおそれがあります。

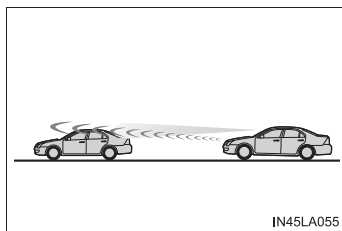
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



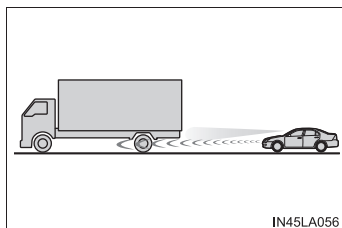
IN45LA054

- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

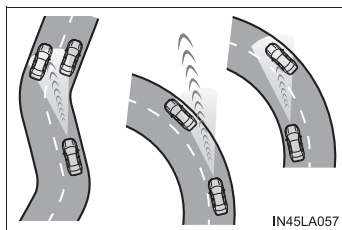


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

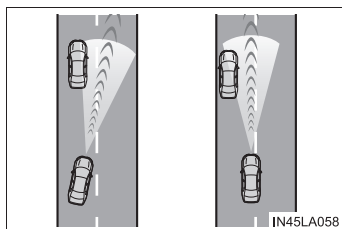
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

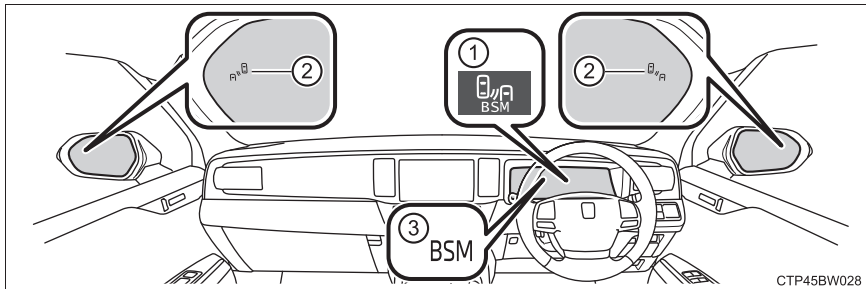


- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

システムの構成部品



① マルチインフォメーションディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

② ドアミラーインジケーター





ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

③ BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえるには

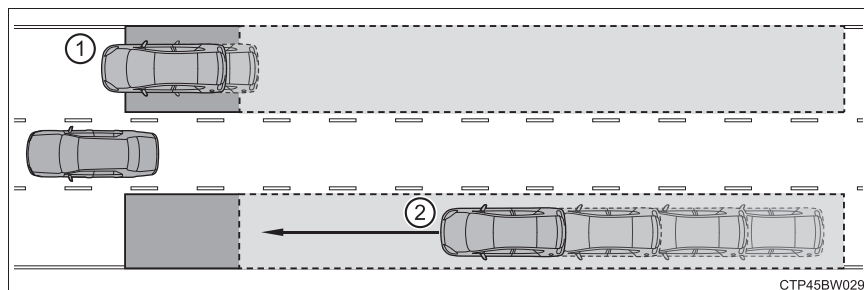
メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。

- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する
- 3 メーター操作スイッチの  を押す
 を押すたびに ON/OFF が切りかわります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

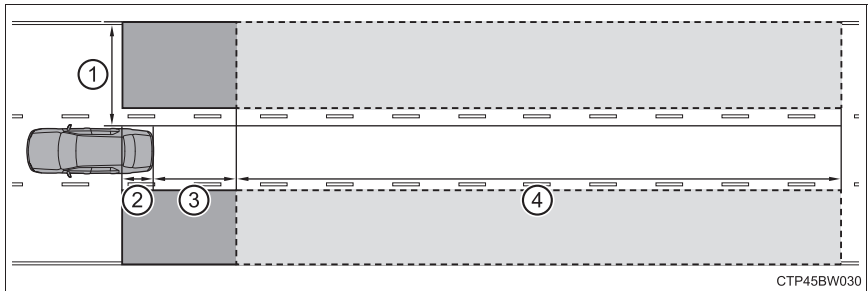
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- ① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- ② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に車両を検知します。



- ① 車両の両側面について、側面から 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域^{※1}
- ② リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- ③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- ④ リヤバンパーから後方約 3m ~ 60m の領域^{※2}

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

 知識**■ ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 現在使用できません”が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ ブラインドスポットモニターの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 車速が 16km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など[※]
- 対向車
- ガードレール・壁・駐車車両などの静止物[※]
- 同一車線を走行する後続車[※]
- 2 つ隣の車線を走行する他車[※]
- 大きい速度差で自車が追い越す他車[※]

[※] 状況によっては検知することがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

● 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後

● 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。

(→ P. 95)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

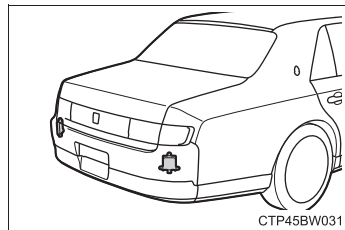
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→ P. 272）とともにシステムが作動なくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→ P. 272）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

警告

- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください。

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



PKSA（パーキングサポートアラート）

PKSA（パーキングサポートアラート）は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー、レーダーで後方接近車両を検知しお知らせするRCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

◆ クリアランスソナー

→ P. 278

◆ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

→ P. 288






警報ブザー

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTAのブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 91）


■ ブザー音量調整

- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択し、 を押し続ける
- 3 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して  を選択し、 を押す

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

 を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- ・ シフトポジションを切りかえたとき
- ・ 車速が一定値以上になった場合
- ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
- ・ パワースイッチを OFF にしたとき

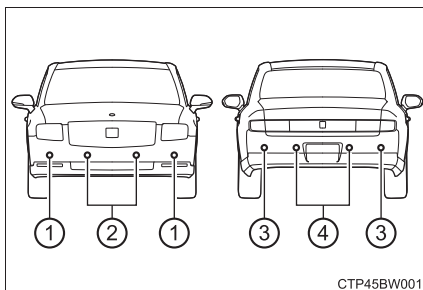
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー



CTP45BW001

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはナビゲーション画面に表示されます。

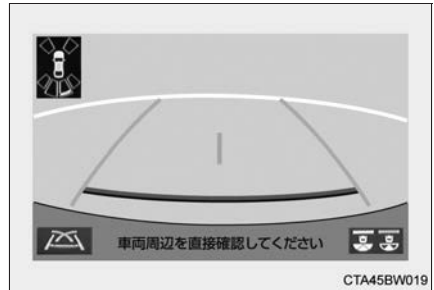
● マルチインフォメーションディスプレイの表示

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② フロントセンターセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ リヤセンターセンサー作動表示



● ナビゲーション画面の表示

バックガイドモニター使用時、作動対象を検知するとナビゲーション画面上に自動表示されます。



システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。(→ P. 95)

- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して **⚙** を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して **PKSA** を選択し、**OK** を押し続ける
- 3 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して **PA** を選択し、**OK** を押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、マルチインフォメーションディスプレイ上にクリアランスソナー OFF 表示灯 (→ P. 83) が表示されます。

OFF (停止) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの **⚙** から **PA** を ON (作動) にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにしても、復帰しません)

 **警告****■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意


- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

 知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON モードのとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■ ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの  からブザー音量を変更することができます。(→ P. 95)

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません
ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

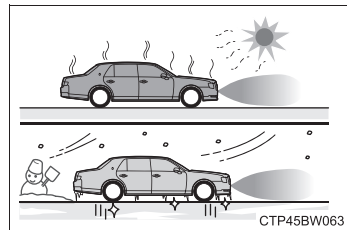
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



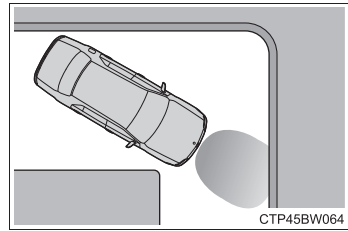
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

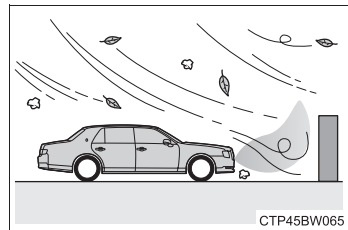
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

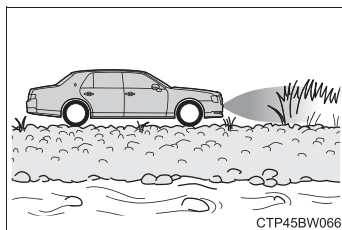


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

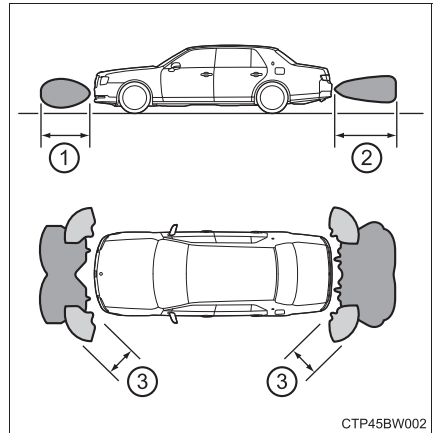
距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

- ① 約 100cm
- ② 約 150cm
- ③ 約 65cm

検知できる範囲は図のとおりです。
ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。



- 静止物までのおおよその距離：約 150cm ~ 65cm（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面



- 静止物までのおおよその距離：約 100cm ~ 65cm（フロントセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面
	—


- 静止物までのおおよその距離：約 65cm ~ 45cm

マルチインフォメーション ディスプレイ	ナビゲーション画面
	

- 静止物までのおおよその距離：約 45cm ~ 30cm



マルチインフォメーション ディスプレイ	ナビゲーション画面
	

- 静止物までのおおよその距離：約 30cm ~ 15cm

マルチインフォメーション ディスプレイ※	ナビゲーション画面※
	

※ 点灯および枠が遅い点滅

- 静止物までのおおよその距離：約 15cm 以下

マルチインフォメーション ディスプレイ※	ナビゲーション画面※
	

※ 点灯および枠が早い点滅

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)

RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

システムの構成部品

① メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

② ドアミラーインジケーター

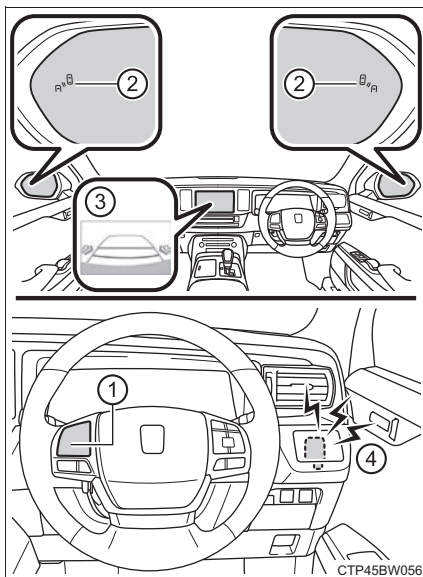
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ ナビゲーション画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面に検知した側の RCTA アイコン (→ P. 289) が点灯します。イラストは両後方から車両が接近している例です。




④ RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。



設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。(→ P. 95)

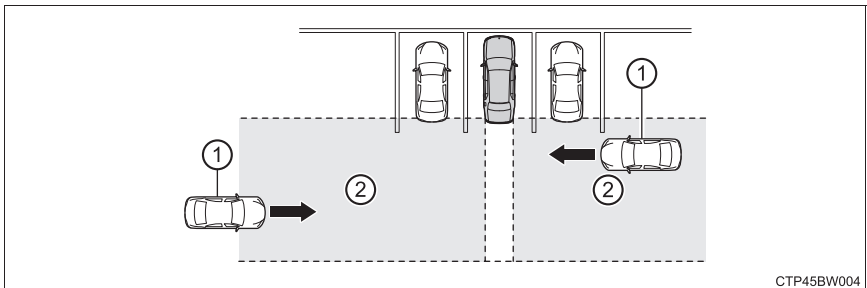
- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して **PKSA** を選択し、 を押し続ける
- 3 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して **RCTA** を選択し、 を押す

RCTA 機能が OFF のときは、RCTA OFF 表示灯 (→ P. 83) が点灯します。パワースイッチが ON モードになるたび、RCTA 機能は ON になります。

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



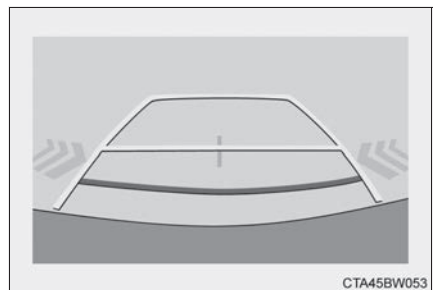
CTP45BW004

- ① 接近車両
- ② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面上に次の表示をします。

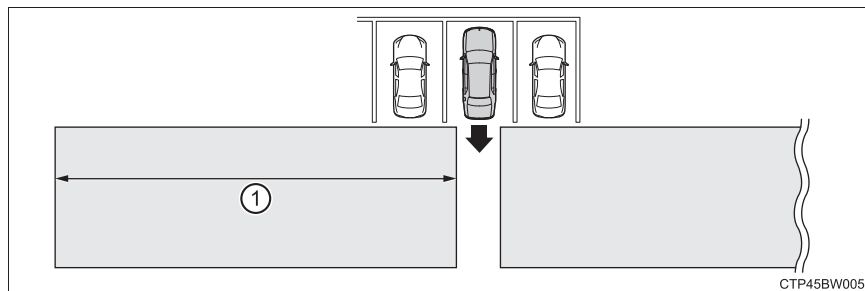
例：両方向から車両が接近しているとき



CTA45BW053

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



CTP45BW005

速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	① 警報距離（概算）
早い	28km/h	20m
遅い	8km/h	5.5m

□ 知識

■ ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「RCTA 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ 後側方レーダーセンサーについて


→ P. 274

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON モードのとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の车速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の车速が約 8km/h ~ 28km/h のあいだのとき

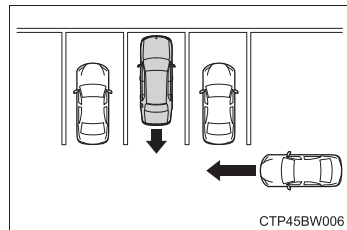
■ ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの  からブザー音量を変更することができます。(→ P. 95)

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両

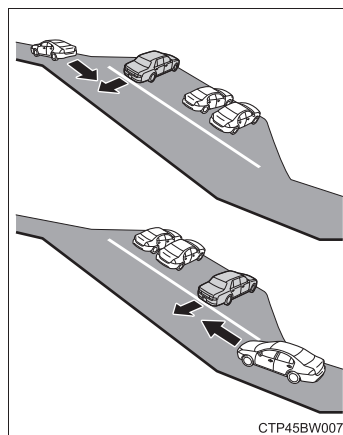


- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型の二輪車・自転車・歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

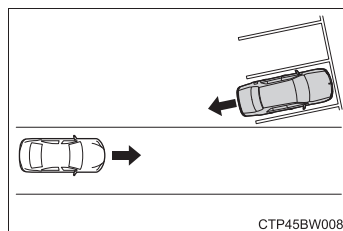
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

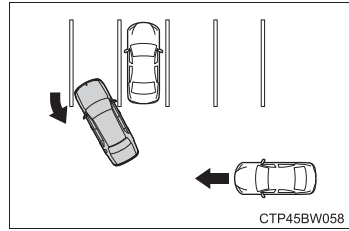


- 斜めの駐車場から出庫するとき

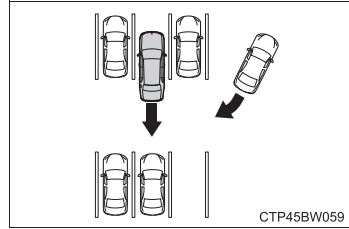


- 検知範囲に入る他車と自車の高さの差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- 自車が旋回しているとき



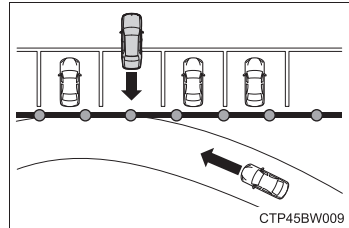
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



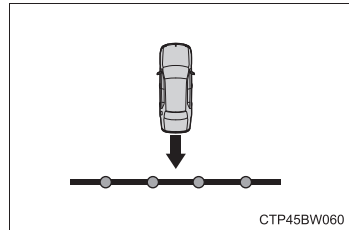
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき

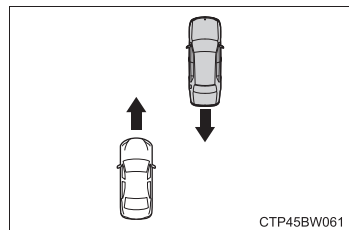


- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

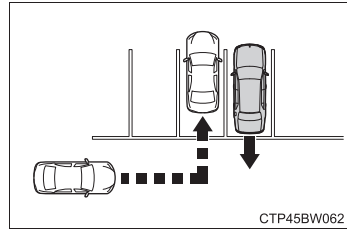


- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
(→ P. 274)

■ システムを正しく作動させるために

→ P. 274

ドライブモードセレクト

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

◆ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

◆ エコドライブモード

スロットルの特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）も作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

◆ スポーツモード

・ スポーツ S モード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。

・ スポーツ S+ モード

ハイブリッドシステムに加え、サスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

走行モードを選択するには

ハンドルのメーター操作スイッチを操作して、次のように設定を変更します。（→ P. 95）

- ① ▲ または ▼ を押して  を選択する
- ② ◀ または ▶ を押して “DRIVE MODE” を選択する
- ③ お好みのモードを選択し、 を押す

ノーマルモード以外を選択すると、選択したモードの表示灯が点灯します。（→ P. 83）

スポーツ S モードを選択してから、再度  を押すとスポーツ S+ モードに切りかわります。

 知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードは、パワースイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

電子制御エアサスペンション

乗員や荷物重量にかかわらず、一定の車高を維持します。
また、車高選択スイッチで車高を選択することができます。

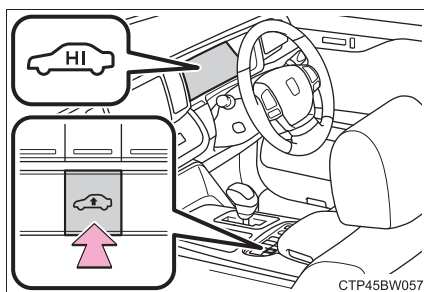
車高を選択するには

路面の状況や走行状態にあわせて、車高選択スイッチで HIGH 車高を選択することができます。

HIGH 車高にするにはスイッチを押す

HIGH 車高を選択すると、メーター内のエアサスペンション HIGH モード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、もとに戻ります。



知識

■ 作動条件

ハイブリッドシステムが作動しているとき

■ 車高制御の保護機能

車高選択スイッチの操作などで車高の昇降を繰り返すと、システムが一時的に作動しなくなることがあります。

■ 車高制御が正常に作動しないおそれのある状況

- 次のような状況では、車高の昇降速度が遅くなったり、正常な車高まで昇降しないおそれがあります。
 - ・ 車体が雪・氷・石などにあたるとき
 - ・ 気温が低いとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
 - ・ ブレーキホールドシステムが作動しているとき
 - ・ 段差や凹凸の大きい道路
 - ・ 傾斜した道路

■エアサスペンション用コンプレッサーの作動音

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときやHIGHモードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがあります。異常ではありません。

■マルチインフォメーションディスプレイに「エアサスペンションシステムチェック」と表示されたときは

システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■エアサスペンションについて

次の状況では、エアサスペンションの作動を停止するために、ハイブリッドシステムを停止してください。車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- 車両を固縛するとき
- レッカー車などで車両を持ち上げてけん引するとき

■車高制御について

車高選択スイッチで車高を変えるときは、十分に周囲の安全を確かめてください。車高が変わったときに、車両に体が挟まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■駐車するとき

長時間駐車する場合、気温の変化などにより車高が変わることがあります。駐車するときは、車高が変わったときに車体に接触するものがないことを確認してください。

乗員が降りたときは、通常より車高が高くなりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するとき横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

◆ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ NAVI・AI-AVS

(AVS : アダプティブバリアブルサスペンションシステム)

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトでスポーツS+モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。

(→ P. 295)

◆ VDIM (ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPSを総合的に制御します。

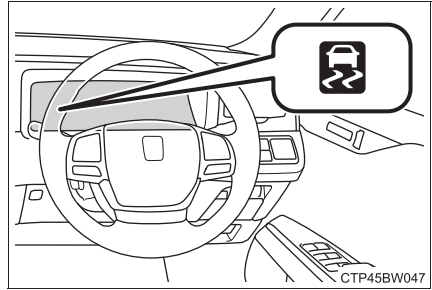
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ 緊急ブレーキシグナル


急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。


TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。




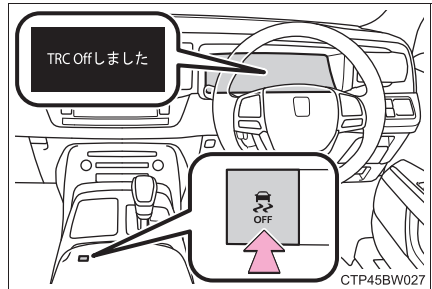
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。*

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

* ブリクラッシュブレーキアシスト・ブリクラッシュブレーキの作動も停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 240)

■  を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

車速が約 10km/h 以上で、SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき（車速が約 10km/h 未満では作動しません）

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にセカンダリーコリジョンブレーキが解除されます。

- 車速が約 10km/h 未満になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

 **警告****■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 **警告****■ セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 487）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、燃費向上につながります。(→ P. 319)

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 88)

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON/OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりまますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→ P. 388）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→ P. 201)
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ~ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーンを取り付けるときは

電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ハイブリッドシステムを停止してください。車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）を使用しない

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するとき

トヨタ販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。(タイヤについての詳しい説明は P. 388 を参照してください)

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

- 5-1. リヤマルチ
 オペレーションパネル
 リヤマルチ
 オペレーションパネル 314
- 5-2. エアコンの使い方
 フロントオートエアコン 319
 リヤオートエアコン 330
 ステアリングヒーター／
 シートヒーター／
 シートベンチレーター 334
- 5-3. 室内灯のつけ方
 室内灯一覧 338
 ・インテリアランプ 339
 ・パーソナルランプ 340
 ・読書灯 340
- 5-4. 収納装備
 収納装備一覧 342
 ・グローブボックス 343
 ・コインホルダー 343
 ・コンソールボックス 344
 ・ドアポケット
 （フロント席） 345
 ・カップホルダー 346
 ・小物入れ 347
 トランク内装備 349
- 5-5. その他の室内装備の
 使い方
 その他の室内装備 353
 ・サンバイザー 353
 ・バニティミラー 353
 ・アクセサリースOCKET 354
 ・アクセサリー
 コンセント 355
 ・充電用 USB 端子 356
 ・時計 358
 ・シートバックポケット
 （運転席側のみ） 358
 ・リヤアームレスト 358
 ・ライティングテーブル 359
 ・マガジンラック 359
 ・リヤドアカーテン 360
 ・電動リヤカーテン 361
 ・コートフック 364
 ・靴べら差し 364

リヤマルチオペレーションパネル

リヤアームレスト内のオペレーションパネルを使って、オーディオ・エアコン・シートなどの操作をすることができます。

リヤマルチオペレーションパネルの操作について

操作するときは、リヤアームレストのライティングテーブルを格納します。

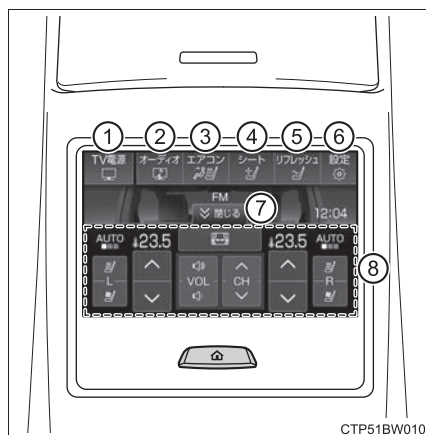
■ HOME 画面

 を押す

長押しすると、画面が OFF になります。

リヤアームレストのライティングテーブルを引き出しても画面が OFF になります。

- ① TV の電源 ON / OFF を切りかえる（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。）
 - ② オーディオ操作画面を表示する（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。）
 - ③ リヤエアコン操作画面を表示する（→ P. 331）
 - ④ シート操作画面を表示する（→ P. 140, 143, 146）
 - ⑤ リフレッシュシステム操作画面を表示する（→ P. 149）
 - ⑥ リヤマルチオペレーションパネル設定画面を表示する（→ P. 315）
 - ⑦ ショートカットスイッチ
- 押すごとに表示／非表示が切りかわります。



CTP51BW010

⑧ ショートカット画面

次の機能を操作できます。

- ・ リヤエアコンの温度設定 (→ P. 332)
- ・ リヤシートヒーター/リヤシートベンチレーター★ (→ P. 337)
- ・ オーディオ (詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。)
- ・ 電動リヤカーテンの開閉★ (→ P. 361)

■ リヤマルチオペレーションパネル設定画面

画面の操作規制の設定や画面の明るさを調整できます。

- ① 画面を消す
- ② 画面の明るさを調整する
- ③ 自動表示切替
- ④ 画面操作をロックする



■ 自動表示切替画面

- ① 一定時間画面操作を行わなかった場合、自動で画面が切りかわるかを設定できます。
- ② HOME 画面に切りかえるか画面表示を消すかを設定できます。
- ③ 操作を行わなかった場合、画面表示が切りかわる時間を 10 秒、30 秒、60 秒、120 秒の間で設定できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ 画面操作のロックを解除する

「画面ロック解除（長押し）」をステータスがすべて点灯するまで押し続ける



 知識

■ リヤマルチオペレーションパネルの取扱いについて


- 操作は指で行ってください。爪やペンなどでは操作できません。
- 操作は一本の指で行ってください。他の指がふれていると操作できないことがあります。
- パワースイッチをアクセサリモードまたはONモードにしたとき、パネル上に手や物が置かれていたり、水や異物が付着していると、誤作動を起こすことがあります。その場合、それらを取り除き、30秒ほど待ってから操作してください。万一、パネルの反応が元に戻らない場合は、 ボタンを長押しして画面をOFFにし、再度  ボタンを押してから操作を行ってください。
- 以下の場合、リヤマルチオペレーションパネルが正しく反応しなかったり、誤作動することがあります。
 - ・ 手袋を着用しているとき
 - ・ 濡れた手で操作したとき
 - ・ パネル面にフィルムを貼ったり、塗装をしたとき
 - ・ パネル面に水分や汚れが付着しているとき
 - ・ 近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - ・ 無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- リヤマルチオペレーションパネルが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、リヤマルチオペレーションパネルが反応しなかったり、誤作動することがあります。
 - ・ 小銭
 - ・ 鍵
 - ・ 財布やかばんの金属部品
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱やケース
 - ・ カイロ
 - ・ CD/DVDなどのメディアやUSBなどのケーブル
 - ・ スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などの機器
- リヤマルチオペレーションパネルが汚れていると、操作の反応が悪くなる場合があるため、定期的に清掃を行ってください。また、リヤマルチオペレーションパネルを清掃する際は、誤作動を防ぐため、画面をOFFにした状態で行ってください。

 **注意****■ リヤマルチオペレーションパネルの故障を防ぐために**

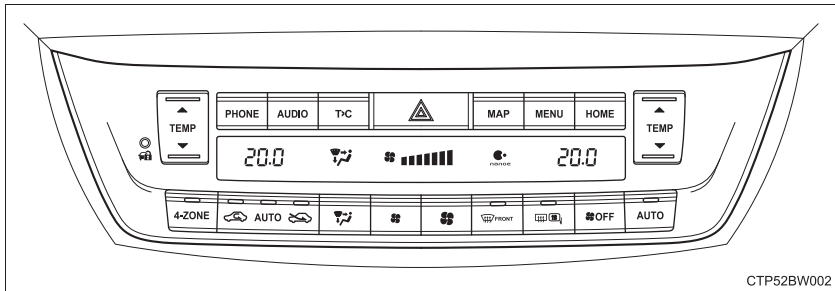
- リヤマルチオペレーションパネルに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。
- リヤマルチオペレーションパネルの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- リヤマルチオペレーションパネルを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

フロントオートエアコン




設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

 を押して、「エアコン」を選択するとフロントエアコン操作画面が表示されます。

エアコン操作スイッチについて





■ 温度を調整する


温度を上げるときは  の  を押し、下げるときは  を押し

フロントエアコン操作画面で「A/C」が選択されていない場合は、送風または暖房で使用できます。


■ 風量を切りかえる

風量を増やすには： を押し

風量を減らすには： を押し

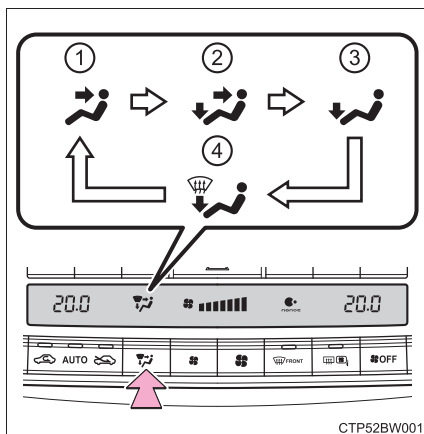
ファンを止めるときは  を押し

■ 吹き出し口を切りかえる


を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

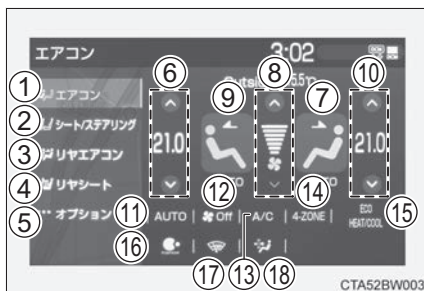
- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



フロントエアコン操作画面について

を押して、「エアコン」を選択する

- ① フロントエアコン操作画面を表示する
- ② フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター★／ステアリングヒーター操作画面を表示する（→ P. 335）
- ③ リヤエアコン操作画面を表示する（→ P. 330）



- ④ リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター★操作画面を表示する（→ P. 336）
- ⑤ オプション操作画面を表示する（→ P. 322）
- ⑥ 助手席の温度を調整する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑦ 運転席側の吹き出し口を切りかえる



: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風



: 足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外にも送風する場合があります。

⑧ 風量を切りかえる

⑨ 助手席側の吹き出し口を切りかえる

⑩ 運転席の温度を調整する

⑪ 吹き出し口と風量が自動的に調整される (→ P. 323)

⑫ ファンを停止する

⑬ 冷房・除湿する

「A/C」が選択されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

⑭ 運転席と助手席およびリヤ席左右の設定温度を別々に設定する (独立モード) (→ P. 323)

⑮ エコ空調モードに設定する (→ P. 326)

⑯ 「ナノイー」を作動させる (→ P. 327)

⑰ フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ (フロントワイパーデアイサー★) (→ P. 325)

⑱ 花粉を除去する (花粉除去モード) (→ P. 324)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オプション操作画面

フロントエアコン操作画面(→P. 320)で、「オプション」を選択する
各機能の ON/OFF を切りかえることができます。機能が ON のとき、スイッチ
の色が明るくなります。

- ① 運転席と助手席およびリヤ席
左右の設定温度を別々に設定
する(独立モード)(→P. 323)

- ② エコ空調モードに設定する
(→ P. 326)

- ③ 冷房・除湿する

「A/C」が選択されていない場合は、
送風または暖房で使用できます。

- ④ 「ナノイー」を作動させる(→P. 327)



- ⑤ フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ(フロ
ントワイパーデアイサー★)(→P. 325)

- ⑥ 花粉を除去する(花粉除去モード)(→P. 324)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する


- 1  を押す、またはフロントエアコン操作画面で「AUTO」を選択する。
- 2 温度を設定する
- 3 ファンをとめたいときは、 を押す、またはフロントエアコン操作画面で「OFF」を選択する。

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの表示色は反転しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。


■ 運転席と助手席およびリヤ席左右の設定温度を別々に設定する（独立モード）

次のいずれかの操作をすると、独立モードが ON になります。

-  を押す
押すごとに ON/OFF が切りかわります。
- フロントエアコン操作画面（→ P. 320）で「4 -ZONE」を選択する
- オプション操作画面（→ P. 322）で「4 -ZONE」を選択する
- 運転席以外の設定温度を変更する
独立モードになりスイッチの色が明るくなります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには


 を押す

ボタンを押すたびに内気循環→AUTO→外気導入に切りかわります。選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。


AUTO を選択したときは、内気循環と外気導入の切りかえを自動で行います。また、トンネル情報を考慮して最適な内外気設定に切りかえます。(トンネル連動内気※)

※ トンネル連動内気の設定を変更することができます。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ フロントウィンドウガラスの曇りをとるには


 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。


■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

リヤウインドウデフォグガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ 花粉除去機能を使用するには

フロントエアコン操作画面 (→ P. 320)、またはオプション操作画面 (→ P. 322) で  を選択する。


内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントエアコン操作画面 (→ P. 320)、またはオプション操作画面 (→ P. 322) で  を選択する。

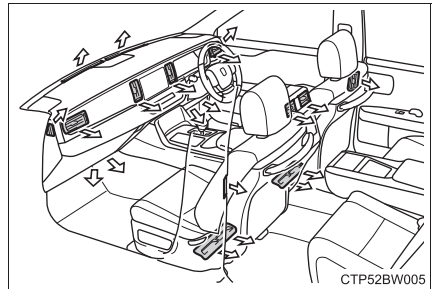
フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの色が明るくなります。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

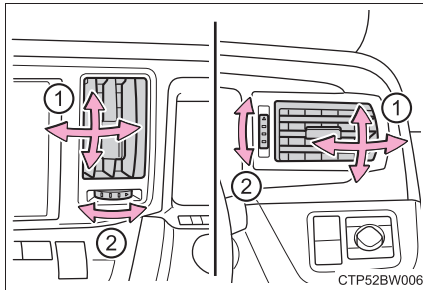
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。(→ P. 320)



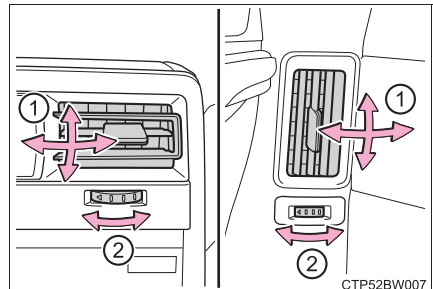
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロントセンター/サイド

▶ リヤセンター/サイド




① 風向きの調整



② 吹き出し口の開閉

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、「A/C」を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 「A/C」を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 329）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき




「A/C」を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する。
 - ・ エコドライブモードを解除する。

■「ナノイー」※¹について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は助手席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」も作動します。
- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
 - ・吹き出し口が 、 または  のとき
 - ・助手席中央側の吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※¹ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。


■エアコンフィルターについて

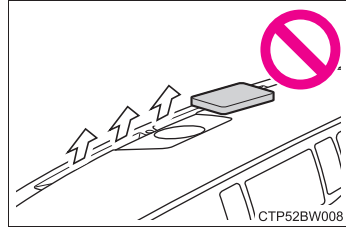
→ P. 400

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 495)

警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー★作動中の警告**

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

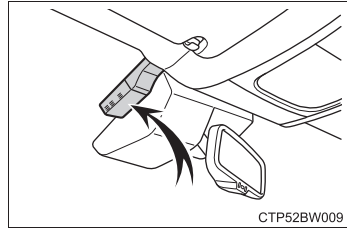
このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意**■ 湿度センサーについて**

フロントウインドウガラスの曇り検知（→ P. 326）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- 湿度センサーにシールなどを貼らない

**■ 「ナノイー」の損傷を防ぐために**

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

ナビゲーション画面、またはリヤマルチオペレーションパネルで操作することができます。

リヤエアコン操作画面について

■ ナビゲーション画面

フロントエアコン操作画面(→P. 320)で、「リヤエアコン」を選択する

- ① 助手席側リヤ席の温度を調整する
- ② 助手席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる



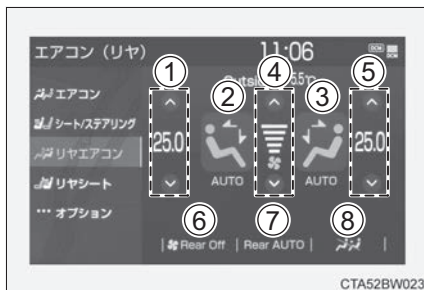
: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風



CTA52BW023

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

- ③ 運転席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる
状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。
- ④ リヤ席の風量を切りかえる
- ⑤ 運転席側リヤ席の温度を調整する
- ⑥ リヤ席のファンを停止する
- ⑦ リヤ席の吹き出し口と風量が自動的に調整される (→ P. 332)
- ⑧ リヤ席操作禁止機能の ON/OFF を切りかえる

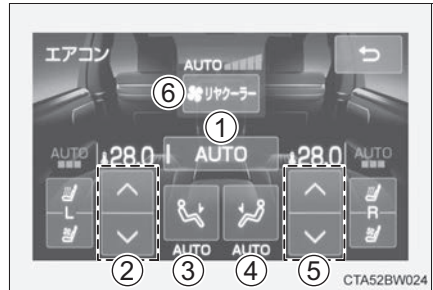
■ リヤマルチオペレーションパネル

▶ エアコン操作画面

HOME 画面 (→ P. 314) で「エアコン」を選択する

リヤ席操作禁止機能が ON のときは、リヤマルチオペレーションパネルでは操作できません。

- ① リヤ席の吹き出し口と風量が自動的に調整される (→ P. 332)
- ② 助手席側リヤ席の温度を調整する
- ③ 助手席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる



: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

- ④ 運転席側リヤ席の吹き出し口を切りかえる
状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。
- ⑤ 運転席側リヤ席の温度を調整する
- ⑥ リヤクーラー調整画面を表示する (→ P. 331)

▶ リヤクーラー調整画面

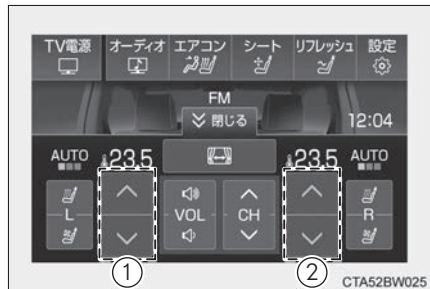
エアコン操作画面で「リヤクーラー」を選択する

- ① ルーフサイド吹き出し口からの風量を切りかえる
- ② ルーフサイド吹き出し口からの送風を停止する



▶ ショートカット画面

- ① 助手席側リヤ席の温度を調整する
- ② 運転席側リヤ席の温度を調整する



オート設定で使用する

■ ナビゲーション画面

- ① リヤエアコン操作画面 (→ P. 330) で「Rear AUTO」を選択する
- ② 温度を設定する
- ③ ファンをとめたいときは「Rear Off」を選択する

■ リヤマルチオペレーションパネル

- ① エアコン操作画面 (→ P. 331) で「AUTO」を選択する
- ② 温度を設定する
- ③ ルーフサイド吹き出し口からの送風をとめたいときは「リヤクーラー」を選択し、「OFF」を選択する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、Rear AUTO スイッチの表示色は反転しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 各席の温度を設定する

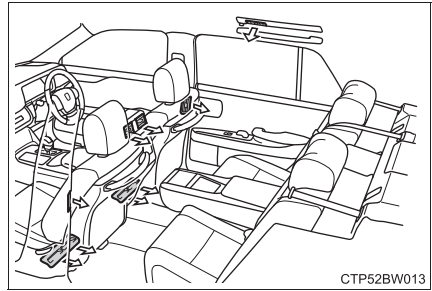
次のいずれかの操作をすることで、リヤ席の温度を設定できます。

- 独立モード (→ P. 323) が OFF のとき運転席の温度を設定する
リヤ席の温度が運転席と同じ温度に設定されます。
- ナビゲーション画面のリヤエアコン操作画面もしくはリヤマルチオペレーションパネルでリヤ席の温度を設定する
操作した席の温度のみ設定されます。(独立モード)

吹き出し口について

■ 吹き出し口について

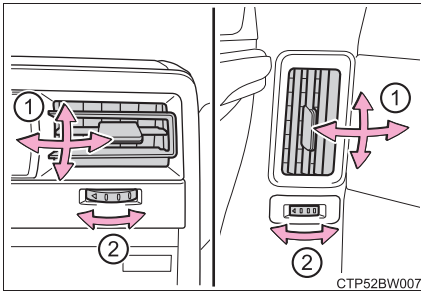
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。(→ P. 330)



CTP52BW013

■ 風向き調整と吹き出し口の開閉

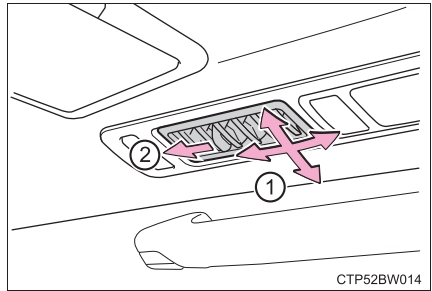
▶ リヤセンター／サイド



CTP52BW007

① 風向き調整

▶ ルーフサイド



CTP52BW014

② 吹き出し口の開閉

知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、「Rear AUTO」、またはリヤマルチオペレーションパネルで「AUTO」スイッチを選択した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター★

ハンドル左右のグリップ部やシートを温めたり、シートから風を出して通気をよくできます。ナビゲーション画面やリヤマルチオペレーションパネルで操作することができます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたがステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

- シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作画面について

■ ナビゲーション画面

- ▶ ステアリングヒーター／フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーター操作画面

フロントエアコン操作画面 (→ P. 320) で、「シート／ステアリング」を選択する

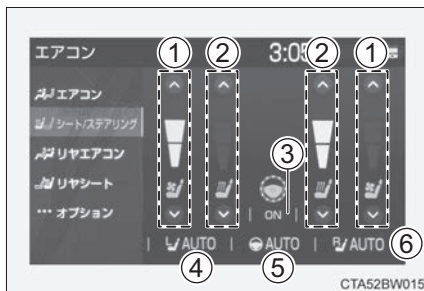
- ① シートベンチレーター★の風量を切りかえる

弱・中・強の3段階に調整できます。

- ② シートヒーターの温度を調整する

弱・中・強の3段階に調整できます。

- ③ ステアリングヒーターの ON/OFF を切りかえる



- ④ 助手席側シートヒーター／シートベンチレーター★のAUTOモードの ON/OFF を切りかえる

- ⑤ ステアリングヒーターの AUTO モードの ON/OFF を切りかえる

- ⑥ 運転席側シートヒーター／シートベンチレーター★のAUTOモードの ON/OFF を切りかえる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーター操作画面

フロントエアコン操作画面(→P. 320)で、「リヤシート」を選択する

- ① シートベンチレーター★の風量を切りかえる

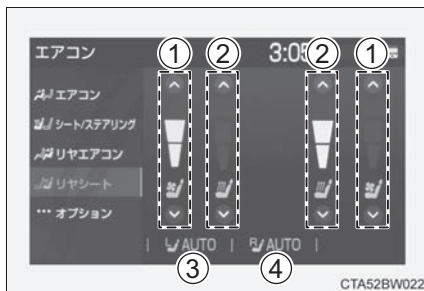
弱・中・強の3段階に調整できます。

- ② シートヒーターの温度を調整する

弱・中・強の3段階に調整できます。

- ③ 助手席側シートヒーター／シートベンチレーター★のAUTOモードのON/OFFを切りかえる

- ④ 運転席側シートヒーター／シートベンチレーター★のAUTOモードのON/OFFを切りかえる



■ リヤマルチオペレーションパネル

▶ エアコン操作画面

HOME 画面(→P. 314)で「エアコン」を選択する

リヤ席操作禁止機能が ON のときは、リヤマルチオペレーションパネルでは操作できません。

- ① リヤシートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター(橙)が次のように切りかわります。

AUTO → 強(3個点灯) → 中(2個点灯) → 弱(1個点灯) → OFF

- ② リヤシートベンチレーター★の風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター(青)が次のように切りかわります。

AUTO → 強(3個点灯) → 中(2個点灯) → 弱(1個点灯) → OFF



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ショートカット画面

① リヤシートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO → 強（3 個点灯） → 中（2 個点灯） → 弱（1 個点灯） → OFF

② リヤシートベンチレーター★の風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO → 強（3 個点灯） → 中（2 個点灯） → 弱（1 個点灯） → OFF


 知識

■ 作動条件

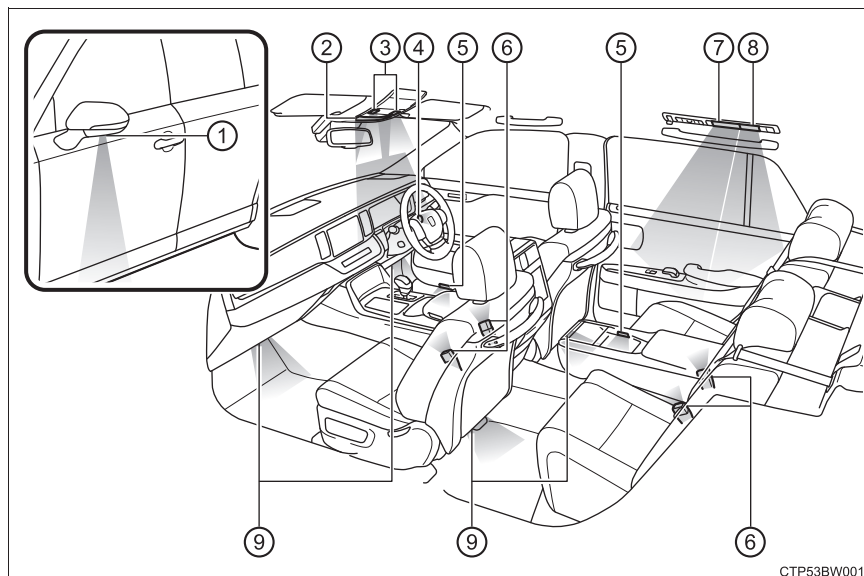
パワースイッチが ON モードのとき

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 496）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内灯一覧



① ドアミラー照明

② フロントインテリアランプ
(→ P. 339)

③ パーソナルランプ
(→ P. 340)

④ パワースイッチ照明

⑤ ドアカーテシランプ

⑥ シートベルトバックル照明

⑦ リヤインテリアランプ
(→ P. 339)

⑧ 読書灯
(→ P. 340)

⑨ 足元照明

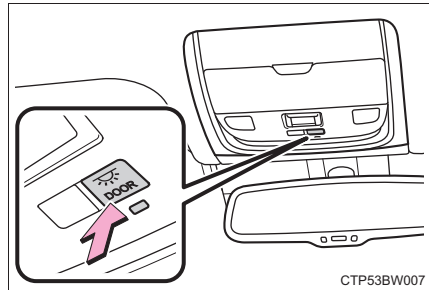
インテリアランプ

■ ドアポジション（ドア連動）を ON にする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

ON のときはインジケータが点灯します。

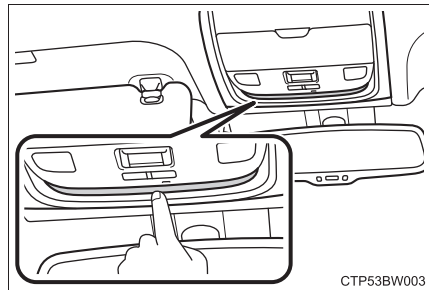


CTP53BW007

■ ランプを点灯・消灯する

▶ フロント

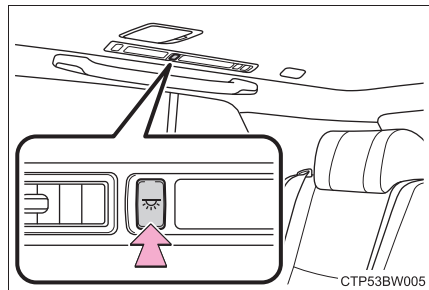
ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



CTP53BW003

▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する

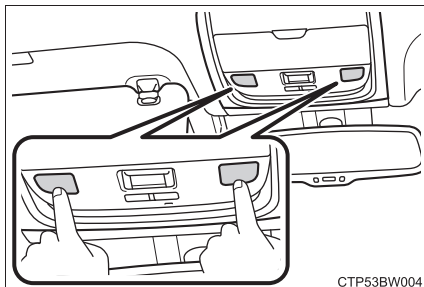


CTP53BW005

パーソナルランプ

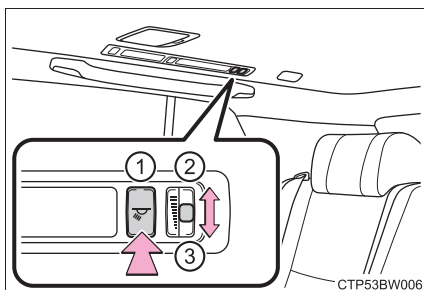
ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



読書灯

- ① 点灯／消灯
- ② 明るくする
- ③ 暗くする



知識

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。
- お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 497）

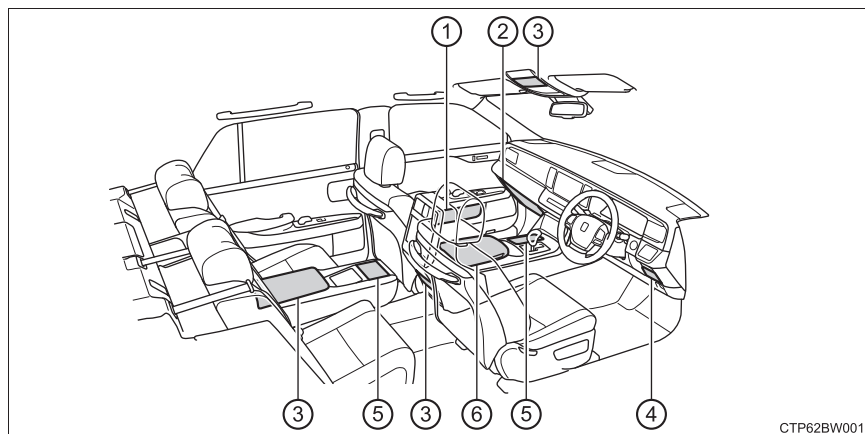
 **注意****■ 補機バッテリーあがり防止するために**

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ ランプのレンズの取りはずしについて

フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

収納装備一覧



CTP62BW001

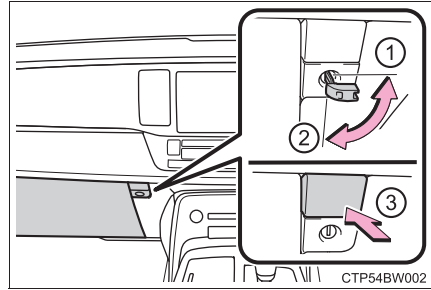
- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| ① ドアポケット (フロント席)
(→ P. 345) | ④ コインホルダー (→ P. 343) |
| ② グローブボックス (→ P. 343) | ⑤ カップホルダー (→ P. 346) |
| ③ 小物入れ (→ P. 347) | ⑥ コンソールボックス
(→ P. 344) |

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

- ① メカニカルキーで解錠
- ② メカニカルキーで施錠
- ③ 開ける（ボタンを押す）

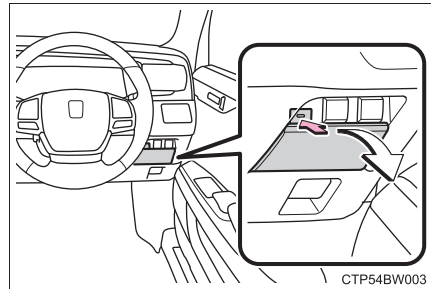


知識

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コインホルダー

ボタンを押す

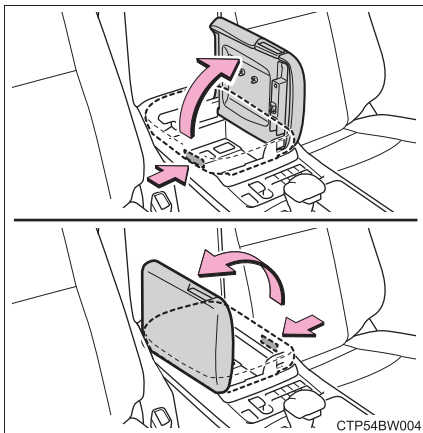


知識

車幅灯点灯時は、コインホルダー内のランプが点灯します。

コンソールボックス

ボタンを押してフタを開ける
両側から開けることができます。



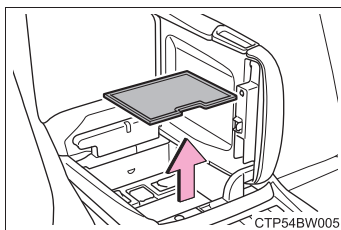
知識

■ コンソールボックス内のランプについて

車幅灯点灯時はコンソールボックス内のランプが点灯します。

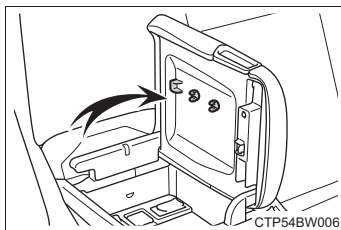
■ コンソールボックス内のトレイについて

トレイは取りはずすことができます。



■ ペンホルダー

フタの裏側にペンを取り付けることができます。

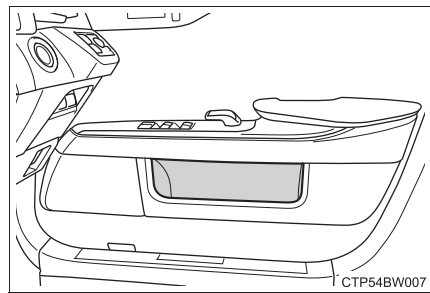


警告**■ 走行中の警告**

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

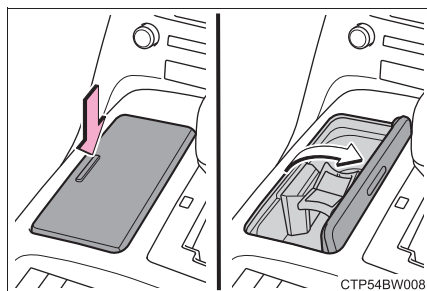
注意**■ トレイについて**

トレイの高さ以上にものを入れないでください。フタの開閉の妨げになるおそれがあります。

ドアポケット (フロント席)

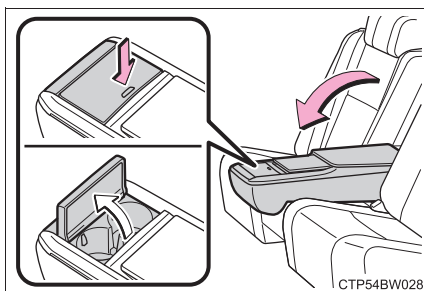
カップホルダー

▶ フロント



フタを押して開ける

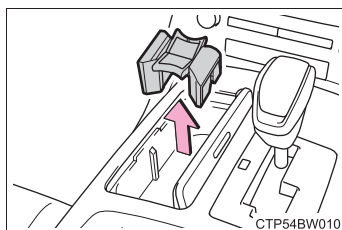
▶ リヤ



アームレストを手前に倒し、フタを押して開ける

知識

フロントカップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



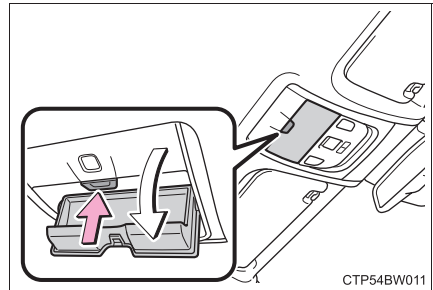
警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをすることがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

小物入れ

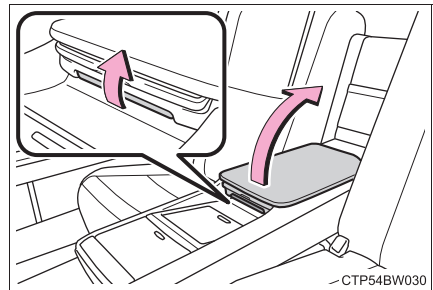
▶ 天井

ボタンを押す



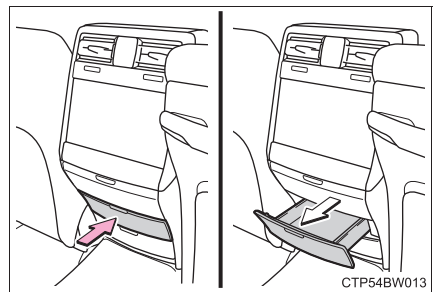
▶ リヤアームレスト

レバーを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げる



▶ コンソール背面

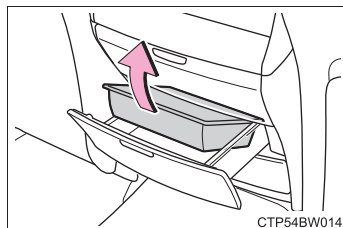
フタを押す



 知識

■ コンソール内のトレイについて

トレイは取りはずすことができます。



■ リヤアームレスト、コンソール内のランプについて

車幅灯点灯時はリヤアームレスト、コンソール内のランプが点灯します。

 警告

■ 収納してはいけないもの（天井）

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、ふたが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

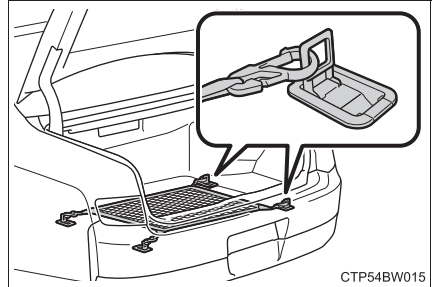
トランク内装備

ラゲージネット

荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

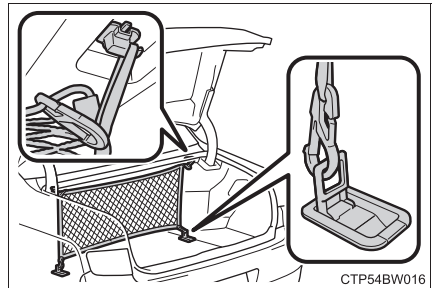
■ 荷物を固定するには

床上の固定用フックを引き上げ、ネットを固定用フックにかける



■ トランク内を仕切るには

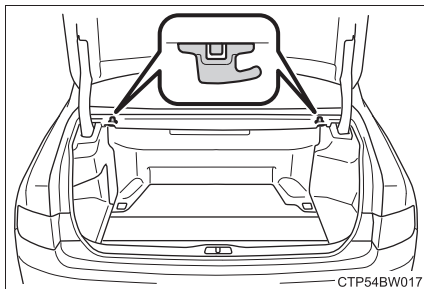
床上の固定用フックを引き上げ、ネットを固定用フックにかけてから、買い物フックにかける



⚠ 注意

- ラゲージネットで、先の尖ったものや重いものを固定しないでください。ラゲージネットがやぶれるおそれがあります。
- ラゲージネットを使用しないときは、必ず固定用フックをもとの位置にもどしておいてください。トランク内の荷物または固定用フックが破損するおそれがあります。
- トランク内に荷物を置くときは、駆動用電池冷却用吸入口をふさがらないでください。(→ P. 73)

買い物フック

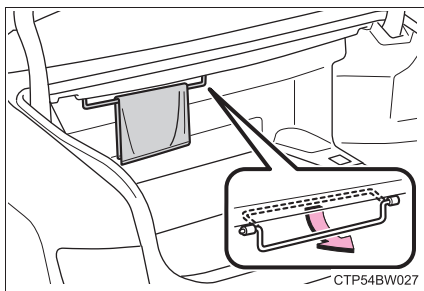


注意

破損を防ぐために、買い物フックに過度の負荷をかけないでください。

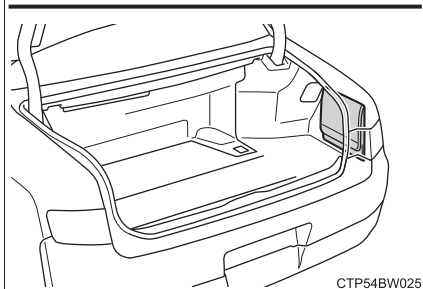
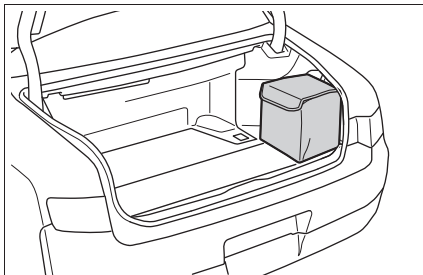
タオルハンガー

ハンガーをクリップからはずし、手前におろす



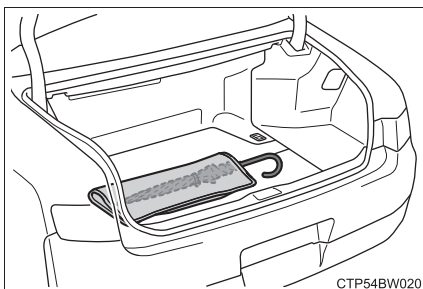
小物入れ

使用しないときは折りたたむことができます。



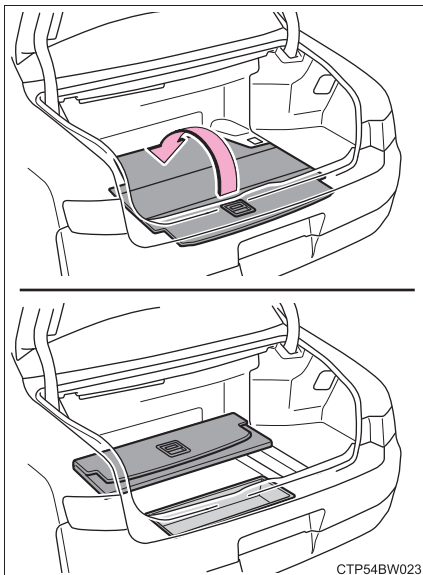
傘・毛バタキ入れ

傘や毛バタキを収納できます。



ラゲージマット下収納スペース (タイヤパンク応急修理キット装着車)

レバーを持ってラゲージマットを折りたたむ



CTP54BW023

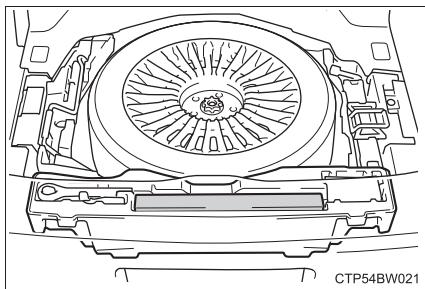
三角表示板収納スペース

- 1 ラゲージマットを取りはずす (→ P. 455)
- 2 タイヤパンク応急修理キット装着車：デッキボードを取りはずす (→ P. 441)
- 3 三角表示板を収納することができます。

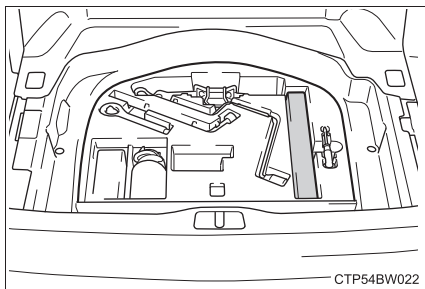
大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ スペアタイヤ装着車

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



CTP54BW021

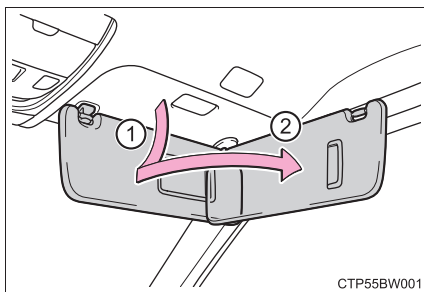


CTP54BW022

その他の室内装備

サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

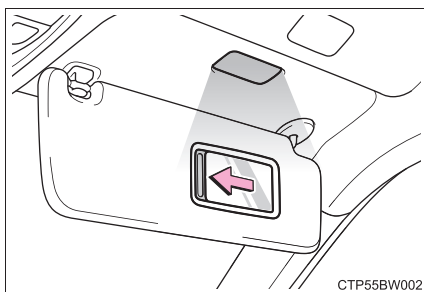


バニティミラー

▶ フロント

カバーをスライドして開ける

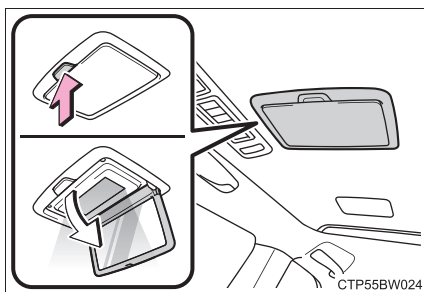
カバーを開けるとランプが点灯します。



▶ リヤ

ボタンを押して開ける

ランプが点灯します。



 知識

ハイブリッドシステムが停止した状態でランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

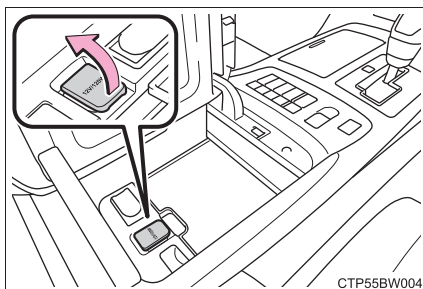
 注意

- 使用しないときは、バニティミラーを必ず閉じてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリースOCKET

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

 知識**■ アクセサリースOCKETを使用するとき**

作動条件：パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

■ ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

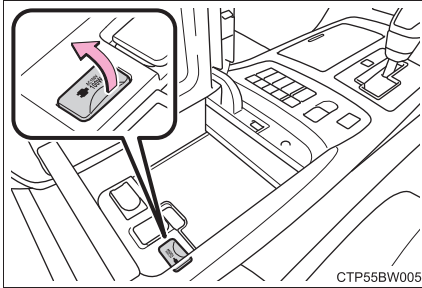
 注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

アクセサリコンセント

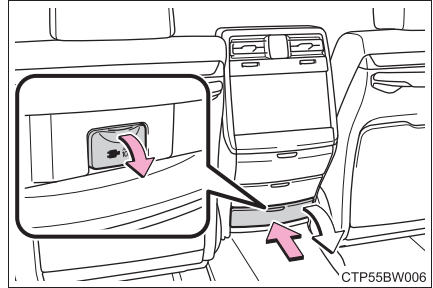
AC100Vで最大消費電力100W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

▶ コンソールボックス



フタを開けて使用する

▶ コンソール背面



フタを開けて使用する

知識

作動条件：パワースイッチがONモードのとき

⚠ 注意

- アクセサリコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- ヒューズが切れるのを防ぐために、AC100Vで最大消費電力100W以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が100Wをこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリコンセントを長時間使用しないでください。
- 次のようなAC100Vの電気製品は、消費電力が100W以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 起動時のピーク電力が高い電気製品
 - ・ 精密なデータを処理する計測機器
 - ・ 電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器
 - ・ 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

充電用 USB 端子

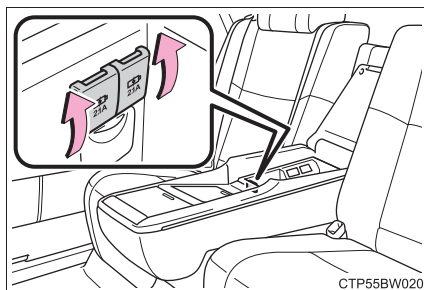
DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

フタを開けて使用する



知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

 **注意****■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために**

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

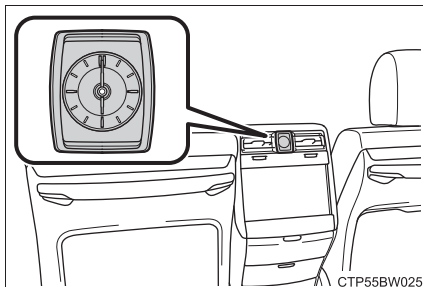
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

時計

GPS の時刻情報を利用して、時刻を自動で調整します。

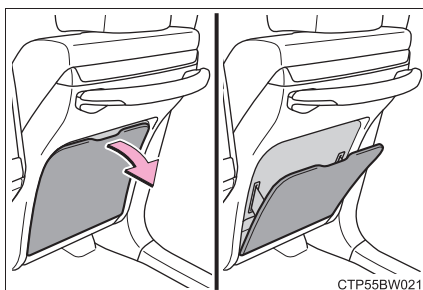
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



シートバックポケット（運転席側のみ）

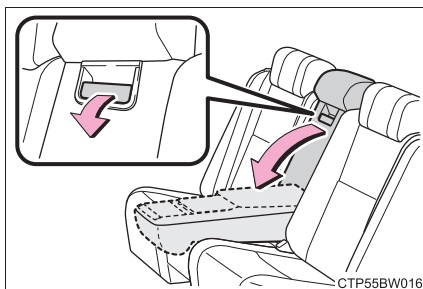
雑誌や新聞、タブレットなどを収納することができます。

大きさ・形状によっては収納できないことがあります。



リアアームレスト

レバーを引いて手前に倒す

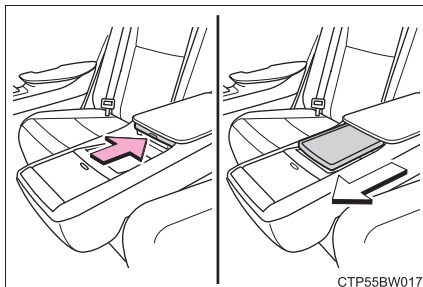


⚠ 注意

リアアームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

ライティングテーブル

使用するときには、ライティングテーブルのふちを押す



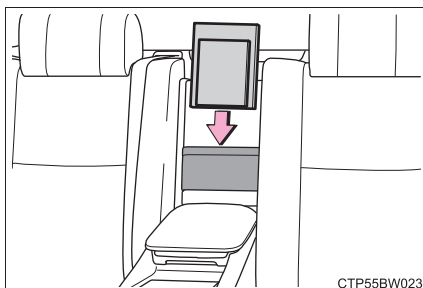
注意

- ライティングテーブルの破損を防ぐため、過度の負荷をかけないでください。
- 先のとがったペンなどを使用した場合、表面に傷がつくことがあります。

マガジンラック

本や新聞などを収納することができます。

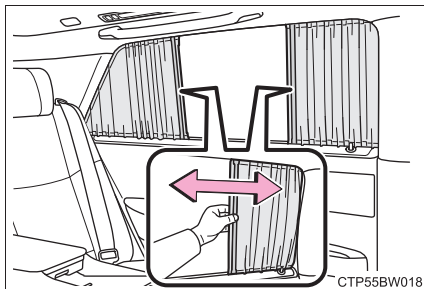
大きさ・形状によっては収納できないことがあります。



リヤドアカーテン★

使用するときには、カーテンの端を持ってスライドさせる

右図を参考に、中央を持ってスライドさせてください。



知識

■ リヤドアカーテンのお手入れについて

→ P. 372

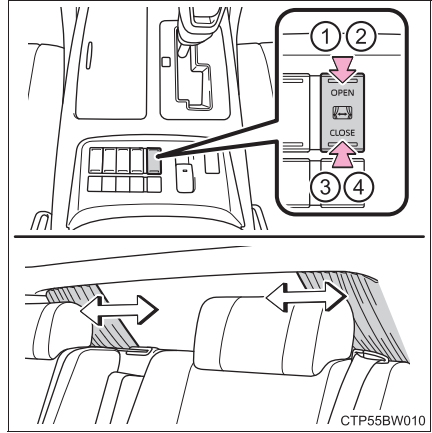
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電動リヤカーテン★

リヤマルチオペレーションパネルやスイッチの操作でリヤウインドウガラスのカーテンを開閉できます。

■ フロント席からの操作

- ① スイッチを押す
 - ・押し続けているあいだ、カーテンが開きます。
 - ・自動全閉作動中に押すと作動が停止します。
- ② スイッチを約1秒長押しする
 - ・全開位置まで作動します。(自動全開作動)
- ③ スイッチを押す
 - ・押し続けているあいだ、カーテンが閉じます。
 - ・自動全開作動中に押すと作動が停止します。
- ④ スイッチを約1秒長押しする
 - ・カーテンが全開位置の場合、半開位置まで作動します。
 - ・カーテンが全開位置以外の場合、全閉位置まで作動します。(自動全閉作動)



CTP55BW010

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤ席からの操作

操作スイッチをタッチする

電動リヤカーテンが全開／全閉します。

作動中に再度タッチすると逆方向に動きます。



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ カーテンの作動について

- 開閉作動後、反対側に少し作動することがありますが、異常ではありません。
- 自動全開／自動全閉作動直後、一定時間スイッチ操作を受け付けませんが、異常ではありません。

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 1 分間は操作できます。

■ リバース連動機能

シフトレバーを R にすると、後方を見やすくするために電動リヤカーテンが開きます。

- シフトレバーが R にあるときは、リヤマルチオペレーションパネルやスイッチで操作しても電動リヤカーテンを閉じることはできません。
- ハイブリッドシステムを停止するか、シフトレバーを P に入れる、または R 以外にして約 15km/h で走行すると、半開位置にもどります。
(作動前に全閉していた場合は全閉位置にもどります)

■ リヤカーテンのお手入れについて

→ P. 372

 **警告****■ 電動リヤカーテン作動中は**

カーテンレール溝部に指などを入れないでください。
挟まれてけがをするおそれがあります。

 **注意****■ 補機バッテリーあがりをふせぐために**

ハイブリッドシステムが停止しているときは電動リヤカーテンを操作しないでください。

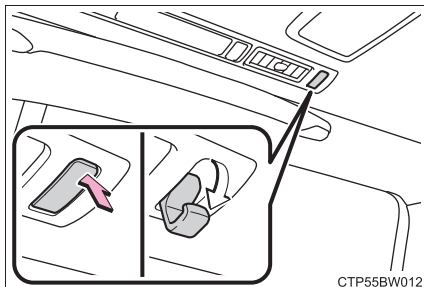
■ 正常に作動させるために

次のことをお守りください。

- モーターや他の部分に過度の負荷をかけない
- 開閉の妨げになる部分にものを置かない
- カーテンレールにものをかけたり取り付けたりしない
- 手でカーテンを動かさない
もしも動かしてしまったときは、フロント席のスイッチを押し続け、全開または全閉にしてください。
- カーテンレール溝部をきれいに保つ
- 長時間操作を続けない

コートフック

使用するときには、コートフックを押す



⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

靴べら差し

靴べらを収納することができます。

大きさ・形状によっては収納できないことがあります。



お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	366
内装の手入れ.....	371

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	381
ガレージジャッキ.....	384
エンジンルームカバー	385
ウォッシャー液の補充	387
タイヤについて.....	388
タイヤ空気圧について	398
エアコンフィルターの 交換	400
電子キーの電池交換.....	403
ヒューズの点検・交換	406
電球（バルブ）の交換	410

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

- ・ドアミラーを格納する
 - ・パワートランクリッドを停止する
- 走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する(電子キーの盗難に注意してください)
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する(→P. 133)

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておく、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド(磨き粉)が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

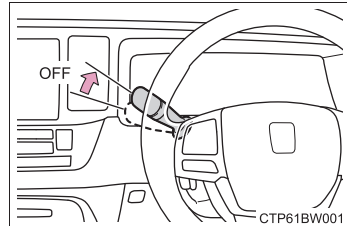
⚠警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチをOFFにしてください。
AUTOモードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- BSM
- RCTA

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

 **注意****■ 自動洗車機を使用するときは**

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→ P. 221)

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れ

- 重曹（炭酸水素ナトリウム）溶液をやわらかい布または合成セーム皮に含ませ、汚れをふき取る
真水に重曹を 10:1 の割合で溶かした溶液を使用してください。
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

カーテンのお手入れ

カーテンは取りはずして清掃することができます。

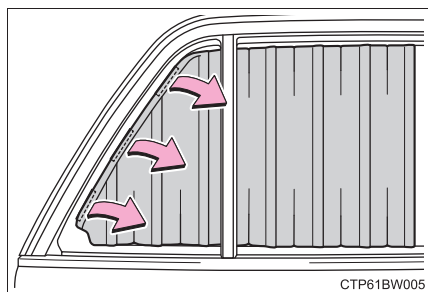
⚠ 注意

- 取りはずす際にランナーやフックに無理な力をかけないでください。破損の原因になります。
- カーテンに強い力を加えて引っ張らないでください。

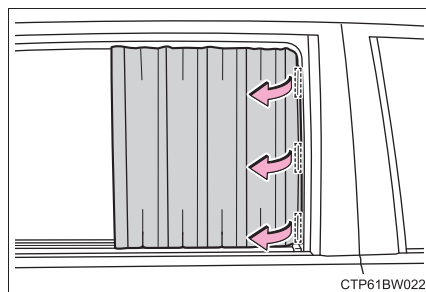
■ リヤドアカーテンの取りはずし方

- 1 ドアを開ける
- 2 ドアガラスを全開にする (→ P. 168)
- 3 マジックテープを取りはずす (3箇所)

▶ 車両後方側



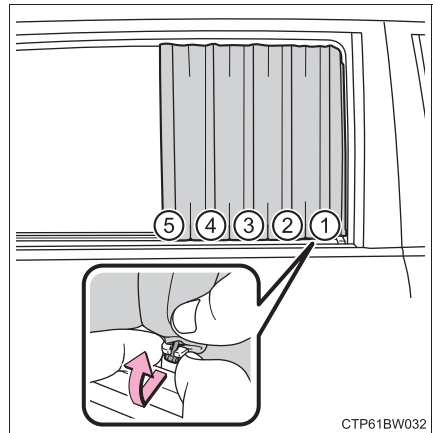
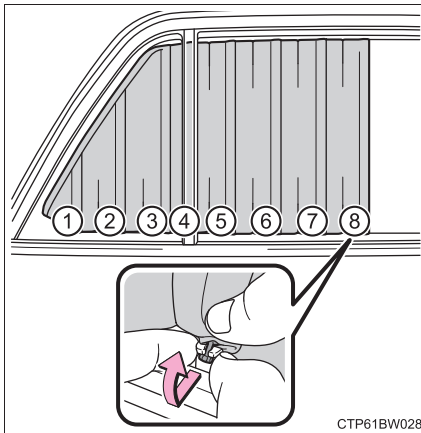
▶ 車両前方側



4 番号順に下側ランナーからフックを押し取はずす

▶ 車両後方側

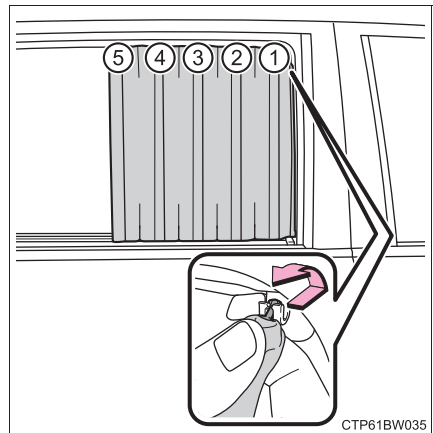
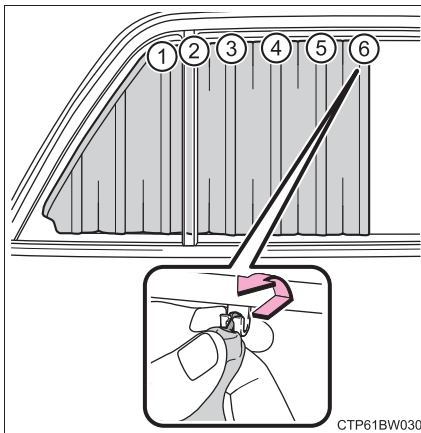
▶ 車両前方側



5 番号順に上側ランナーからフックを押し取はずす

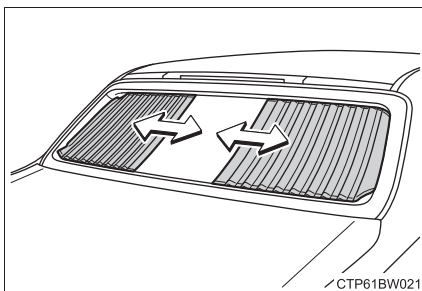
▶ 車両後方側

▶ 車両前方側



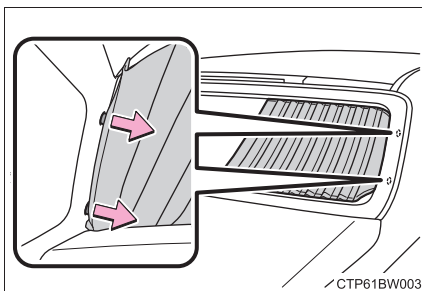
■ リヤカーテンの取りはずし方

- 1 アームレストを倒す (→ P. 358)
- 2 ヘッドレストを下方に移動させる (→ P. 159)
- 3 リヤカーテンを半開位置に移動させる (→ P. 362)



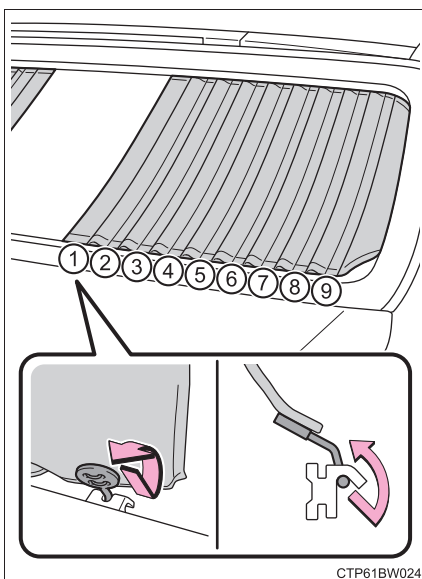
CTP61BW021

- 4 スナップを取りはずす (2箇所)



CTP61BW003

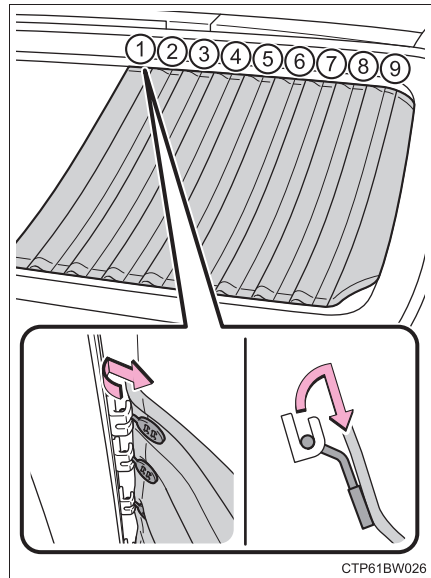
- 5 番号順に下側ランナーからフックを取りはずす
車両外側に押すように取りはずしてください。



CTP61BW024

- 6 番号順に上側ランナーからフックを取りはずす

車両外側に押すように取りはずしてください。



■ カーテンの洗濯について

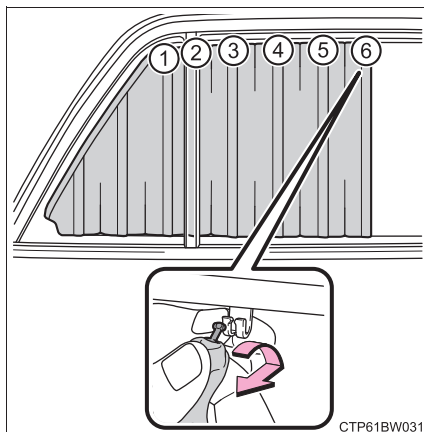
カーテンの洗濯をするときは、カーテンに取り付いているタグの洗濯表示を参照してください。

■ リヤドアカーテンの取り付け方

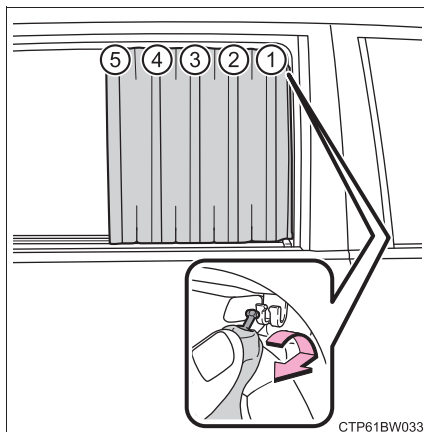
- 1 ドアを開ける
- 2 ドアガラスを全開にする (→ P. 168)
- 3 番号順に上側ランナーにフックを取り付ける

車両前方側のカーテンはマジックテープが車両内側になるように取り付けてください

▶ 車両後方側

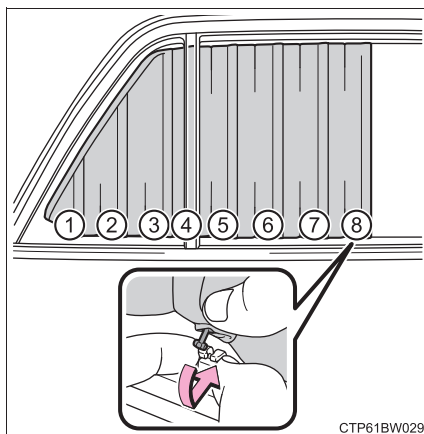


▶ 車両前方側

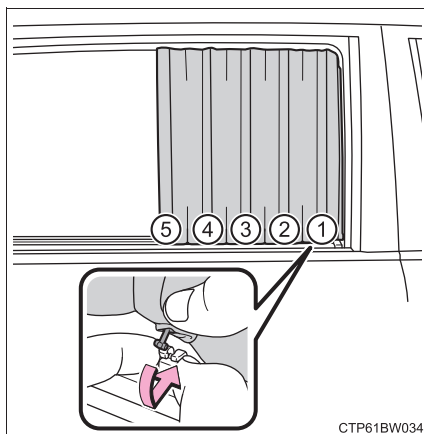


- 4 番号順に下側ランナーにフックを取り付ける

▶ 車両後方側

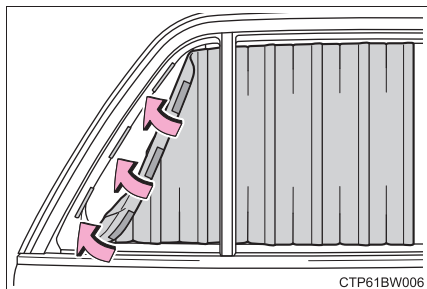


▶ 車両前方側

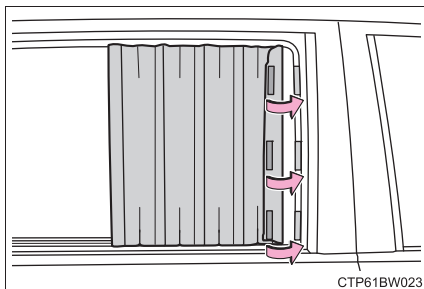


5 マジックテープを取り付ける (3箇所)

▶ 車両後方側



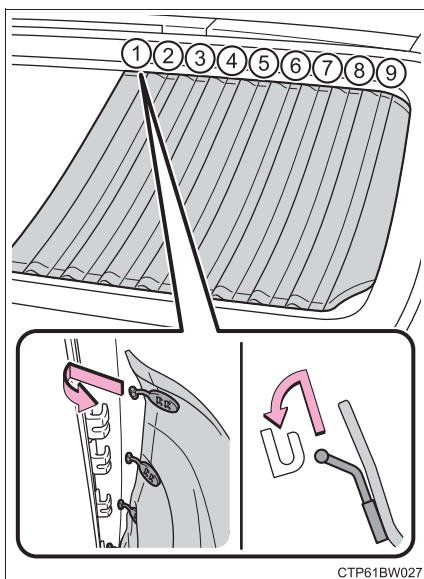
▶ 車両前方側



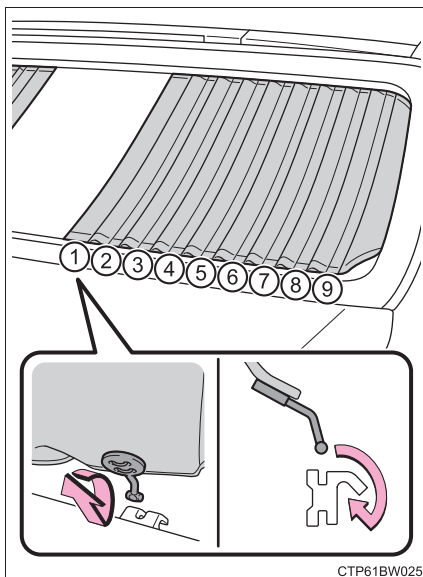
■ リヤカーテンの取り付け方

- 1 アームレストを倒す (→ P. 358)
- 2 ヘッドレストを下方に移動させる (→ P. 159)
- 3 番号順に上側ランナーにフックを取り付ける

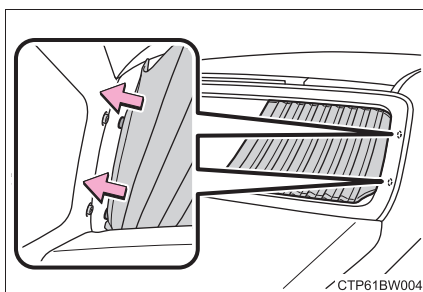
スナップが車両内側になるように取り付けてください



- 4 番号順に下側ランナーにフックを取り付ける



- 5 スナップを取り付ける (2箇所)



 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 警告

■ 車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 73)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 35)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート・ハンドル以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
 - ・ ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。(→ P. 234)

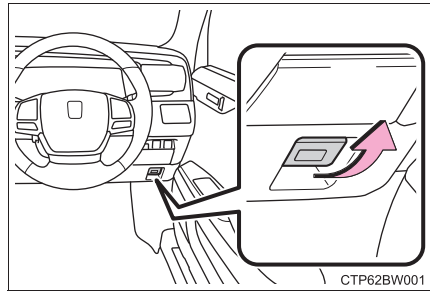
■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

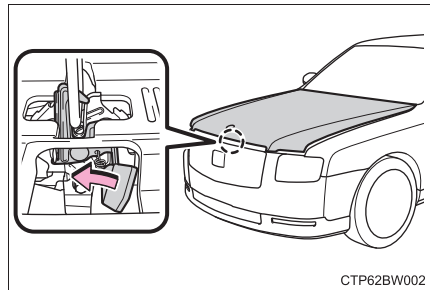
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



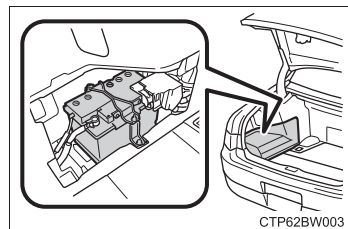
- 2 レバーを左方向に押し、ボンネットを開ける



知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはトランク(助手席側)のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。



警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

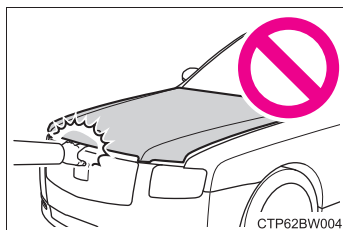
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■ 補機バッテリーの取り扱いについて**

→ P. 471

 **注意****■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

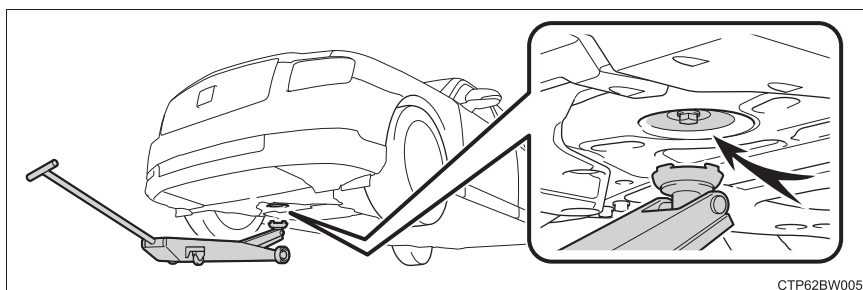
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

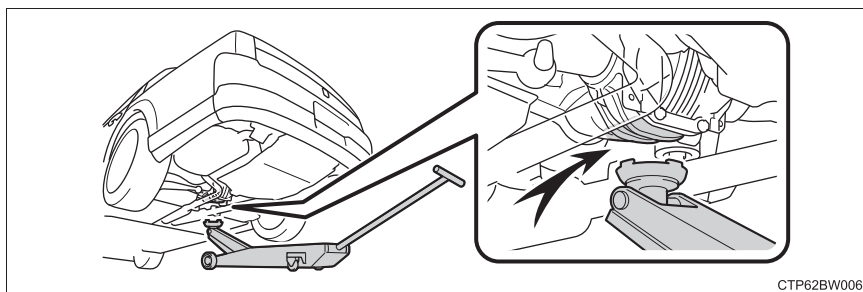
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



CTP62BW005

◆ リヤ側



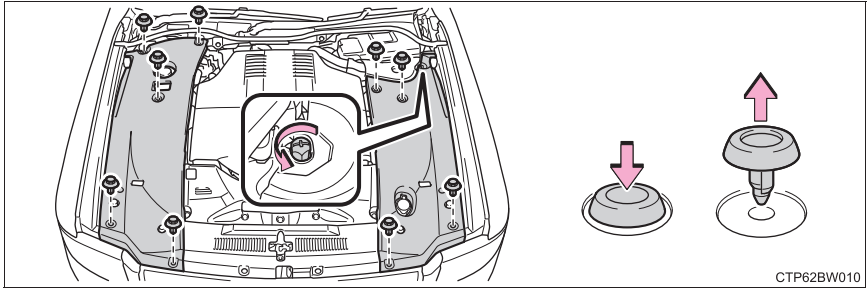
CTP62BW006

エンジンルームカバー

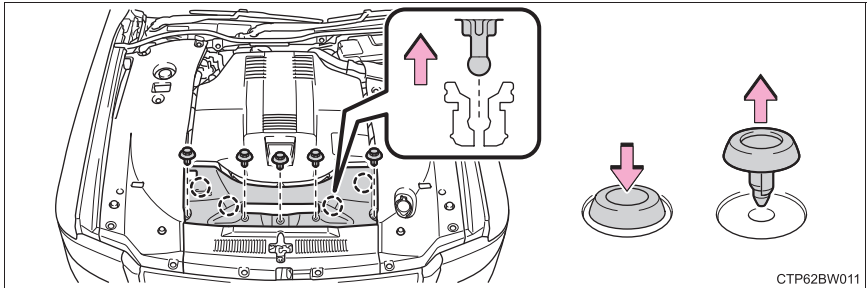
ヒューズの交換・点検などを行うときに取りはずします。

エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ 外側



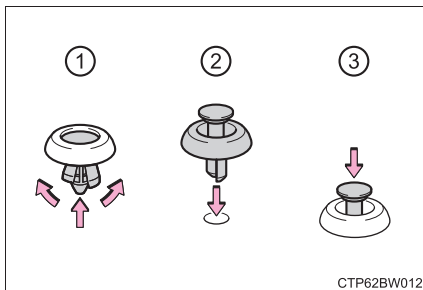
▶ 前側



クリップの取り付け方

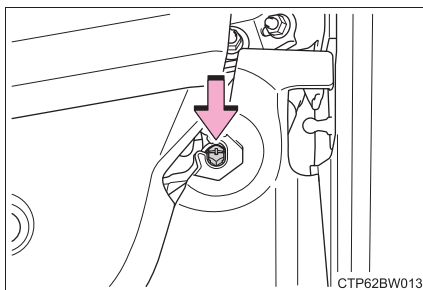
▶ タイプ A

- ① クリップの中央部を押し上げる
- ② 挿し込む
- ③ クリップ中央部分を押し



▶ タイプ B

クリップを押し



⚠ 警告

■ けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

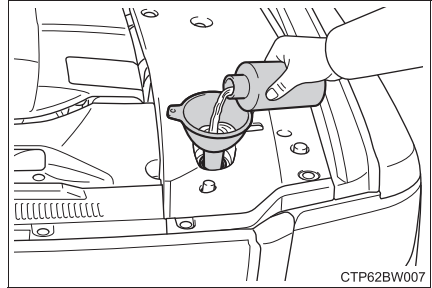
■ エンジンルームカバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

次の場合、ウォッシャー液を補充してください。

- ウォッシャー液が出ない
- マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたとき



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を10,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗(極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど)の有無

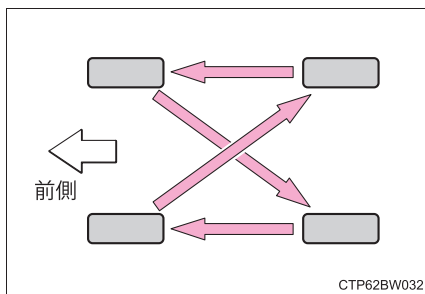
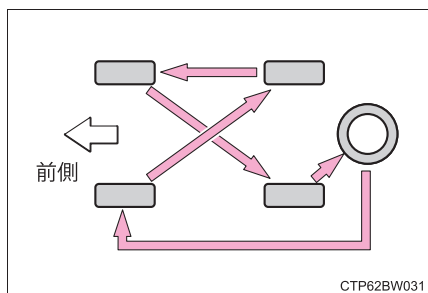
タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの磨耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ スペアタイヤ装着車

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

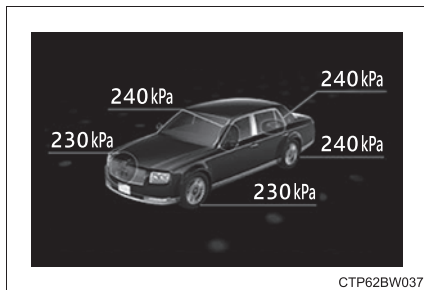


タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

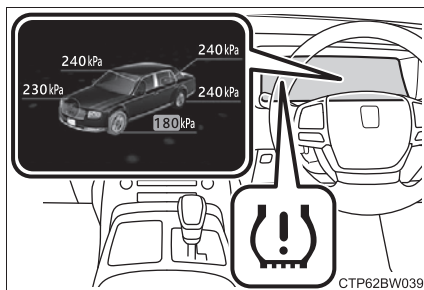
タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 427)



タイヤパンク応急修理キット装着車の場合は画面の表示が異なります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。(→ P. 391)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき (→ P. 391)

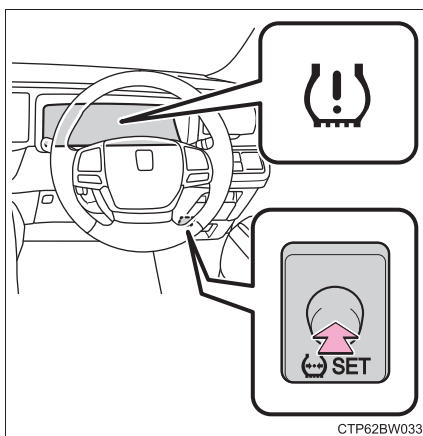
システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上ハイブリッドシステムを停止する
- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→ P. 392, 487)
 タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。
- 3 ハイブリッドシステムを始動する

- 4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が「-」になり、タイヤの位置判定を開始します。



- 5 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ~ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。(→ P. 394)

ID コードの登録について

■ ID コード登録が必要なとき

- 新しいバルブ／送信機を装着したとき
- すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したホイールに交換したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する（タイヤ交換作業を含む）

- 2 ハイブリッドシステムを始動する

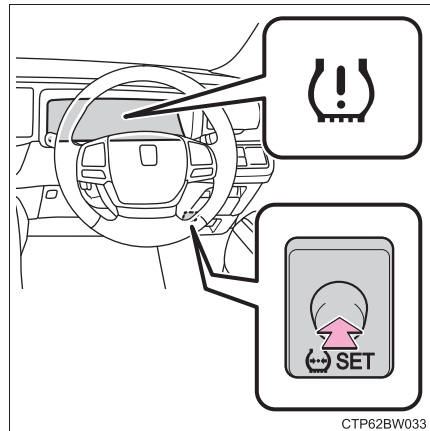
- 3 リセットスイッチを素早く 3 回連続で押す

タイヤ空気圧警告灯が3回ゆっくり点滅します。

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧表示が「-」になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。



- 4 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

- 5 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→ P. 390）

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

- 5 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

約40km/h以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

- 6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→ P. 390）

知識

■ タイヤ空気圧の数値

空気圧 [*] kPa (kg/cm ²)	
前輪	後輪
230 (2.3)	240 (2.4)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

^{*} タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ/送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

● 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- ・ スペアタイヤが電波受信の悪い環境下にあるとき
- ・ 電波受信に影響をおよぼすような大きな金属がトランクにあるとき

● 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

● 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

● タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するときは

● 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。

● 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

● 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。

なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

● タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

- 初期化中にパワースイッチをOFFにしてしまった場合は、次回ONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 20 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。
- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ID コードの登録をするときは

- 通常は約30分以内の走行で登録が完了します。すでにIDコードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

- ID コードの登録を中止するには、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
- ID コードの登録を中止した場合、次回パワースイッチを ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。
- しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

 **注意****■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、金属製などの指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■ 走行中に空気もれが起これたら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 487)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

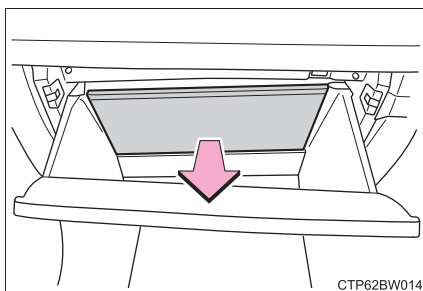
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

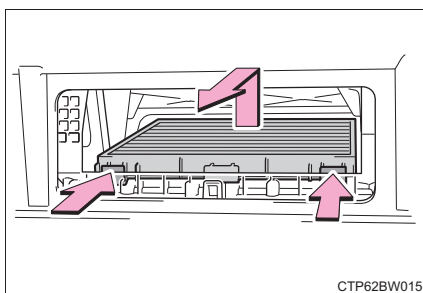
交換のしかた

■ フロントエアコンフィルター

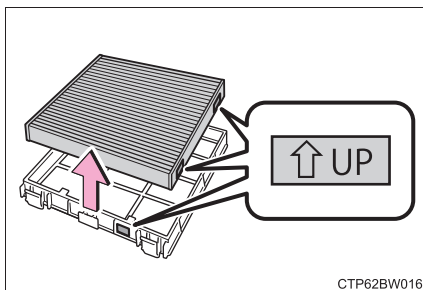
- 1 エアコンを内気循環モードに切りかえる (→ P. 324)
外気導入モードではフィルターケースを取りはさずることができません。
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 グローブボックスを開け、背面のパネルをはさず



- 4 フィルターケースを取りはさず

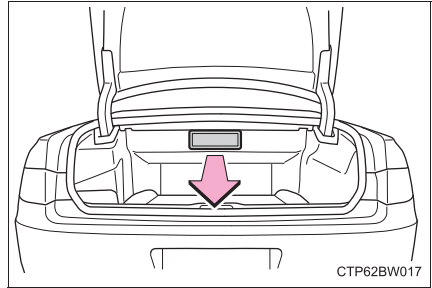


- 5 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

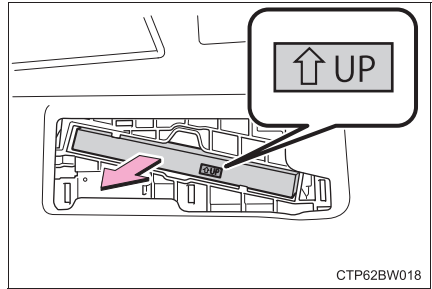


■ リヤエアコンフィルター

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 トランクを開け、フィルターカバーを取りはずす



- 3 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km [7,500km^{※1}] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ^{※2}

^{※1} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2} 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 **注意****■ エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

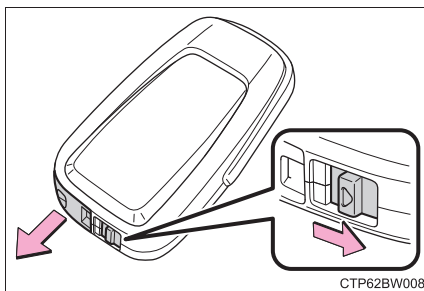
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く

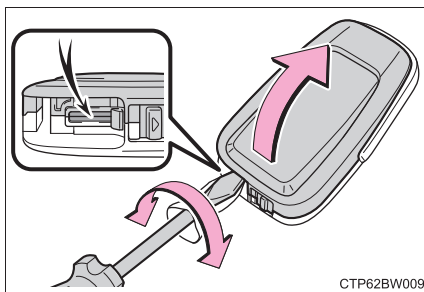


CTP62BW008

- 2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

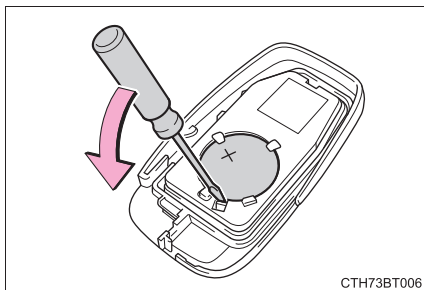


CTP62BW009

- 3 消耗した電池を取り出す



カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。



CTH73BT006

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。

- 4 カバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む
- 5 ボタン（ または ）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

知識

■ 電池を交換するときは

電池などの小さな部品を紛失しないようにしてください。

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

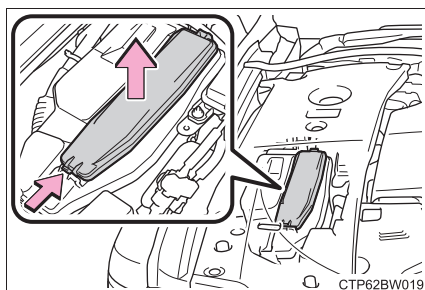
- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

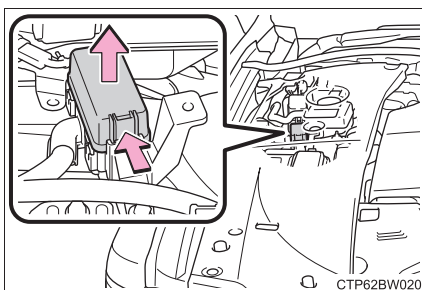
- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム (1)



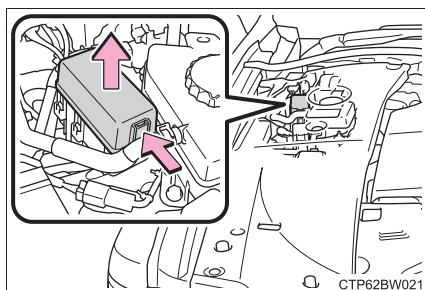
エンジンルームカバーを取りはずし (→ P. 385)、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム (2)



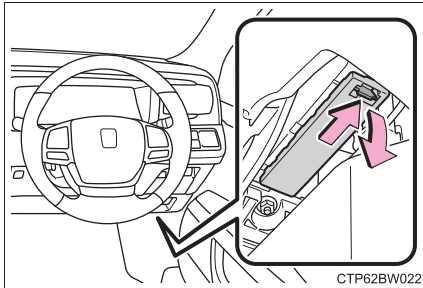
エンジンルームカバーを取りはずし (→ P. 385)、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム (3)



エンジンルームカバーを取りはずし (→ P. 385)、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元

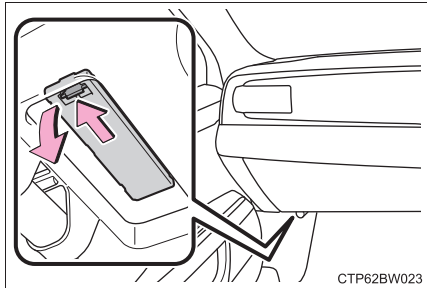


ツメを押しながら、カバーを取りはずす

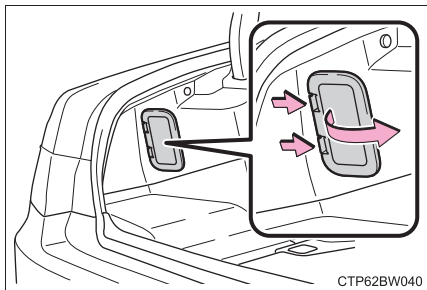
▶ トランク内 (1)

ツメを押しながら、カバーを取りはずす

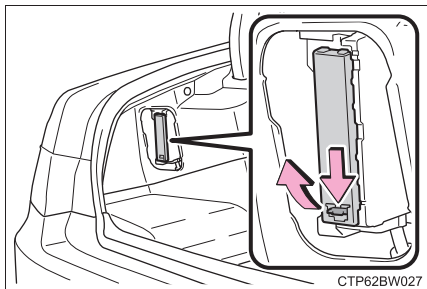
▶ 助手席足元



ツメを押しながら、カバーを取りはずす

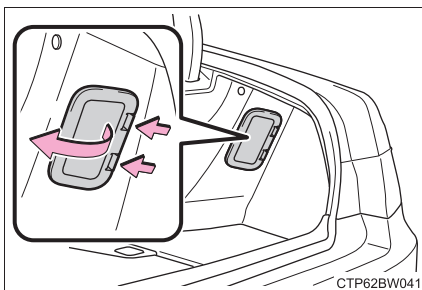


ツメを押しながら、ヒューズボックスのカバーを取りはずす



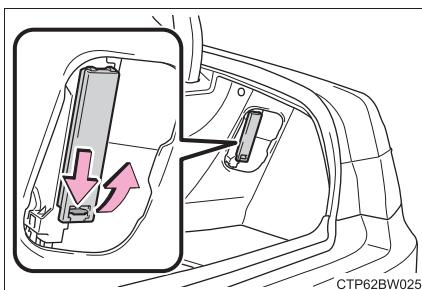
▶ トランク内 (2)

ツメを押しながら、カバーを取りはずす



CTP62BW041

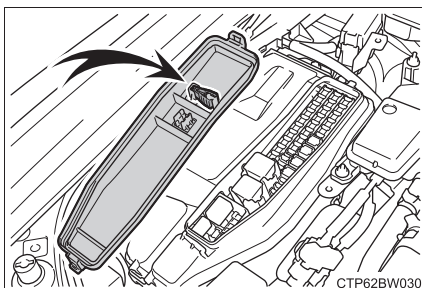
ツメを押しながら、ヒューズボックスのカバーを取りはずす



CTP62BW025

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



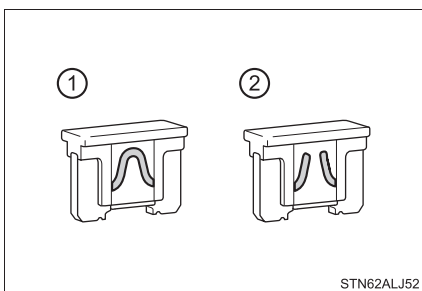
CTP62BW030

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



STN62ALJ52

 知識

■ ヒューズを交換したあとは

交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

知識

■ LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

万が一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	412
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	413
発炎筒.....	414
車両を緊急停止するには.....	416
水没・冠水したときは.....	417

7-2. 緊急時の対処法

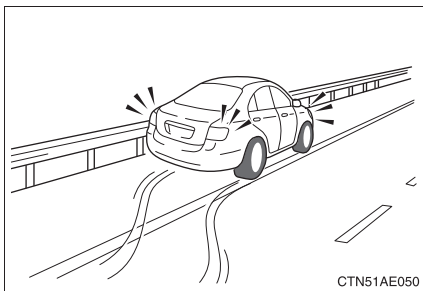
けん引について.....	418
警告灯がついたときは.....	425
警告メッセージが 表示されたときは.....	432
パンクしたときは （タイヤパンク応急 修理キット装着車）.....	437
パンクしたときは （スペアタイヤ装着車）.....	452
ハイブリッドシステムが 始動できないときは.....	462
電子キーが正常に働かない ときは.....	464
補機バッテリーが あがったときは.....	468
オーバーヒートした ときは.....	474
スタックしたときは.....	480

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

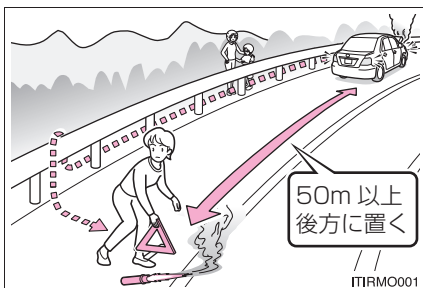
非常点滅灯（→ P. 413）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

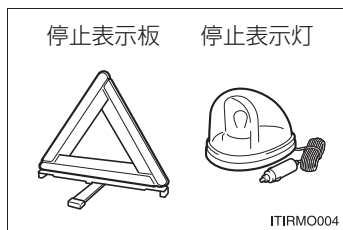
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 414）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

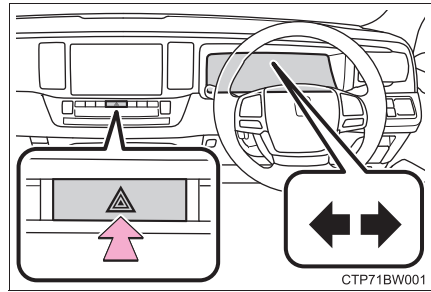


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

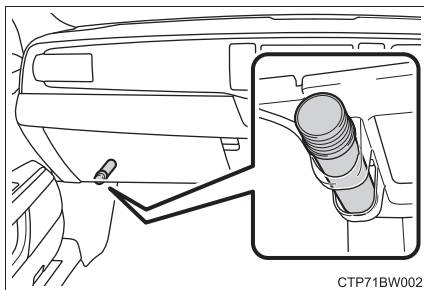
■ 非常点滅灯について

- ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

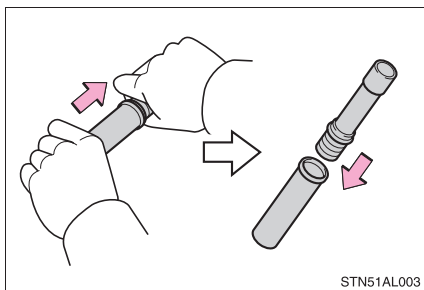
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

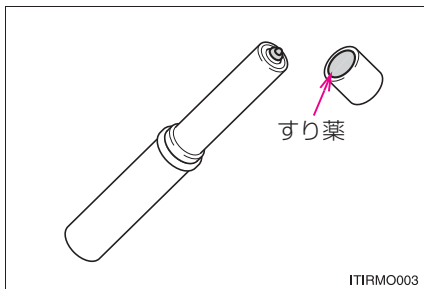
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けて
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

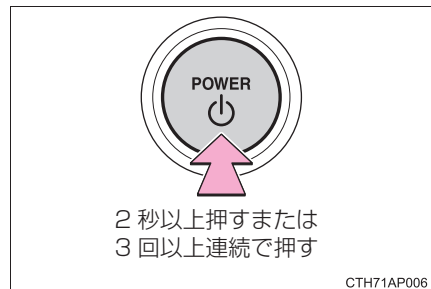
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分以上を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

この車両の全てのガラスには合わせガラスが使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー[※]で割ることができません。

[※] 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

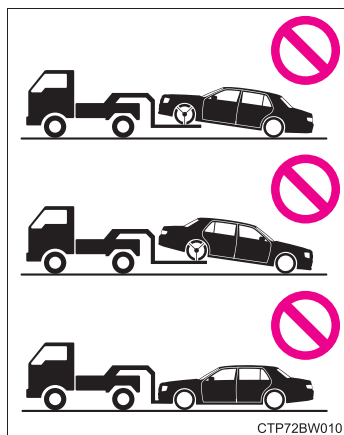
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 **注意****■ 車両の損傷を防ぐために**

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

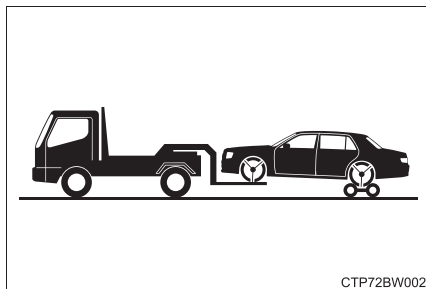
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

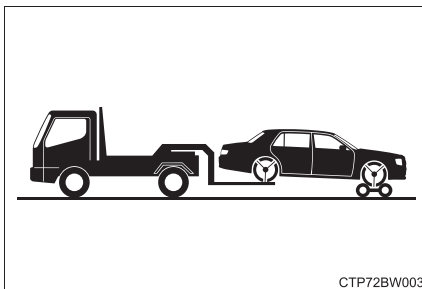
▶ 前向きにけん引するときは



CTP72BW002

台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



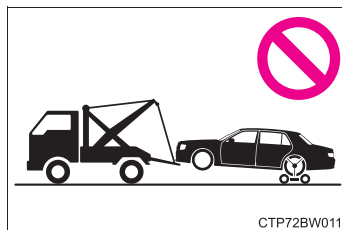
CTP72BW003

台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

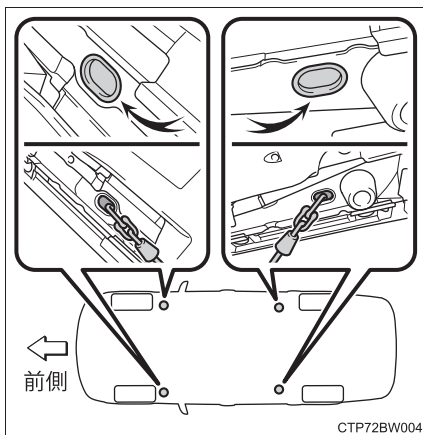


CTP72BW011

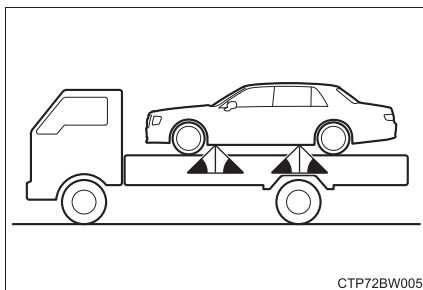
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

固縛用の穴にはカバーが取り付けられています。輸送後はカバーをもとの位置に取り付けて、穴をふさいでください。



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠ 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

- ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ハイブリッドシステムを停止してから固縛してください。固縛後に車高が変わると、車両の損傷につながるおそれがあります。

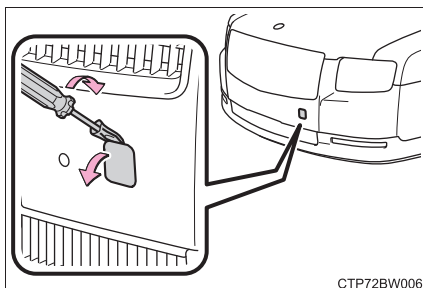
他車にけん引してもらおうとき

他車にけん引してもらおうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

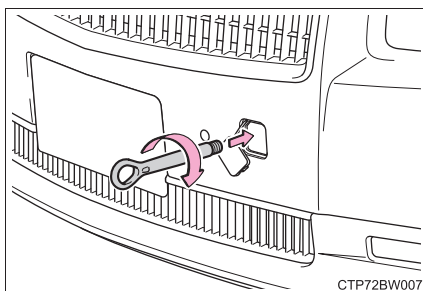
- 1 トランク内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→ P. 439, 453)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

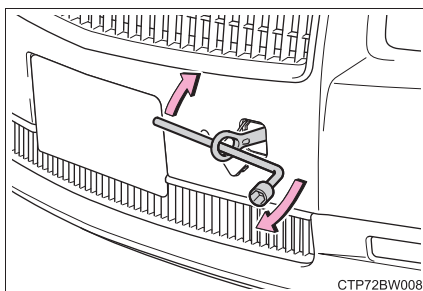
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



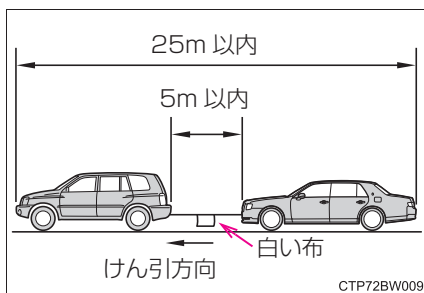
- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する
ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。(→ P. 203)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 198

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

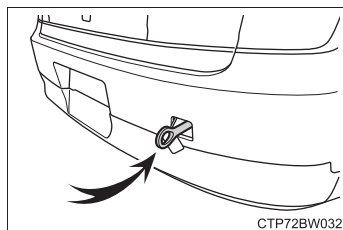
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランクに搭載されています。(→ P. 439, 453)

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

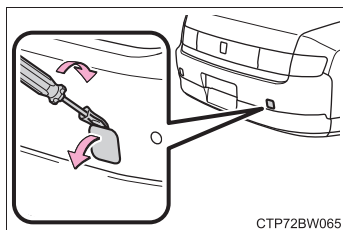


■ 緊急用フックを取り付けるには

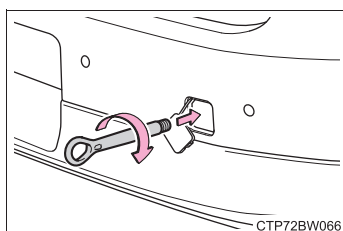
緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 トランク内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→ P. 439, 453)

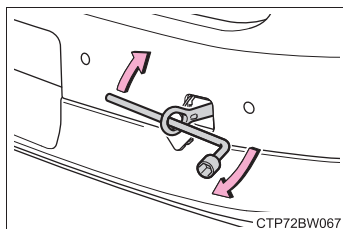
- 2 マイナスドライバーを使ってフタを外す
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める








- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける














警告灯がついたときは






警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。


警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯 (警告ブザー) <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。 ブレーキパッドの磨耗 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 (警告ブザー) <ul style="list-style-type: none"> ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 ・ 電動パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	高水温警告灯 ※1 (警告ブザー) エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法 (→ P. 474) に従ってください。
	充電警告灯 ※1 (警告ブザー) 充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	油圧警告灯 ※1 (警告ブザー) エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジン警告灯（警告ブザー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ トランスミッション電子制御システムの異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>
	<p>SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ポップアップフード警告灯（警告ブザー）</p> <p>ポップアップフードが作動した</p> <p>→ ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。</p> <p>ポップアップフードの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯※¹（警告ブザー）</p> <p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ ドライブスタートコントロール作動時 ・ ドライブスタートコントロールの異常 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合：</p> <p>ブレーキオーバーライドシステム作動時</p> <p>→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<p>パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 (黄色)	<p>燃料残量警告灯 燃料の残量が約 13L 以下になった → 燃料を補給する</p>
	<p>運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー ※2) 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。</p>
	<p>タイヤ空気圧警告灯 警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然要因 ・ タイヤのパンク <p>→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法 (→ P. 430) に従ってください。</p>
 (橙色)	<p>LDA 表示灯 (警告ブザー) LDA (ステアリング制御付き車線逸脱警報) の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→ P. 255)</p>
 (点滅)	<p>クリアランスソナー OFF 表示灯 (警告ブザー) ブザーが鳴った場合： クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→ P. 281)</p>

警告灯	警告内容・対処方法
 <p>RCTA OFF (点滅)</p>	<p>RCTA OFF 表示灯 (警告ブザー) ブザーが鳴った場合： RCTA (リヤクロスストラフィックアラート) の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： レーダーセンサー周辺のリヤバンパー (→ P. 274) に汚れ や付着物がある → マルチインフォメーションディスプレイに表示されている メッセージの指示に従ってください。(→ P. 281)</p>
 <p>(点滅または点灯)</p>	<p>PCS 警告灯 炎天下や極寒の環境、またはセンサーが汚れているなどの状 況のため一時的に作動しない、またはプリクラッシュセーフ ティの異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されている メッセージを確認してください。(→ P. 246, 436) プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC (ビークル スタビリティコントロール) システムが停止しているときも 点灯します。 → P. 246</p>
	<p>スリップ表示灯 警告灯が点灯した場合： ・ VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムの異 常 ・ TRC (トラクションコントロール) システムの異常 ・ ABS (アンチロックブレーキシステム) の異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点滅した場合： ABS・VSC・TRC システムが作動していることを表します。</p>
 <p>(点滅)</p>	<p>パーキングブレーキ表示灯 (警告ブザー ※3) パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除さ れていない可能性があります。 → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。</p>
 <p>HOLD (点滅)</p>	<p>ブレーキホールド作動表示灯 (警告ブザー) ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>マスターウォーニング（警告ブザー） システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 432</p>

- ※¹ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※² 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
- ※³ パーキングブレーキをかけたまま車速が 5km/h をこえると、警告ブザーが鳴ります。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→ P. 437, 452

パンクしていないときは：

パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1) タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。
- 2) 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う。(→ P. 390)

初期化を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ スペアタイヤ★に交換した場合

スペアタイヤにも空気圧バルブ／送信機が装備されています。スペアタイヤの空気圧が低下している場合、空気圧警告灯が点灯します。タイヤがパンクした場合、スペアタイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 393

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは**

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はスペアタイヤに交換するかタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤを修理してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

 **注意****■ タイヤ空気圧警報システムについての注意**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がわかり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→ P. 390）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

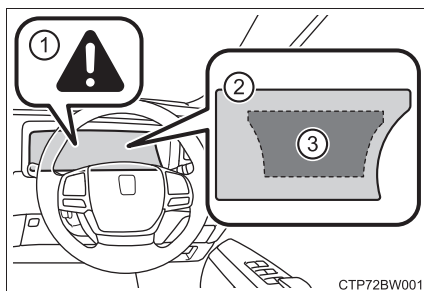
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法


マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。販売店で点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	警告ブザー ※	警告内容
点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージや、電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

- ・ 上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。
- ・ メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→ P. 425）に従ってください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトレバーの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトレバーを変更してください。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- 「エンジン冷却水高温」が表示されたときは、対処方法（→ P. 474）に従ってください。
 - 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・「スマートエントリー&スタートシステム故障」
 - ・「ハイブリッドシステム故障」
 - 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・「故障のためブレーキ力が低下」
 - ・「充電システム故障」
 - ・「エンジン油圧不足」
 - 次のメッセージが表示されたときは、ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。（→ P. 74）
 - ・「ハイブリッドシステム停止」
 - ・「エンジン停止」
 - 「補機バッテリー（始動用）充電不足」が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
 - ・数秒後※に表示が消えたときは：
ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
 - ・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 468）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。
- ※ 約 6 秒間表示されます。

■「ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります」が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法→ P. 476

■「暖機運転中 最高速度 120km/h」が表示されたときは

暖機運転中のため、最高速度が 120km/h に制限されているときにメッセージが表示されます。暖機運転が終了するまでは 120km/h 未満で走行してください。

■「安全に停車して P レンジに入れてください」が表示されたときは

ハイブリッドシステムの異常、またはシフトレバーが長時間 N になっていることが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、表示が消えるまでシフトレバーを P にしてください。表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

一定時間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「Nレンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください」が表示されたとき

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D・S または R にしてください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を Off しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- ヘッドランプオートレベリングシステム
- AHS (アダプティブハイビームシステム)

- 「前方カメラ一時使用不可 しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。
(→ P. 246, 428)

●PCS (プリクラッシュセーフティ)

- 「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

注意

- 「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」がひんばんに表示されるとき

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 「補機バッテリー (始動用) 充電不足 取扱書を確認してください」がひんばんに表示されるとき

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておく、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 438）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

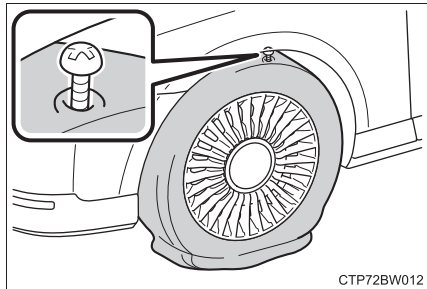
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。



・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

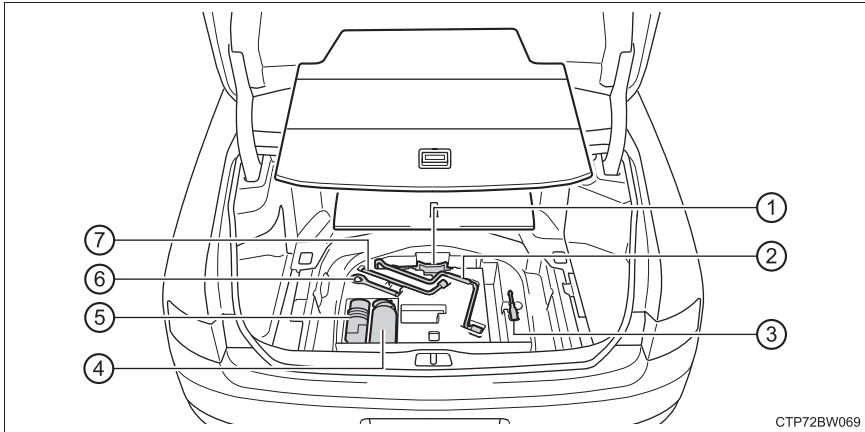
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

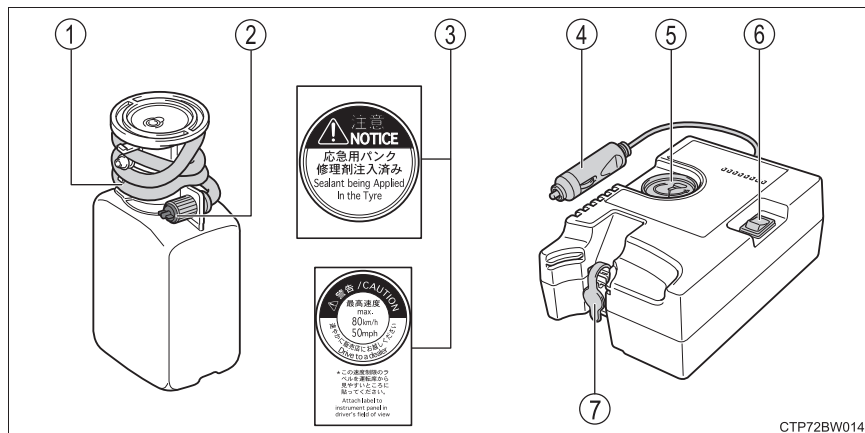
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



- ① ジャッキ※
- ② ジャッキハンドル
- ③ ドライバー
- ④ タイヤパンク応急修理キット (ボトル)
- ⑤ タイヤパンク応急修理キット (コンプレッサー)
- ⑥ けん引フック
- ⑦ ホイールナットレンチ

※ ジャッキの使い方 (→ P. 457)

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

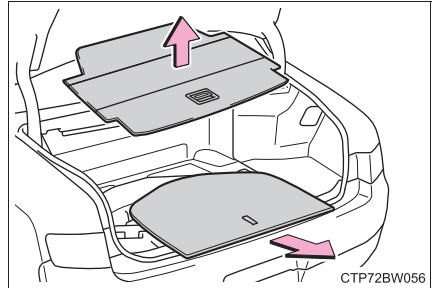


CTP72BW014

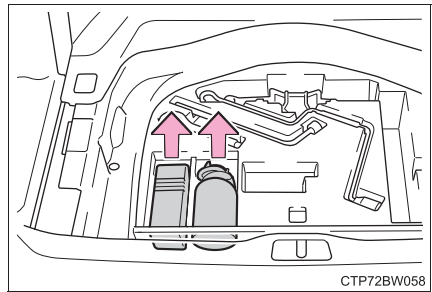
- | | |
|-------------|----------|
| ① ホース | ⑤ 空気圧計 |
| ② 空気逃がしキャップ | ⑥ 電源スイッチ |
| ③ ラベル | ⑦ ゴム栓 |
| ④ 電源プラグ | |

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

- 1 ラゲージマットとデッキボードを取りはずす

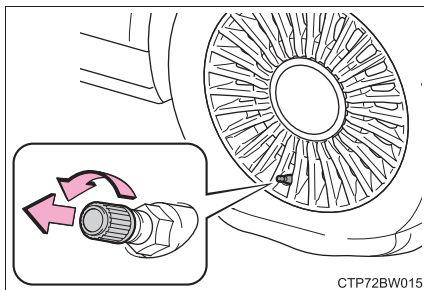


- 2 応急修理キットを取り出す



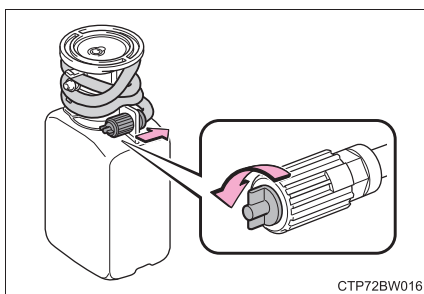
応急修理するときは

- 1 応急修理キットを取り出す
- 2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



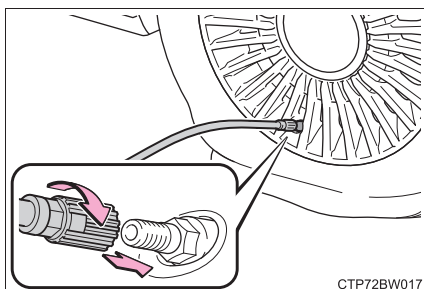
CTP72BW015

- 3 ホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす
空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。



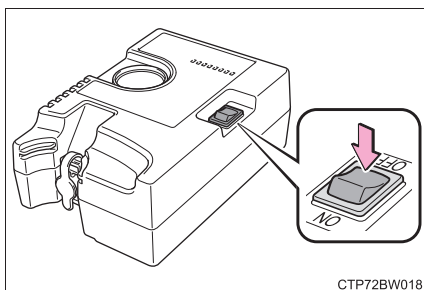
CTP72BW016

- 4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



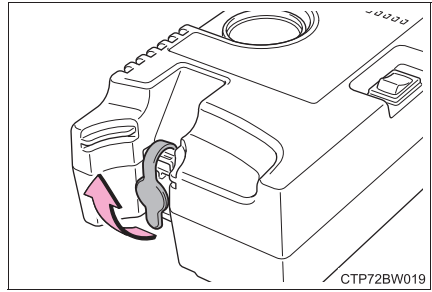
CTP72BW017

- 5 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する

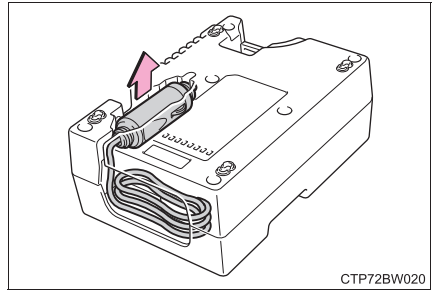


CTP72BW018

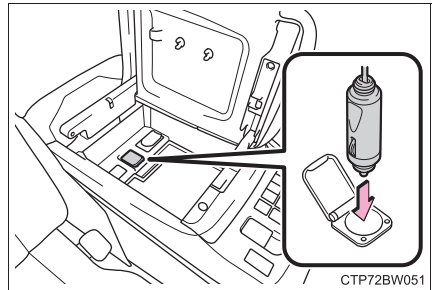
- 6 コンプレッサーのゴム栓をはずす



- 7 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす

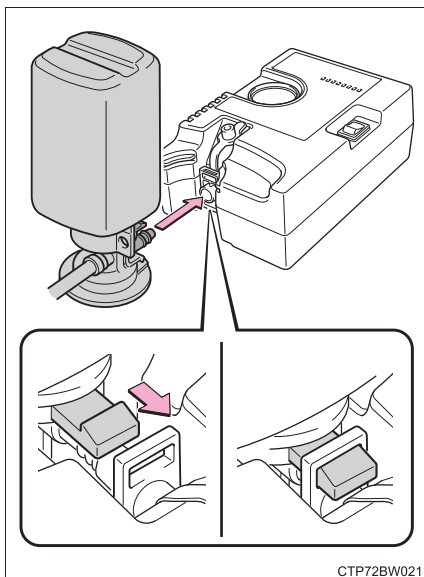


- 8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む (→ P. 354)



9 コンプレッサーにボトルを接続する

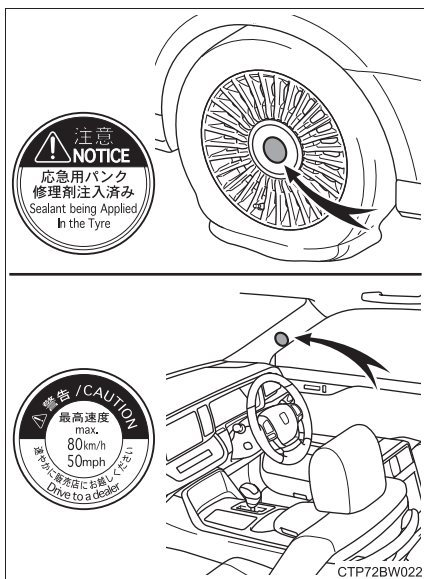
しっかり接続されているか確認してください。



CTP72BW021

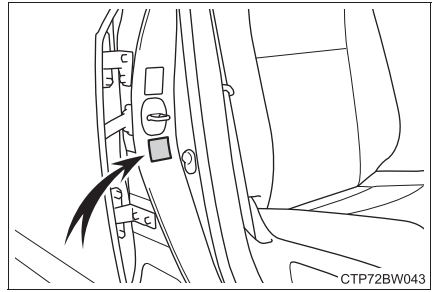
10 付属のラベル2枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



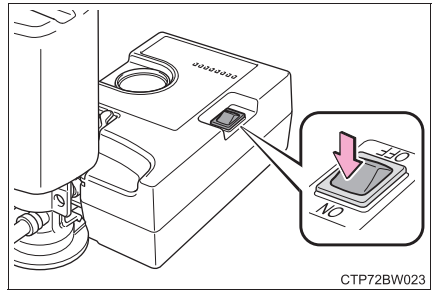
CTP72BW022

- 11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することが
できます。(→ P. 392, 487)



- 12 ハイブリッドシステムを始動する (→ P. 185)

- 13 コンプレッサーのスイッチをON
にし、パンク補修液と空気を充填
する



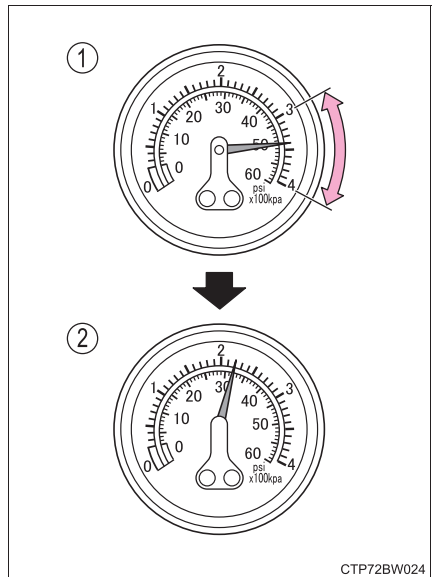
- 14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- ① 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- ② スイッチを ON にしてから1分程度(低温の場合は15分程度)で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

10分以上(低温の場合は35分以上)充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてトヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 392, 487)



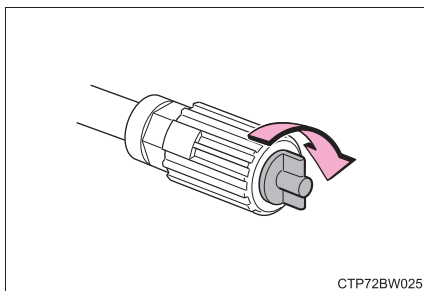
- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

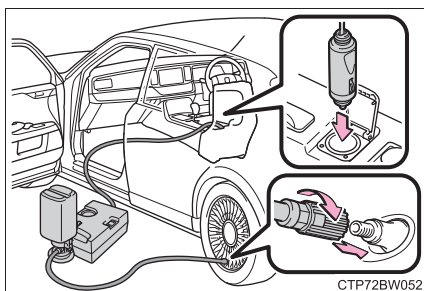


- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、速度80km/h以下で安全に走行する

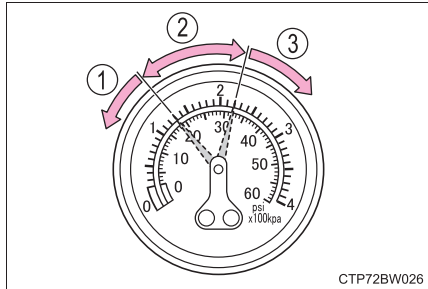
- 20** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ボトルのホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

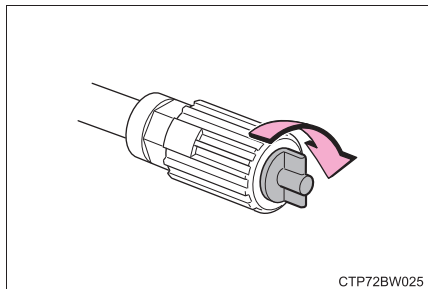
- ① 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。
- ② 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ
- ③ 空気圧が指定空気圧 (→ P. 392, 487) の場合：手順 **23** へ



22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

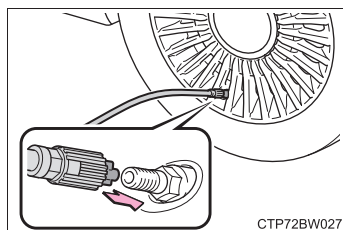
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

 知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす
- 2 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-40℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 **警告****■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 **注意****■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（スペアタイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 388 を参照してください）

警告

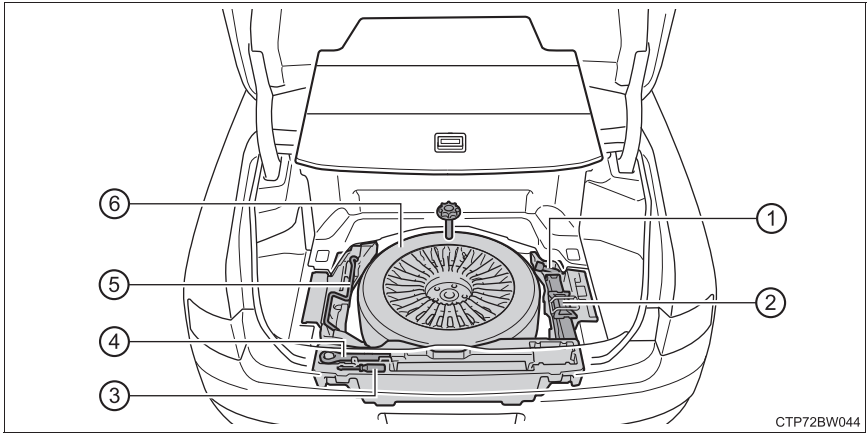
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



- ① ホイールナットレンチ
- ② ジャッキ
- ③ ドライバー

- ④ けん引フック
- ⑤ ジャッキハンドル
- ⑥ スペアタイヤ

警告**■ ジャッキの使用について**

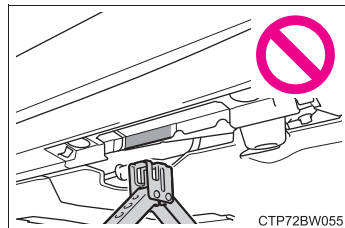
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使
用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に
使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車
を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけ
てから下げる
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキ
アップ時は必ずハイブリッドシステムを停止する

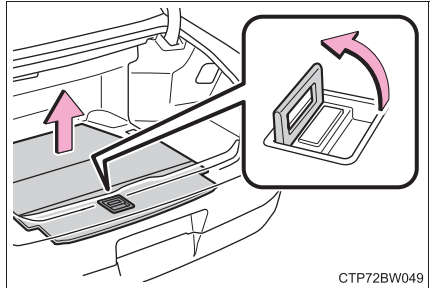
注意**■ ジャッキを使用するときに車体の損傷を防ぐために**

車両うしろ側のジャッキポイント付近にある金具（図で示す位置）にジャッキをかけないでください。車体が損傷するおそれがあります。

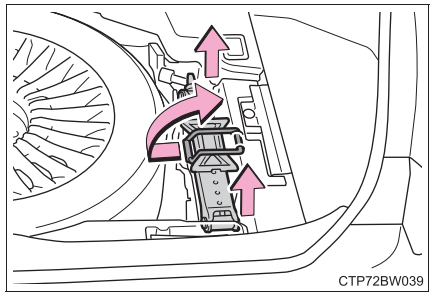


ジャッキの取り出し方

- 1 ラゲージマットを取りはずす

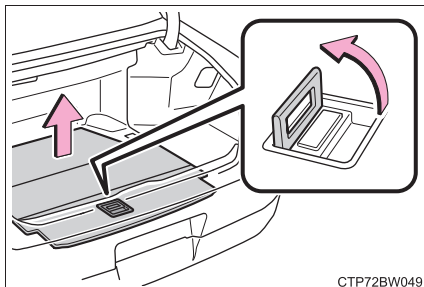


- 2 留め具をはずしてジャッキを取り出す

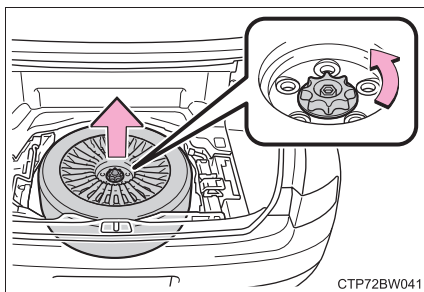


スペアタイヤの取り出し方

- 1 ラゲージマットを取りはずす



- 2 留め具をはずしてスペアタイヤを取り出す



警告

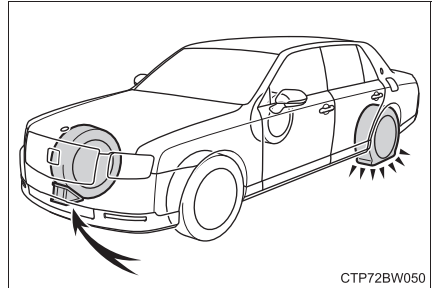
■ スペアタイヤを収納するとき

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

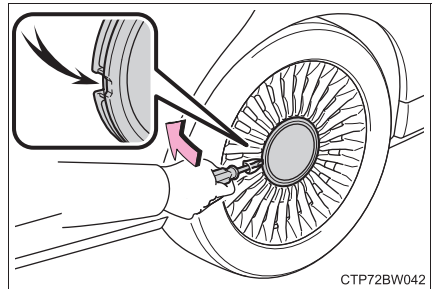


CTP72BW050

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

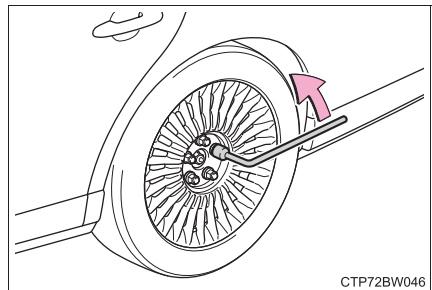
2 マイナスドライバーを溝に差込み、センターオーナメントをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



CTP72BW042

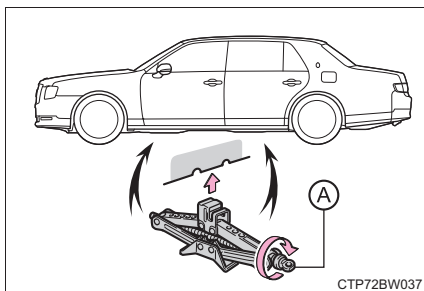
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



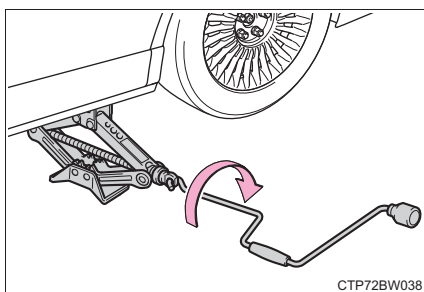
CTP72BW046

- 4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

車両の損傷を防ぐために、正しい位置にジャッキをかけてください。
(→ P. 454)

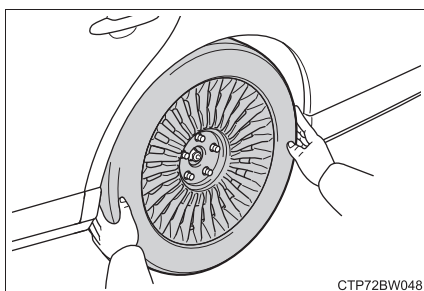


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上に乗せます。



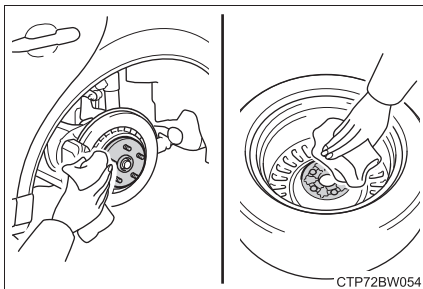
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに 140N・m (1429kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

スペアタイヤの取り付け

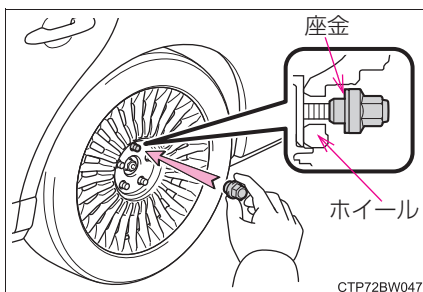
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

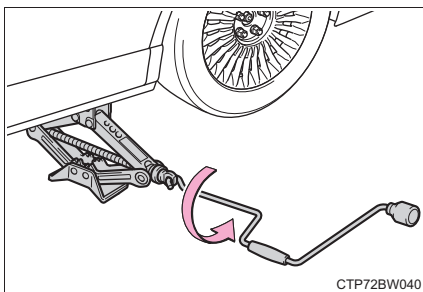


- 2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわす



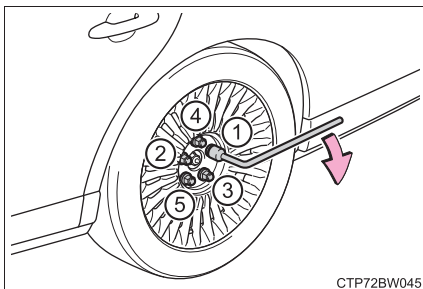
- 3 車体を下げる



- 4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

140N・m (1429kgf・cm)



- 5 センターオーナメントを取り付ける
- 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 **警告**

■ **ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 185）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 466）
- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 78）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 463）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 468）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→ P. 381）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 468）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→ P. 381）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。
- 3 パワースイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

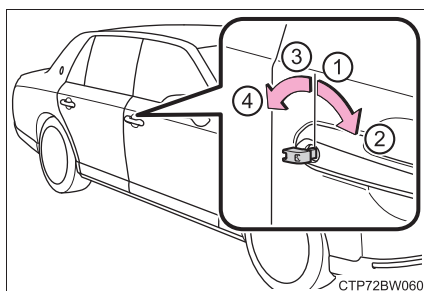
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 134）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

■ ドア

メカニカルキー（→P. 111）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

- ① 全ドア施錠
- ② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
- ③ 全ドア解錠
- ④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※

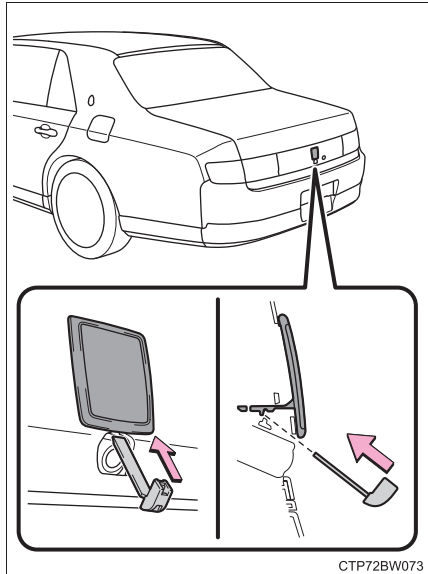


※ トヨタ販売店で設定変更が必要です。（→P. 488）

■ トランク

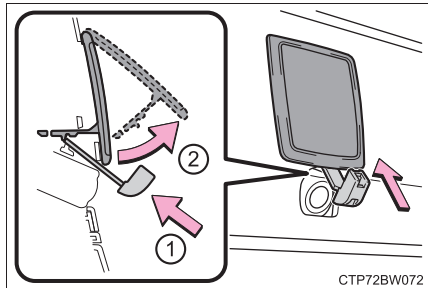
メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→P. 111)

- 1 メカニカルキーを、エンブレムとバックガイドモニターのカメラのあいだに挿し込む



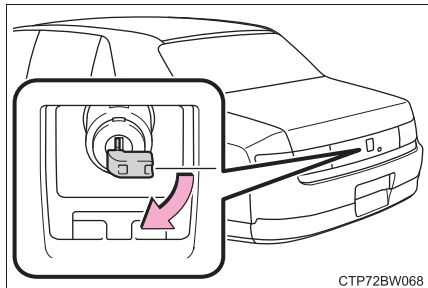
CTP72BW073

- 2 メカニカルキーで爪部を強く押し込みながら、エンブレムを下側から取りはずす



CTP72BW072

- 3 メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



CTP72BW068

- 4 エンブレムを取り付ける

取り付けたあとは、エンブレムがしっかり固定されていることを確認してください。

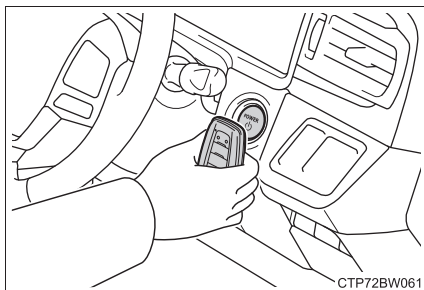
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む


2 電子キーのエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモードへ切りかわります。



CTP72BW061

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する

4 短く確実にパワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 403)

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 186)

■電子キーが正常に働かない場合について

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P. 488)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P. 133)

■トランクエンブレムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、トランクエンブレムが破損する場合があります。ご自身での作業に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ エンブレムの取り付けについて

エンブレムを取り付けるときは、エンブレムで指などを挟まないよう十分注意してください。

 **注意****■ トランクを開けるとき**

- カメラ部を押したり、強い衝撃をあたえないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- バックガイドモニターのカメラ部に、メカニカルキーが当たらないようにしてください。カメラレンズが傷つくと、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

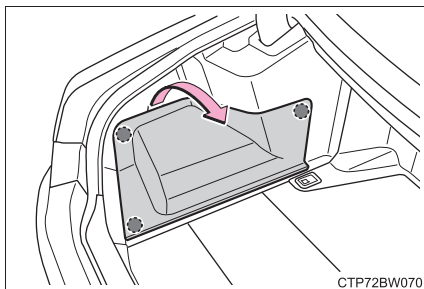
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

- 1** トランクを開け、バッテリーカバーをはずす

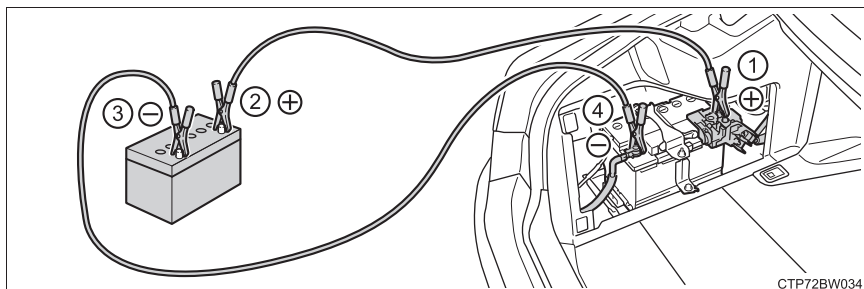
トランクオープナースイッチで開かない場合は、メカニカルキーで開けます。
(→ P. 465)



CTP72BW070

- 2** 補機バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子に届くものを使用してください。



CTP72BW034

- ① 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、自車の補機バッテリーの-端子につなぐ
- 3** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車の補機バッテリーを充電する

- 4 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する。
- 6 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 8 バッテリーカバーを取り付ける
ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■補機バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーについて

→ P. 381

■補機バッテリーがあがってしまったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

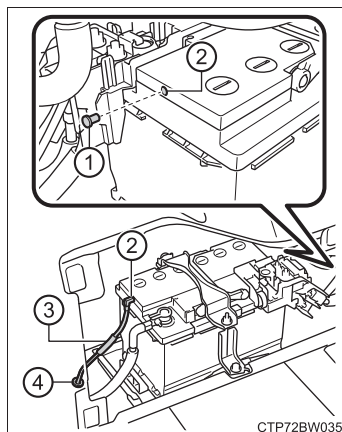
- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがあります。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するときは

- 一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20 時間率容量（20HR）が同等（70Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（600A）以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
- 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

- ・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。
- ・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。）

- ① 排気穴栓
- ② 排気穴
- ③ 排気ホース
- ④ 車両穴部



CTP72BW035

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ 補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

 **警告****■ 補機バッテリーを交換するときは**

交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーの一端子について

ボデー側に接続された補機バッテリーの一端子をはずさないでください。誤ってはずすと+端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯と「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム 高温 出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 高水温警告灯と「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

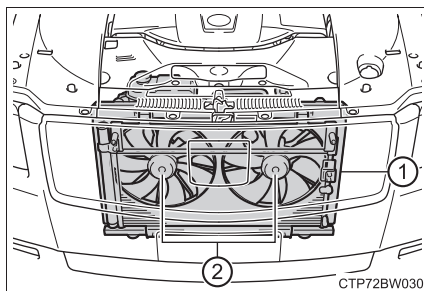
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

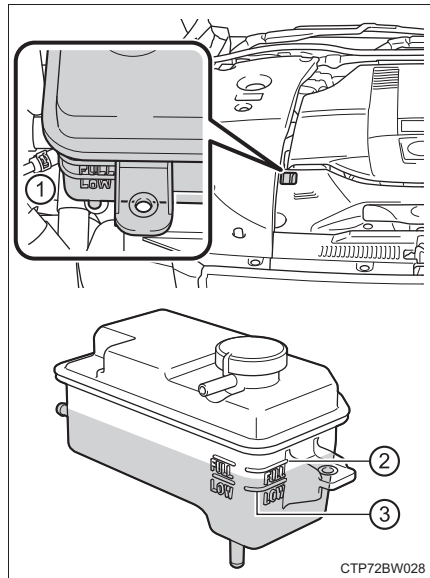
① ラジエーター

② ファン

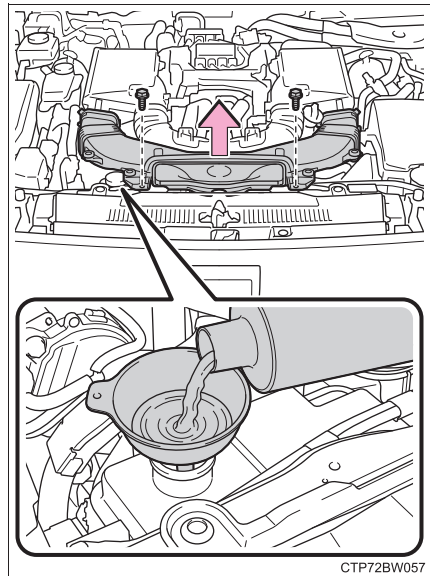
大量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する
- ① リザーバタンク
 - ② “FULL”（上限）
 - ③ “LOW”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 478）
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

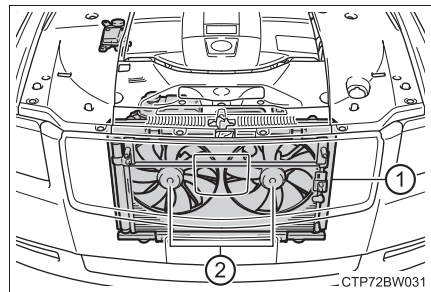
- 7 ファンが作動していない場合：
 すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：
 最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② ファン

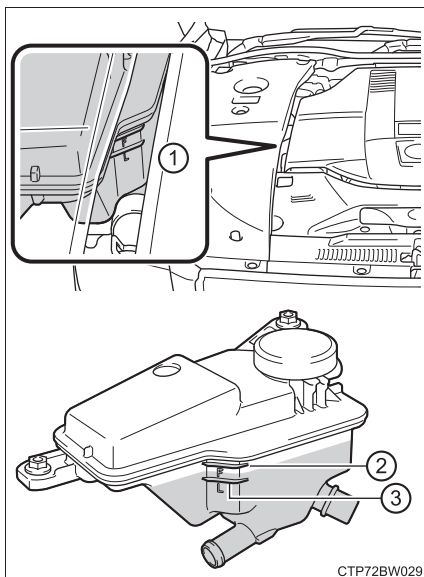
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



—CTP72BW031

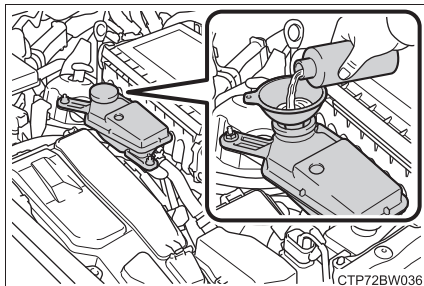
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 385）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

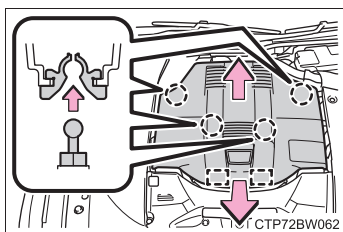
表示が消えている場合：

ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■ エンジン冷却水を補給する前に

エンジン冷却水を補充するときはエンジンカバーを取りはずす必要があります。



警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

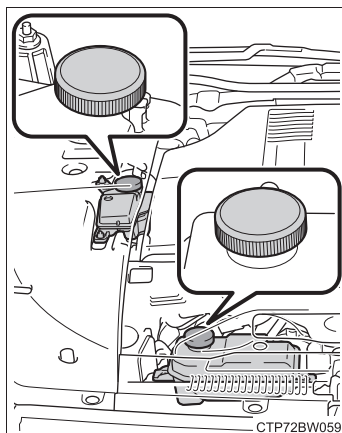
- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。

ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。

高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。



 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

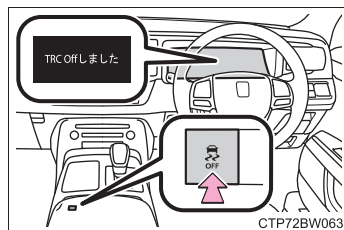
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ 脱出しにくいとき

 を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8**

- 8-1. 仕様一覧
 - メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など)484
- 8-2. カスタマイズ機能
 - ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....488
- 8-3. 初期設定
 - 初期設定が必要な項目498

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	82

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

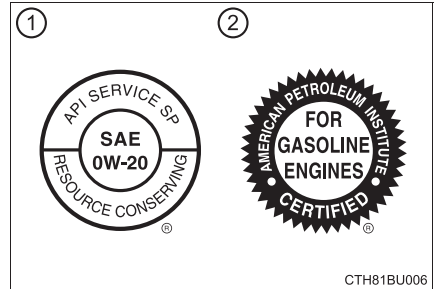
指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, SAE 5W-30	8.8	9.4

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

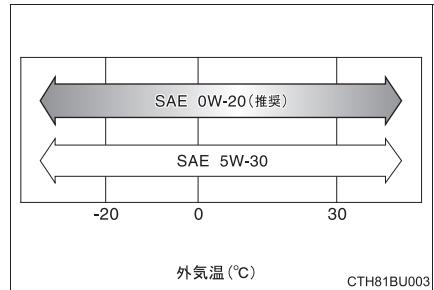
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサクサーティフィケーション) マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します) :

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い (数値が大きい) オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50% - 35°C	11.1	2.5

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正オートフルード WS*	5.5

* 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード BF-5

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	147

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、500N (51kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキパッド

項目	使用限度値 [mm]
ブレーキパッドの厚み	1

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
225/55R18 98H	18 × 7 1/2J	230 (2.3)	240 (2.4)

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N · m (kgf · cm)]
140 (1429)

電球 (バルブ) ※

電球	W (ワット) 数
フロントバニティミラーランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
UWG60	2UR-FSE (5.0L ガソリン)	1KM	FR (後輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。

また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

安全に操作することができる場所に停車し、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけます。


■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 センターパネルの MENU ボタンを押し、「設定・編集」を選択する
- 2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
- 3 「車両カスタマイズ」を選択する
- 4 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整します。

■ リヤマルチオペレーションパネルで設定するには

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」をタッチする
- 2 「左席」または「右席」をタッチする
- 3  をタッチする
- 4 操作スイッチをタッチして設定を変更する

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 95

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- ① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- ② リヤマルチオペレーションパネルで設定変更可能
- ③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 90)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
提案サービス	あり	あり (停車中のみ)	○	—	○
		なし			

■ ドアロック (→ P. 114, 123, 464)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○
車速感应オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	—	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠 (ドアロック連動トランク)	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通
(→ P. 114, 123, 131)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 5	OFF ~ レベル 7	○	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかつたときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	○	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 114, 123, 131)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
解錠されるドアを運転席のみに選択時、ドアハンドルを握って保持することで全席解錠する時間	2 秒	非作動	—	—	○
		1.5 秒			
		2.5 秒			
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 110, 114, 123)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	—	○
トランク解錠時の操作	1回押し続ける(短)	1回押し	—	—	○
		2回押し			
		1回押し続ける(長)			
		非作動			

■ リヤシート (→ P. 146)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドア連動シートリターン機能	あり	なし	—	○	○

■ パワーイーザーアクセスシステム (→ P. 152)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	-	○
		少なめ			
ハンドルの操作	チルトのみ	テレスコピックのみ	○	-	○
		チルト&テレスコピック			
		なし			

■ メモリーコール (→ P. 155)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	-	-	○

■ ドアミラー (→ P. 165)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	-	-	○
		パワースイッチと連動			

■ パワーウィンドウ (→ P. 168)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 210)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整	- 2	- 2 ~ 2	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	パワースイッチと連動	—	—	○

■ ランプ (→ P. 210)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
LED デイライト	あり	なし	—	—	○

■ AHS (アダプティブハイビームシステム) (→ P. 214)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
アダプティブハイビームシステム	あり	なし※	—	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	広い	狭い	—	—	○
		普通	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調節	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	○
		約 80km/h から作動	—	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調節	あり	なし	—	—	○
発進時のコーナーリングランプ点灯	あり	なし	—	—	○
雨天時のハイビーム配光制御	あり	なし	—	—	○
市街地用の配光制御	あり	なし	—	—	○

※ ハイビームとロービームの切りかえのみ

■ BSM (ブラインドスポットモニター) (→ P. 269)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアミラーインジケータの明るさ	明るい	暗い	—	—	○
接近車両を知らせるタイミング (感度)	普通	早い	—	—	○
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

■ エアコン (→ P. 319)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調節	標準	— 3 ~ 3	○	—	○

■ シートヒーター／シートベンチレーター (→ P. 334)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	- 2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	—	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	- 2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	—	○
左側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	- 2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	—	○
右側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	- 2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	—	○
パワースイッチをONモードにしたときの、左側リヤシートヒーター／ベンチレーターの自動起動	なし	あり	○	—	○
パワースイッチをONモードにしたときの、右側リヤシートヒーター／ベンチレーターの自動起動	なし	あり	○	—	○

■ ステアリングヒーター (→ P. 334)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
パワースイッチをONモードにしたときの、ステアリングヒーターの自動起動	あり	なし	○	—	○
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整	標準	- 2 (低め) ~ + 2 (高め)	○	—	○

■ イルミネーション (→ P. 338)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF			
		7.5 秒	○	—	○
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアミラー照明の消灯までの時間	15 秒	OFF			
		7.5 秒	○	—	○
		30 秒			
接近時のドアミラー照明	あり	なし	—	—	○
解錠時のドアミラー照明	あり	なし	—	—	○

 **警告**

■ ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

初期設定が必要な項目

次の項目はメンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	<ul style="list-style-type: none">・ タイヤローテーションを実施した場合・ 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき・ IDコード登録を実施したとき	P. 390

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	500
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	503
アルファベット順さくいん.....	505
五十音順さくいん.....	507

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・ナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・バックガイドモニター
- ・ETCシステム／ETC2.0システム
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 111）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 113）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 403）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 186）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 134）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 118）



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができません。キーを取り出してください。（→ P. 125）

故障かな？と思ったら**ハイブリッドシステムが始動できない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 185）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 188）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 132）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 188）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 466）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 468）

**ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない**

- パワースイッチは ON モードになっていますか？
パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 198）

**ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 188）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 169）

**パワースイッチが自動的に OFF になった**

- 一定時間アクセサリモードまたは ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 187）

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 503）をご確認ください。

**警告灯や警告メッセージが表示されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 425、432 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 437）
- スペアタイヤ装着車
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 452）

**立ち往生した**

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 480）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 432
	シフトレバーがP以外になっている	P. 432
	窓が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 171
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 125
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 403
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 132
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 432

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 115
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 205
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 429
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 197
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 264
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 237
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）を使用している	P. 247
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P. 278
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P. 288

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C	
(エアコン).....	319, 330
ABS	
(アンチロックブレーキシステム).....	299
AHS	
(アダプティブハイビームシステム).....	214
AI-AVS	
(アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブル サスペンションシステム).....	300
AVS	
(アダプティブバリアブルサスペンションシステム).....	300
BSM	
(ブラインドスポットモニター).....	269
ECB	
(エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム).....	299
EDR	
(イベントデータレコーダー).....	8
EPS	
(エレクトリックパワーステアリング).....	300
EV	
(エレクトリックビークル).....	191
FR	
(フロントエンジンリヤドライブ).....	487
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション).....	485
ISOFIX	
(アイソフィックス/イソフィックス).....	48
LDA	
(レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]).....	247
LED	
(ライトエミッティングダイオード).....	210
PCS	
(プリクラッシュセーフティ).....	237
PKSA	
(パーキングサポートアラート).....	276

RCTA	
(リヤクロストラフィックアラート)	288
RF	
(ラジオフリクエンシー)	9
S-VSC	
(ステアリングアシステッドビークルスタビリティ コントロール)	299
SRS	
(サブリメンタルレストレイントシステム)	35
TRC	
(トラクションコントロール)	300
VDIM	
(ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)	300
VSC	
(ビークルスタビリティコントロール)	299

五十音順さくいん

あ

アースポイント	
（バッテリーあがりの処置）.....	468
アームレスト	
（リヤアームレスト）.....	358
アウターミラー（ドアミラー）... 165	
RCTA（リヤクロス	
トラフィックアラート）.....	288
格納のしかた.....	165
操作.....	165
ブラインドスポットモニター	
（BSM）.....	269
ミラーヒーター.....	324
リバース連動機能.....	166
アクセサリー	
コンセント.....	355
アクセサリーソケット.....	354
アクセサリーモード.....	186
足元照明.....	338
アダプティブハイビーム	
システム.....	214
アダプティブリアブル	
サスペンションシステム	
（AVS）.....	300
アナログ時計※.....	358
アンチロックブレーキシステム	
（ABS）.....	299
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯.....	426
アンテナ（スマートエントリー&	
スタートシステム）.....	131

い

ECB	
（電子制御ブレーキシステム）... 299	
イージークローザー	
トランク.....	125
ドア.....	121
EV ドライブモード.....	191
イグニッションスイッチ	
（パワースイッチ）.....	185
位置交換	
（タイヤローテーション）.....	388
イベントデータレコーダー	
（EDR）.....	8
イモビライザーシステム.....	78
イルミネーテッドエントリー	
システム.....	340
インジケータ（表示灯）	
ハイブリッドシステム	
インジケータ.....	88
表示灯.....	83
READY.....	185
インストルメントパネル	
照度調整スイッチ.....	87
インテリアランプ.....	338
インナーミラー.....	163

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

う

ウインカー (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	410
方向指示レバー	200
ウインドウ	
ウォッシャー	221
パワーウインドウ	168
フロントワイパー	
デアイサー	325
リヤウインドウ	
デフォグガー	324
ウインドウロックスイッチ	169
ウォーニングメッセージ	432
ウォーニングランプ	
(警告灯)	81, 425
ウォッシャー	
液の補充.....	387
スイッチ.....	221
タンク容量.....	487
冬の前の準備・点検	309
動けなくなったときは	
(スタック).....	480
雨滴感知式ワイパー	221
運転	
雨の日の運転	175
運転を補助する装置	299
寒冷時の運転	309
正しい運転姿勢	28
手順	174
ハイブリッド車運転の	
アドバイス	307
運転席シートベルト	
非着用警告灯.....	427

え

エアコン	
花粉除去機能	324
曇り取り	
(フロントガラス)	324
「ナノイー」	327
フィルターの交換.....	400
フロントオートエアコン	319
リヤオートエアコン	330
エアサスペンション	297
エアバッグ	35
SRS エアバッグ警告灯	426
お子さまのための注意	36
改造・廃棄	38
作動条件	39
正しい姿勢	28
配置	35
HDMI 端子 ※	
エコドライブ	
インフォメーション	93
エコドライブモード	295
ESPO 画面	106
エネルギーモニター	104
LDA (レーンディパーチャー	
アラート [ステアリング制御	
機能付き])	247
警告メッセージ	255
操作	250
LED デイライト.....	212
電球 (バルブ) の交換.....	410
エレクトリック	
パワーステアリング (EPS)	300
パワーステアリング警告灯	427

エンジン

イモビライザーシステム.....	78
エンジン警告灯.....	426
エンジンスイッチ.....	185
オーバーヒート.....	474
ハイブリッドシステムが 始動できない.....	462
ハイブリッドシステムの 始動方法.....	185
パワースイッチ (イグニッションスイッチ/ エンジンスイッチ).....	185
ボンネット.....	381
エンジンオイル.....	484
警告メッセージ.....	436
冬の前の準備・点検.....	309
メンテナンスデータ.....	484
容量.....	484
エンジンスイッチ (パワースイッチ).....	185
エンジンフード (ボンネット) ...	381
エンジンルーム エンジンルームから 蒸気が出ている.....	474

お

オートエアコン.....	319, 330
オーディオ※	
オートドアロック・ アンロック機能.....	119
オートレベリングシステム (ヘッドランプ).....	213
オーバーヒート.....	474
オープナー 給油扉.....	228
トランク.....	123
ボンネット.....	381
オイル (エンジンオイル).....	484
お子さまを乗せるとき.....	47
ウインドウロックスイッチ ...	169
お子さまの安全のために.....	47
シートベルトの着用.....	32
チャイルドシート.....	48
チャイルドシートの取り付け ...	48
チャイルドプロテクター.....	118
オットマン.....	143
オドメーター ODO/TRIP スイッチ.....	91
機能.....	86

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

か

カーテシランプ	
装着位置.....	338
カーテン	
お手入れ.....	372
リヤガラス.....	361
リヤドア.....	360
カーテンシールドエアバッグ.....	35
カーペット	
洗浄.....	379
フロアマットの取り付け方.....	26
外気温度表示.....	86
回生ブレーキ.....	70
外装の電球 (バルブ)	
交換要領.....	410
買い物フック.....	350
ガス欠になったとき.....	74
給油.....	228
カスタマイズ機能.....	488
型式.....	487
カップホルダー.....	346
ガラスの曇り取り (リヤウインドウ デフォッガー).....	324
ガレージジャッキ.....	384
冠水路走行.....	183
寒冷時の運転.....	309

き

キー.....	110
キーナンバプレート.....	110
キーの構成.....	110
キーレスエントリー.....	114, 123
キーをなくした.....	111, 113
正常に働かない.....	464
施錠・解錠ができない.....	464
電子キー.....	110
電池が切れた.....	403, 464
ハイブリッドシステムが 始動できない.....	466
メカニカルキー.....	111, 464
ワイヤレスリモコン.....	114, 123
キーレスエントリー.....	131
スマートエントリー& スタートシステム.....	131
ワイヤレス ドアロック.....	114, 123
給油	
給油口が開けられない.....	231
給油のしかた.....	228
メンテナンスデータ.....	484
緊急時シートベルト固定機構.....	32
緊急始動機能 (ハイブリッドシステム).....	463

緊急時の対処

オーバーヒートした	474
キーの電池が切れた	403, 464
警告灯がついた	425
警告メッセージが 表示された	432
けん引.....	418
故障したときは	412
車両を緊急停止する	416
水没・冠水したときは.....	417
スタックした	480
電子キーが正常に働かない....	464
ハイブリッドシステムが 始動できない	462
発炎筒.....	414
パンクした	437, 452
補機バッテリーがあがった....	468
緊急停止システム.....	73
緊急ブレーキシグナル	300

く

空気圧 (タイヤ)	487
クーラー.....	319, 330
区間距離計 (トリップメーター) ODO/TRIP スイッチ	91
機能.....	86
靴べら差し.....	364
駆動用電池.....	72
警告メッセージ.....	432
充電について	70
搭載位置	72
冷却用吸入口	73
駆動用電池冷却用吸入口.....	73
曇り取り フロントガラス.....	324
ミラーヒーター.....	324
リヤウインドウ デフォッガー.....	324
クラクション (ホーン).....	161
クリアランスソナー	278
クリアランスランプ (車幅灯)	210
スイッチ	210
電球 (バルブ) の交換.....	410
クリップ フロアマット	26
クルーズコントロール.....	256
クロック.....	358
グローブボックス	343
グローブボックスランプ.....	343

け

- | | | | |
|---------------------|---------|-------------------|-----|
| 警告灯 (ホーン)..... | 161 | 燃料残量..... | 427 |
| 計器類 (メーター)..... | 86 | パーキングブレーキ表示灯 | 428 |
| 照度調整..... | 87 | パワーステアリング..... | 427 |
| 設定..... | 95 | PCS..... | 428 |
| マルチインフォメーション | | プリテンショナー..... | 427 |
| ディスプレイ..... | 90 | ブレーキ..... | 425 |
| 警告灯..... | 81, 425 | ブレーキオーバーライド | |
| RCTA OFF 表示灯..... | 428 | システム..... | 426 |
| ABS & ブレーキアシスト..... | 426 | ブレーキホールド | |
| SRS エアバッグ..... | 426 | 作動表示灯..... | 428 |
| LDA 表示灯..... | 427 | ポップアップフード..... | 426 |
| エンジン..... | 426 | マスターウォーニング..... | 429 |
| クリアランスソナー OFF | | 油圧..... | 425 |
| 表示灯..... | 427 | 警告ブザー | |
| 高水温..... | 425 | RCTA (リヤクロス | |
| シートベルト非着用..... | 427 | トラフィックアラート)..... | 288 |
| 充電..... | 425 | エンジン..... | 426 |
| スリップ表示灯..... | 428 | クリアランスソナー..... | 287 |
| タイヤ空気圧..... | 427 | 高水温..... | 425 |
| 電子制御ブレーキ..... | 425 | シートベルト非着用..... | 429 |
| ドライブスタート | | シフトダウン制限..... | 197 |
| コントロール..... | 426 | 車線逸脱警報 (LDA)..... | 247 |
| | | 充電..... | 425 |
| | | 衝突警報 (PCS)..... | 237 |
| | | 接近警報 (レーダークルーズ | |
| | | コントロール)..... | 264 |

電子制御ブレーキ	425
ドライブスタート	
コントロール	426
トランク開	126
パーキングブレーキ	
未解除走行時	205
ハイブリッドシステム	68
パワーステアリング	429
半ドア	115, 132
半ドア走行時	121
ブレーキ	425
ブレーキオーバーライド	
システム	426
ブレーキホールド	428
ポップアップフード	426
ふらつき警報 (LDA)	248
窓開	171
油圧	425
ランプ消し忘れ	213
リバース	197
警告メッセージ	432
化粧用ミラー	
(バニティミラー)	353
けん引	
けん引されるとき	418
フック	422

こ

コインホルダー	343
交換	
エアコンフィルターの交換 ...	400
キーの電池	403
タイヤ	452
電球 (バルブ)	410
ヒューズ	406
工具 (ツール)	439, 453
後席ディスプレイ ※	
後席ブルーレイディスク	
TM(BD)/DVD プレイヤー ※	
航続可能距離	93, 107
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	410
高電圧部位	72
コートフック	364
コーナリングランプ	212
電球 (バルブ) の交換	410
子供専用シート	48
選択方法	49
取り付け方	61
小物入れ	347
コンソールボックス	344
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	212

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

さ

サービスプラグ.....	72, 75
サイドエアバッグ.....	35
サイドカーテン.....	360
カーテンのお手入れ.....	372
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換.....	410
方向指示レバー.....	200
サイドミラー（ドアミラー）	
RCTA（リヤクロス	
トラフィックアラート）.....	288
格納のしかた.....	165
操作.....	165
ブラインドスポットモニター	
（BSM）.....	269
ポジションメモリー.....	152
ミラーヒーター.....	324
リバース連動機能.....	166
三角表示板収納スペース.....	352
サンバイザー.....	353

し

シート.....	138, 146
オットマン.....	143
正しい運転姿勢.....	28
チャイルドシート.....	48
調整.....	138
手入れ.....	371
パワーイージーアクセス	
システム.....	152
フットレスト.....	144
ヘッドレスト.....	159
ポジションメモリー.....	152, 157
メモリーコール機能.....	155
リヤシートリフレッシュ	
システム.....	149
シートバックポケット.....	358
シートヒーター.....	334
シートベルト.....	30
お子さまの着用.....	32, 33
緊急時シートベルト固定機構.....	32
シートベルト非着用警告灯.....	427
高さ調整.....	31
正しく着用するには.....	30
着け方・はずし方.....	30
手入れ.....	379
妊娠中の方の着用.....	33

シートベルト非着用警告灯	427
シートベルトプリテンショナー	
機能	31
プリテンショナー警告灯	426
シートベンチレーター	334
事故が発生したとき	
(ハイブリッドシステムの	
注意)	76
室内灯 (インテリアランプ)	338
始動のしかた	185
シフトポジション	194
シフトレバー	
シフトポジションの	
切りかえ	194
シフトレンジの切りかえ	196
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	197
操作	194
リバース警告ブザー	197
シフトレバーが	
シフトできないときは	198
シフトロックシステム	197
締め付けトルク (ホイール)	460

車高調整

電子制御	
エアサスペンション	297
ジャッキ	
ガレージジャッキ	384
車載ジャッキ	439, 453
ジャッキハンドル	439, 453
車幅灯	210
LED デイライト	212
電球 (バルブ) の交換	410
ランプスイッチ	210
車両型式	487
車両仕様 (スペック)	484
車両接近通報装置	69
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	416
充電用 USB 端子	356
収納装備	342
仕様 (車両仕様)	484
衝撃感知ドアロック	
解除システム	120
初期設定	498
タイヤ空気圧警報システム ...	390
助手席シートベルト	
非着用警告灯	427

す

スイッチ

アダプティブハイビーム

システム 214

EV ドライブモード 191

イグニッション 185

インストルメントパネル

照度調整 87

ウインドウロック 169

ウォッシャー 221

LDA 250

オーディオ ※

ODO/TRIP 91

給油扉オープナー 230

クルーズコントロール 256

シート調整 138

シートヒーター 334

シートベルト 31

シートベンチレーター 334

シートポジション

メモリー 152, 157

車高選択 297

車間距離切りかえ

(レーダークルーズ

コントロール) 256

助手席パワーシート 139

ステアリング 91

ステアリングヒーター 334

スノーモード 195

タイヤ空気圧警報

リセット 390

電動リヤカーテン 361

電話 ※

ドアミラー 165

ドアロック 116

トーク ※

ドライブモードセレクト 295

トランクオープナー 123

トランクオープナー

メイン 125

パーキングブレーキ 201

パワーウインドウ 168

パワースイッチ 185

ハンドル位置調整 161

非常点滅灯

(ハザードランプ) 413

VSC OFF 301, 302

フォグランプ 219

ブレーキホールド 207

フロントワイパー

デアイサー 325

ヘッドランプクリーナー 227

ヘルプネットスイッチ

パネル ※

方向指示レバー 200

ホーン (警音器) 161

ポジションメモリー 153

メーター操作 91

ランプ 210

リヤウインドウ

デフォッガー 324

レーダークルーズ

コントロール 256

レーンディパーチャー

アラート (LDA) 247

ワイパー 221

スタック	480
ステアリングアシステッド ビークルスタビリティ コントロール (S-VSC)	299
ステアリングヒーター	334
ステアリングホイール (ハンドル)	161
位置調整	161
ステアリングスイッチ	91
ステアリングヒーター	334
パワーイージーアクセス システム	152
ポジションメモリー	152
ステアリングロック	188
解除できないとき	188
ストップランプ (制動灯) 緊急ブレーキシグナル	300
電球 (バルブ) の交換	410
スノータイヤ (冬用タイヤ)	309
スノーモード	195
スピードメーター	86
スペアタイヤ	452
空気圧	487
交換方法	452
スペック (車両仕様)	484
スポーツモード	295

スマートエントリー& スタートシステム	131
アンテナの位置	131
カスタマイズ設定	488
警告ブザー	132
警告メッセージ	132
作動範囲	132
正常に働かないとき	464
節電機能	133
電波がおよぼす 影響について	137
ドアの解錠・施錠	114
トランクの解錠	123
ハイブリッドシステムの 始動	185
スモールランプ 電球 (バルブ) の交換	410
ランプスイッチ	210

せ

清掃	366, 371
外装	366
シートベルト	379
内装	371
ホイール・ ホイールキャップ	367
レーダーセンサー	234

制動灯

緊急ブレーキシグナル..... 300

電球 (バルブ) の交換..... 410

セカンダリーコリジョン

ブレーキ 299

積算距離計 (オドメーター)

ODO/TRIP スイッチ 91

機能 86

セキュリティインジケータ 78

接近警報 (レーダークルーズ

コントロール) 264

センサー

インナーミラー 164

雨滴感知センサー 222

カメラセンサー 234

湿度センサー 326, 329

ライトセンサー 212

レーダーセンサー 234

洗車 366

前照灯 (ヘッドランプ)

オートレベリングシステム 213

電球 (バルブ) の交換..... 410

ライトセンサー 212

ランプ消し忘れ警告

ブザー 213

ランプ消し忘れ防止機能 212

ランプスイッチ 210

前方センサー 234

そ

走行モード

(ドライブモード)..... 295

送信機 (タイヤ空気圧警報

システム) 389

速度計 (スピードメーター) 86

た

ターンシグナルランプ

(方向指示灯)

電球 (バルブ) の

交換 410

方向指示レバー 200

タイヤ 388

空気圧 398, 487

空気圧警告灯 427

交換 452

締め付けトルク 460

スペアタイヤ 452

チェーン 310

点検 388

パンク応急修理キット 437

パンクしたときは 437, 452

冬用タイヤ 311

ホイールサイズ 487

ローテーション

(位置交換) 388

タイヤが空まわりする

(スタックした) 480

タイヤ空気圧警報システム	389
ID コードの登録	391
機能について	389
空気圧バルブ／ 送信機について	389
初期化	390
タイヤ空気圧警告灯	427
タイヤチェーン	309
単位	95

ち

チェーン (タイヤチェーン)	309
チャイルドシート	48
ISOFIX ロアアンカレッジでの 取り付け	64
シートベルトでの固定	62
選択方法	49
チャイルドプロテクター	118
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	201
警告灯	425
警告メッセージ	205
操作	201
表示灯	428
未解除走行時 警告ブザー	205

つ

ツール (工具)	439, 453
----------------	----------

て

提案サービス機能	101
手入れ	366, 371
外装	366
シートベルト	379
内装	371
ホイール・ ホイールキャップ	367
レーダーセンサー	234
ディスプレイ	90
エネルギーモニター	104
警告メッセージ	432
設定	95
ディファレンシャル	486
テーブル	359
テールランプ (尾灯) 電球 (バルブ) の交換	410
ランプスイッチ	210
デフォッガー (リヤウインドウ デフォッガー)	324
電気モーター	72

電球 (バルブ)

交換要領 (外装バルブ)..... 410

ワット数..... 487

点検基準値

(メンテナンスデータ)..... 484

電子キー..... 110

作動範囲..... 132

正常に働かないとき..... 464

節電機能..... 133

電池が切れた..... 464

電池交換..... 403

電子制御ブレーキシステム

(ECB)..... 299

電池交換 (キー)..... 403

電動パーキングブレーキ..... 201

操作..... 201

パーキングブレーキ

表示灯..... 428

警告灯..... 425

冬季の注意..... 309

未解除走行時

警告ブザー..... 205

電動リヤカーテン..... 361

カーテンのお手入れ..... 372

電話スイッチ ※

と

ドア..... 114

イーゼークローザー..... 121

オートドアロック・

アンロック機能..... 119

衝撃感知ドアロック解除

システム..... 120

スマートエントリー&

スタートシステム..... 131

チャイルドプロテクター..... 118

ドアガラス..... 168

ドアロックスイッチ..... 116

半ドア走行時警告ブザー..... 121

ロックボタン..... 116

ワイヤレスリモコン..... 114

ドアカーテシランプ..... 338

位置..... 338

ドアポケット..... 345

ドアミラー..... 165

RCTA (リヤクロス

トラフィックアラート)..... 288

格納のしかた..... 165

操作..... 165

ブラインドスポットモニター

(BSM)..... 269

ミラーヒーター..... 324

リバース連動機能..... 166

盗難防止装置		トランク.....	123
イモビライザーシステム.....	78	イージークローザー.....	125
トークスイッチ※		オープナー.....	123
読書灯.....	340	キー閉じ込み防止機能.....	125
時計※.....	358	クローザースイッチ.....	124
トップテザーアンカレッジ.....	66	警告ブザー.....	126
Toyota Safety Sense.....	232	電子キーが正常に	
LDA.....	247	働かないとき.....	464
PCS.....	237	トランク内の装備.....	349
レーダークルーズ		挟み込み防止機能.....	126
コントロール.....	256	パワートランクリッド.....	123
ドライビングポジション		メインスイッチ.....	125
メモリー		ワイヤレスリモコン.....	123
ポジションメモリー.....	152	トラン克蘭プ.....	125
メモリーコール機能.....	155	トランスミッション.....	194
ドライブスタート		Sモード.....	196
コントロール.....	175	シフトダウン	
ドライブモードセレクト.....	295	制限警告ブザー.....	197
トラクションコントロール		シフトレバー.....	194
(TRC).....	300	シフトレバーが	
		シフトできない.....	198
		ドライブモードセレクト.....	295
		メンテナンスデータ.....	486
		トリップメーター.....	86
		ODO/TRIP スイッチ.....	91
		機能.....	86

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

な

内装	
収納装備.....	342
手入れ.....	371
「ナノイー」.....	327
ナビゲーションシステム※	

に

ニーエアバッグ.....	35
荷物	
積むときの注意.....	184
トランク.....	123, 349
ラゲージネット.....	349

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック).....	480
--------------------------	-----

ね

燃費	
エネルギーモニター.....	104
燃費情報.....	93, 107
燃費画面.....	107
燃料.....	484
給油.....	228
種類.....	484
燃料残量警告灯.....	427
容量.....	484
燃料計.....	86

は

パーキングブレーキ	
操作.....	201
パーキングブレーキ	
表示灯.....	428
警告灯.....	425
冬季の注意.....	309
未解除走行時	
警告ブザー.....	205
パーソナルランプ.....	340
排気ガス.....	46
ハイビーム(ヘッドランプ)	
アダプティブハイビーム	
システム.....	214
電球(バルブ)の交換.....	410
ランプスイッチ.....	211
ハイブリッドシステム.....	68
EVドライブモード.....	191
運転のアドバイス.....	307
エネルギーモニター.....	104
オーバーヒート.....	474
回生ブレーキ.....	70
ガス欠になったとき.....	74
緊急始動機能.....	463
緊急時の停止方法.....	416
緊急停止システム.....	73
駆動用電池冷却用吸入口.....	73
警告メッセージ.....	432
高電圧部位.....	72

サービスプラグ	72, 75	挟み込み防止機能	
事故が発生したとき	76	パワーウィンドウ	169
始動できないときは	462	パワートランクリッド	123
始動方法	185	発炎筒	414
車両接近通報装置	69	バックアップランプ（後退灯）	
充電	70	電球（バルブ）の交換	410
注意	72	バッテリー（駆動用電池）	72
特徴	68	充電警告メッセージ	434
特有の音と振動	71	充電について	70
パワー（イグニッション）		搭載位置	72
スイッチ	185	冷却用吸入口	73
補機バッテリーがあがった	468	バッテリー（補機バッテリー）	
メンテナンス・		搭載位置	381
修理・廃車するとき	71	補機バッテリーがあがった	468
ハイブリッドシステム		補機バッテリーを	
インジケーター	88	交換するとき	471
ハイマウントストップランプ		バニティ（化粧用）ミラー	353
電球（バルブ）の交換	410	バニティミラーランプ	353
ハザードランプ（非常点滅灯）		ワット数	487
スイッチ	413	バルブ（電球）	
電球（バルブ）の交換	410	交換要領（外装のバルブ）	410
		ワット数	487

- パワーウィンドウ 168
 ウィンドウロックスイッチ 169
 警告ブザー 171
 閉めることが
 できないときは 170
 操作 168
 挟み込み防止機能 169
 パワーコントロールユニット 72
 パワー（イグニッション）
 スイッチ 185
 自動電源 OFF 機能 187
 ハイブリッドシステム
 始動のしかた 185
 モードの切りかえ 186
 パワーステアリング 300
 パワーステアリング
 警告灯 427
 パワートランクリッド 123
 パワーリヤシート 146
- パンクした
 スペアタイヤ装着車 452
 タイヤパンク応急修理キット
 装着車 437
 番号灯
 （ライセンスプレートランプ）... 210
 電球（バルブ）の交換 410
 ランプスイッチ 210
 ハンズフリー ※
 ハンドル
 （ステアリングホイール） 161
 位置調整 161
 ステアリングヒーター 334
 パワーイージーアクセス
 システム 152
 ポジションメモリー 152
 メーター操作スイッチ 91

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	299
ヒーター	
オートエアコン	319, 330
ステアリングヒーター	334
ミラーヒーター	324
リヤウインドウ	
デフォグガー	324
シートヒーター	334
非常点滅灯 (ハザードランプ) ...	413
スイッチ	413
電球 (バルブ) の交換	410
尾灯 (テールランプ)	210
電球 (バルブ) の交換	410
ランプスイッチ	210
ヒューズ	406
表示灯	83
日よけ (サンバイザー)	353
ヒルスタートアシスト	
コントロール	300

ふ

VSC (ビークルスタビリティ	
コントロール)	299
ブースターケーブルの	
つながり	468
フォグランプ	219
スイッチ	219
電球 (バルブ) の交換	410
ブザー	
クリアランスソナー	287
シートベルト非着用警告	429
シフトダウン制限	197
車線逸脱警報 (LDA)	247
衝突警報 (PCS)	237
接近警報	
(レーダークルーズ	
コントロール)	264
トランク開警告	126
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告	205
パワーステアリング	429
半ドア	115, 132
半ドア走行時警告	121
ふらつき警報 (LDA)	248
窓開警告	171
ランプ消し忘れ警告	213
リバース警告	197

- フック
 - 買い物フック 350
 - けん引フック 422
 - コートフック 364
 - フロアマット固定フック 26
- フットレスト 144
- フューエルメーター（燃料計） 86
- フューエルリッド（給油口）
 - 給油口が開けられない 231
 - 給油のしかた 228
- 冬の前の準備（寒冷時の運転）... 309
- 冬用タイヤ 309
- ブラインドスポットモニター
 - （BSM） 269
- ブリクラッシュセーフティ
 - （PCS） 237
 - PCS 警告灯 428
- ブレーキ
 - 回生ブレーキ 70
 - 緊急ブレーキシグナル 300
 - パーキングブレーキ 201
 - パーキングブレーキ
 - 表示灯 428
 - ブレーキ警告灯 425
 - ブレーキホールド 207
 - メンテナンスデータ 486
- ブレーキアシスト 299
 - ABS & ブレーキアシスト
 - 警告灯 426
- ブレーキオーバーライド
 - システム 175
- ブレーキフルード 486
- ブレーキホールド 207
- フロアマット 26
- フロントオートエアコン 319
- フロントシート 138
 - オットマン 143
 - シートヒーター 334
 - シートベンチレーター 334
 - 正しい運転姿勢 28
 - 調整 138
 - 手入れ 371
 - パワーイージーアクセス
 - システム 152
 - フットレスト 144
 - ヘッドレスト 159
 - ポジションメモリー 152
 - メモリーコール機能 155
- フロントパーソナルランプ 340
- フロントフォグランプ
 - スイッチ 219
 - 電球（バルブ）の交換 410
- フロント方向指示灯
 - 電球（バルブ）の交換 410
 - 方向指示レバー 200
- フロントワイパー
 - デアイサー 325

へ

平均車速	93, 107
平均燃費	93, 108
ヘッドフォンジャック *	
ヘッドランプ	
オートレベリングシステム	213
電球 (バルブ) の交換	410
ライトセンサー	212
ランプ消し忘れ	
警告ブザー	213
ランプ消し忘れ防止機能	212
ランプスイッチ	210
ヘッドランプオートレベリング	
システム	213
ヘッドレスト	159
ヘルプネットスイッチパネル *	
ベンチレーター (シートベンチ	
レーター)	334

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	452
メンテナンスデータ	487
ホイールナットレンチ	439, 453
方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	410
方向指示レバー	200
ホーン (警音器)	161
補機バッテリー	381
交換するとき	471
搭載位置	381
補機バッテリーがあがった	468
ポジションメモリー	152
保証	9
ポップアップフード	43
ボンネット	381
ポップアップフード	43

* : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ま

マイコンプリセットドライビング	
ポジションシステム	152
マガジンラック	359
マスターウォーニング	429
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	90
運転支援システム情報	92
エコドライブ	
インフォメーション	93
エネルギーモニター	104
LDA (レーンディパーチャー	
アラート [ステアリング	
制御機能付き])	251
オーディオシステム連携	92
警告メッセージ	432
設定	95
PCS	237
PKSA (パーキングサポート	
アラート)	99
タイヤ空気圧	389
提案サービス機能	101
メーター操作スイッチ	91
レーダークルーズ	
コントロール	256

み

ミラー	
インナーミラー	163
ドアミラー	165
バニティミラー	353
ミラーヒーター	324

め

メーター (計器類)	86
警告灯	81, 425
警告メッセージ	432
照度調整	87
設定	95
ハイブリッドシステム	
インジケーター	88
表示灯	83
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	90
メーター操作スイッチ	91
メカニカルキー	111
メモリーコール機能	155
メンテナンスデータ	484

も

モーター（電気モーター）.....	68
モーターでの走行 （EVドライブモード）.....	191

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....	488
雪道ですべて動けない （スタックした）.....	480
油脂類.....	484

ら

ライセンスプレートランプ （番号灯）	
電球（バルブ）の交換.....	410
ランプスイッチ.....	210
ライティングテーブル.....	359
ラゲージマット.....	352
ラゲージルーム （トランク）.....	123, 349
ラジエーター	
オーバーヒート.....	474
メンテナンスデータ.....	486

ランプ

アダプティブハイビーム システム.....	214
インテリアランプ.....	339
コーナリングランプ.....	212
室内灯.....	338
電球（バルブ）の交換.....	410
トランクランプ.....	125
パーソナルランプ.....	340
バニティミラーランプ.....	353
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	413
フロントフォグランプ.....	219
ヘッドランプ（前照灯）.....	210
方向指示灯 （ターンシグナルランプ/ ウインカー）.....	200
ライトセンサー.....	212
ランプ消し忘れ警告ブザー.....	213
ランプ消し忘れ防止機能.....	212
リヤフォグランプ.....	219
ワット数.....	487
ランプ消し忘れ警告ブザー.....	213
ランプ消し忘れ防止機能.....	212

り

リバース連動機能.....	166, 362
リヤアームレスト.....	358
リヤウインドウ	
デフォッガースイッチ.....	324
リヤオートエアコン.....	330
リヤカーテン.....	361
カーテンのお手入れ.....	372
リヤドアカーテン.....	360
カーテンのお手入れ.....	372
リヤクロストラフィック	
アラート.....	288
リヤシート.....	146
シートヒーター.....	334
シートベンチレーター.....	334
操作.....	146
ヘッドレスト.....	159
ポジションメモリー.....	157
リフレッシュシステム.....	149
リヤフォグランプ	
スイッチ.....	219
電球（バルブ）の交換.....	410
リヤ方向指示灯	
電球（バルブ）の交換.....	410
方向指示レバー.....	200
リヤマルチオペレーション	
パネル.....	314

る

ルームミラー	
（インナーミラー）.....	163
ルームランプ（室内灯）.....	338

れ

レーダークルーズ	
コントロール.....	256
接近警報.....	264
レーダーセンサー.....	234
レーンディパーチャーアラート	
（LDA）.....	247
車線逸脱警報機能.....	247
スイッチ.....	250
ステアリング制御機能.....	248
ふらつき警報機能.....	248
メーター表示.....	251
冷却水.....	486
冬の前の準備.....	309
メンテナンスデータ.....	486
冷却装置（ラジエーター）.....	486
オーバーヒート.....	474
メンテナンスデータ.....	486
レバー	
シフト.....	194
方向指示.....	200
ボンネット解除.....	381
ワイパー.....	221

ろ

ロック

- ウインドウロック 169
- スマートエントリー&
スタートシステム..... 131
- チャイルドプロテクター..... 118
- ドア 114
- ワイヤレスリモコン ... 114, 124

わ

- ワイパー & ウォッシャー 221
 - フロントワイパー
デアイサー 325
 - 液の補充..... 387
- ワイパーブレード (寒冷地用) ... 310
- ワイヤレス
 - リモコン 110, 114, 124
 - 作動の合図 115
 - 操作 110, 114, 124
 - 電池の交換 403
 - 半ドア警告ブザー 115
- ワックス 366
- ワット数 487

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

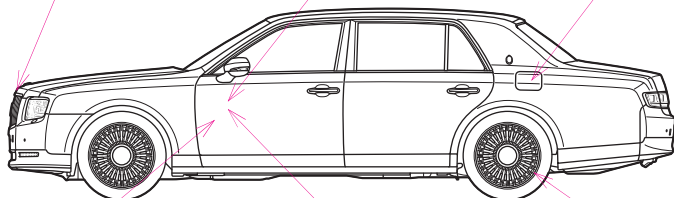
P. 381

トランクオープナー

P. 123

給油口

P. 230



CTPPIBW011

ボンネット解除レバー

P. 381

給油扉オープナー

P. 230

タイヤ空気圧

P. 487

燃料の容量 (参考値)	82L
燃料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) ・ バイオ混合ガソリン (プレミアム) ※ <p>※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン (酸素含有率 3.7% 以下) を使用することができます。</p> <p style="text-align: right;">P. 484</p>
タイヤが冷えているときの空気圧	<p>前輪：230kPa (2.3kg/cm²)</p> <p>後輪：240kPa (2.4kg/cm²)</p>
エンジンオイル容量 (参考値)	<p>オイルのみ交換時：8.8L</p> <p>オイルとフィルター交換時：9.4L</p>
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル P. 484



お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



- ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。
- QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>